

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティ

contactee

SUMMER
1998

141

パプアニューギニアのUFO出現騒動

ホワイトサンズUFO搭乗事件(3)

地球人を救う異星人たち—パトリシア・フィンチ

宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類(2)

「生命の科学」が1万回読破で超能力が発現!

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(4)



CONTENTS (Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness)

〈巻頭言〉 UFOと超常能力	1
パプアニューギニアのUFO出現騒動	久保田八郎 2
ホワイトサンズUFO搭乗事件(3)	ダニエル・フライ 6
〈写真〉ペルーのUFO	11
地球人を救う異星人たち	パトリシア・フィンチ 12
UFO目撃日記(3)	加藤 純一 14
〈写真〉ナザレの超小型UFO	16
私が目標とする宇宙への道	渡辺 康英 17
太陽は熱い天体ではない!	平田 泰介 18
宇宙論の疑惑とニセ宇宙開発報告類(2)	小山 洋一 22
GAP短信	24
科学 SCIENCE	25
「イスラエル聖地遺跡の旅に参加して」	28
精神の高揚でUFOを目撃	今泉 克美 30
「生命の科学」1万回読破で超能力が発現!	池上 正則 32
〈予告〉久保田先生質疑応答会	37
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(4)	ジョージ・アダムスキー 38
盛況UFO写真展/埼玉支部誕生	43
ユネスコ村のUFO写真展と観測会	45
本誌バックナンバー主要記事目録	46
〈予告〉メキシコ・マヤ遺跡の旅	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1969年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究者と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気満ちています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下さい、お送りいたします。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

〈表紙写真〉

1963年6月16日午後3時頃、米ニューメキシコ州ペラルタで、郡のハイウェイ保安要員のアボリジャー・ウィラが衝動を感じて汚い隘道へ入り、乾いた川床の方へ行つたところ、ドーム型物体が着陸しているのを見た。彼はすぐに仕事用のボロロイドカメラを取り出して、浮き上がった物体を連続7枚撮影した。 ©日本GAP

〈巻頭言〉
UFOと
超常能力



去る二月上旬、アメリカ在住の見知らぬ日本人男性から一通の書簡が舞い込んで来た。それによると、その人の知人の知人が地球以外の惑星へ数度行ったことがあるという話を聞いたことがあるという。すぐに返書を出して詳細を知らせようと要請したが、この原稿執筆中の二月中旬現在、まだ返事はない。たぶん取材に手間取っているのかもしれない。カリフォルニア州在住のご本人は、日本の書籍を扱う書店でアダムスキーの訳書を手取りし、内容を読んで大いに感動して編者宛に連

絡したという。

別な惑星から来た宇宙船を一般にはUFOと呼ぶ。これはUnidentified Flying Object (未確認飛行物体)の略称で、日本ではユーフォーと呼ばれているが、英米ではユーエフオーと言っている。しかしこれは未確認どころか、すでに大國政府によって調査研究された結果、別な惑星から来る物凄い性能を持つ宇宙船であることが判明しており、各国ともそれを隠蔽しているにすぎないと言われている。それを裏づける証拠として、実はこの宇宙船

に乗せられて別な惑星に行つて来たという人はアダムスキーばかりではなく世界中に少なからず存在しているらしい。わが国でも編者が知る限り数名はいるが、その中には意外な有名人が含まれている。しかし彼らは黙して語らない。そのような体験を口外しようものなら大変な危険を招くからだ。

この宇宙船がどこから来るかが焦点になるけれども、アダムスキーが伝えた限りでは、我らの太陽系の惑星群から来るのが多いという。「冗談ではない。我らの太陽系の全惑星は不毛の土地で人間その他の生物が住める環境ではないことが科学的に判明しているではないか」と反論する人が多いだろう。しかし国家的なプロジェクトとして科学的な惑星探査を実施した結果、驚異的な現象を発見しても、その裏には政治がからんでいることを見逃してはならない。科学者が国の費用で別な惑星に関して重大きわまりない事実を発見した場合、それが国家の命運を左右するような内容ならば、まず隠すのが当然であつて、あからさまに発表することはあり得ない。特にアメリカの場合、民主党と共和党との熾烈な闘争の背後には利権問題がからんでおり、重大事の真相発表をめぐつて猛烈な主導権の争奪戦があるのだ。

先般来クリントン大統領の不倫問題をめぐつて醜悪な泥仕合が展開したけれども、これも共和党が背後で仕掛け

た異(な)だという説もある。真相はまだ数の中だが、こうした党派間の確執には我々庶民の想像を絶するものが潜んでいるのであつて、何がどうなっているのか訳の分からないのが政治の裏の世界である。

しかしアダムスキー問題は単なる好奇心を誘う程度の問題ではなくて、アメリカの国運がからんだ大事件であつた。一触即発の米ソ間緊張の極に達した当時、ケネディー大統領はアダムスキーをひそかに支持して異星人との友好関係を保持しようと努力したけれども、惜しくも暗殺の悲運に見舞われた。化石燃料を必要としない電磁気による重力場推進法を応用する別な惑星の宇宙船と同じレベルの船体の開発を目指していたらしい。

ここで疑問が生じるだろう。あれほどUFO問題に精通してアメリカの宇宙進出に関する雄大な構想を持つていた大統領を、なぜ進化した異星人達は救出しようとしなかったのか。

これについては秋山真人氏が編者に語った言葉が有益な参考になるだろう。つまり偉大な発達をとげた我らの太陽系の惑星群の人達は、はるかに遅れた地球人の援助に精励しているのだけれども、一方では地球人個々の「自由意志」を尊重しており、それを阻害しないという。アメリカの名高い超能力者ジーン・ディクソンがケネディーの運命を余知して、テキサス州ダラスへ行

くことを中止せよと事前に進言していた事実は一般によく知られている。

だがケネディーは聞き入れなかった。その結果、銃弾に倒れて世界を驚愕させたのである。この場合、異星人達もケネディーの悲運を予知していたのだろうが、彼の強固な意志にまでは介入しなかった。これが宇宙の法則だというのである。

話は核心に入るが、我々はまず自身で自己の未来を予知する能力を持つことが最重要となる。そのためにはテレパシー能力、遠隔透視力、その他のいわゆる超常能力を開発することが急務となる。現在、地球人は一寸先が分からない盲目状態にあるというが、これは各人の肉体内部に潜む本質的な魂を自覚しないからだ。アダムスキーは言う。この魂を彼は「宇宙の意識」と呼んでいる。この宇宙の意識なるものは無限の宇宙空間に充滿しており、それが分与されて人間の固体を生かしているという。詳細は新アダムスキー全集第一巻(中央アート出版社)に詳述してある。どだいUFOや超常能力というのは「子供の童話」どころか人類の未来を左右する最重要な問題なのである。

だが地球社会はいつまでも暗黒ではないだろう。EUの通貨統合、各種の世界平和運動その他の活動は未来の地球社会一体化の先駆をなすものだろう。希望を持ち続けたいものだ。(久)

ニューギニアのパプアのUFO出現騒動

★久保田八郎 (日本GAP会長)



▲パプアの祭りで盛装した婦人群。 ニューギニア航空提供

南太平洋のパプアニューギニアに頻繁にUFOが出現して大騒ぎになったことがある。しかも島に超低空に降下した円盤状物体に複数の人間が乗っていて、住民に手を振って友好的態度を示したのだ。時は四五年前の一九五三年頃から五九年頃までの間で、時代は古いがUFOの実態を示す有力な実話なので、ここに掲載した。

出現第一号の不思議な物体

ニューギニアはオーストラリア大陸の北側に位置する世界第二の大島で、中央から縦に国境線が引かれ、西側はインドネシアの統治下にあつてイリアン・ジャヤと呼ばれ、東側は元オーストラリア領だったが、七五年、パプ

ア・ニューギニアとして独立した。首都はポートモレスビー。東方沖にはソロモン海が展開し、ソロモン群島付近は太平洋戦争中、日米の一九四二年の珊瑚海海戦、三次にわたるソロモン海戦、カダルカナルの日本軍撤退作戦その他の大決戦で壮絶な死闘の舞台になった。いまは鎮魂の歌も消え果てて平和な島々が夢のように浮かぶ南海のパラダイス。このパプアに戦後まもない頃、不思議な円盤型物体が出現するようになった騒ぎが広がったのである。

五三年八月二三日の昼前、当時ニューギニアのパプア地区にある民間航空局局長としてポートモレスビーに駐在していたT・P・ドルーリー氏が、夫人や子供たちと共にポートモレスビーの飛行艇基地に立っていたとき、空中に一点の雲が現われて、それが急速に膨れ上がり、その中から銀色の矢のような物体が飛び出た。それは細長くて金属のようにキラキラ光っていた。翼などはなく、ジェット機の五倍以上の高速で急上昇して、白い飛行機雲を残

しながらやがて青空の彼方に消えた。
ドローリー氏は大変なベテランパイロットで三二種類の飛行機を操縦した経験があり気象学者でもある。

氏はオーストラリア空軍にも報告したが説明不可能な奇怪な物体としか言えなかった。これがその後続くパプア上空におけるUFO出現事件の第一号となり、ニューギニアUFO研究史に残ることとなった。絶対に飛行機ではない不思議な物体だったと、氏は断言している。平たい円盤状の物を真横から見ただけに細長く見えたのか、あるいは大母船だったのか詳細は不明である。

こうした場合、現地で見もしなかった人間が「飛行機か星を見まちがえたんだ」と簡単に否定するのは愚の骨頂である。こうした無責任な発言で貴重な目撃事件が簡単に葬り去られた例は枚挙にいとまがない。

南海の怪光体

五五年の五月のある夜、医師のネスパー博士がポートモレスビーの西のユール島に滞在していた。海でひと泳ぎして帰宅しようとしたとき、月の半分もある大きな円盤型物体が、ガスライタールックツクス管のような緑色に輝きながら、約一分間ゆっくりと動いて消えた。自宅に帰ると夫人も見たと言う。

次に目撃した重要人物は、パプア航空会社の支配人クリフォード・ジャクソン氏。彼は五六年頃、パプア湾のイディア島で仲間と夜釣りをやっていた午前一時か二時頃、赤く光る大きな丸い物体が西の海上約一五度の上空に現われるのを見た。

その物体は月よりも大きくて明るかったけれども輪郭はぼんやりしていた。見ている人たちに近づいたり遠ざかったりして三〇分ほどしてから消えた。

まだある。五七年一月六日付けのポートモレスビーの新聞サウス・パシフィック・ポスト紙に載った記事によると、民政局長代理のJ・K・マツカーク氏の発表によれば、巡視将校とヨーロップ人四人は、正体不明の怪光を放つ物体が二〇分間、彼らの船の近くを動き回るのを目撃したという。この将校V・エスデル氏は八月二四日、政府のトロール船エロス号で二二諸島を航海中に右の怪光物体を見た。

パプア地区はUFO銀座

五八年にはパプア地区のあちこちでUFOの出現が頻繁に発生するようになった。以下列記する。

●二月上旬、ポートモレスビーのジャクソン空港上空に赤い怪物体が出現。空港の職員たちは何度も見た。その物体は北東から高度約六一メートルまで降下して、空港上空を横切り、急上昇

して消えた。まるで滑走路を検査するようにして低空を飛び去った。

●五八年六月、大きさも色も月に似た円形の物体が、ミルン湾地区のサマライに近いシディア島のカトリック教会の上空に五分間停止した後、空中に消えた。五人の生徒も同時に目撃した。

●一〇月八日、パプア地区のUFO事件研究者ノーマン・クラットウェル神父の義弟で、病院の院長兼主任牧師のJ・K・ヒューストン博士が、五九年一〇月八日、夕方の礼拝が終わった午後六時三〇分頃、まだ明るい空に星のように輝く光体が南から北へ、かなりの高速で飛行するのを見た。

●その夜、博士たちが空を見上げてみると凄く輝く緑色の火球が現われて、非常に高速で北から南へ飛んで、やがて音もなく消えた。

まだ沢山の目撃例はあるのだがここには書ききれない。

一九五八年はパプアにおいてUFOのオンパレードの年になった。当初はグッドイナフ湾近辺に頻出したのだが、六月になって頂点に達した。なんと円盤が超低空に降下して、異星人たちが手を振るといふどうえらい事件が発生したのである。

UFO、大挙して飛来!

六月二六日、宇宙からの訪問者が大挙して飛来したのだ! その舞台はボ

イアナイである。ここはオーエンスタンレー山脈のふもと村で、UFOの出現で有名になった。この村はグッドイナフ湾の南側にある。この海岸にはカトリックのボイアナイ全聖者伝道本部があり、本部長はウィリアム・ブリス・ギル神父。四六年にイギリスからパプアへ赴任した。彼が目撃大事件の中心人物となったのだ。

驚いたギル神父が親友のアイダン校長デイビッド・デュリー神父にあてた報告によると次のとおりだ。

「昨夜、ボイアナイではUFOが四時間も飛び回っていました。何者かに操縦されていたことは間違いありません。

●ボイアナイの海岸。 ニューギニア航空提供



まったく息をのむほどの見物みぶつでした。その記録を同封しますから見て下さいい」

◎六時五二分 UFOが降下する。一

五〇メートル？ オレンジ？ 黄色？

◎六時五五分

円盤の上部で何者かが動く。人間か？ 甲板

で乗員が三人、光りながら作業中。隠れる。乗員二人見える。また

◎七時

隠れる。七時一〇分乗員四名。青いスポット

ライト。二機目のUFOが海上

◎八時二九分

に出現。もう一機ワドブナ上空

◎八時三五分

また一機東方。

◎八時五〇分

大型機（母船？）接近。

◎九時五分

二、三、四号機消える。

◎九時一〇分

母船消える。赤く輝く

◎九時二〇分

一号機雲に入る。母船また現われる。

◎九時三〇分

青。母船消える。白、赤、

◎九時四六分

UFOまた頭上に出現。

◎一〇五〇分

一面の雲。UFO見え

◎一一時四分 大雨となる。終わり。これには署名入りのスケッチが数枚添えてあり、三八人の目撃者の二五人が署名している。円盤は遠くでは白く、近くではオレ

ンジ色に光って見え、表面は金属のよう
うで、上甲板は基部より少し狭く、一
種の脚があり、ときどき青い光線を約
四五度の角度で空に照射していた。窓
が四つあったという人もいた。

上甲板では乗員が四人、出たり入つたりをくり返していた。宇宙服のようなものを身につけていたかどうかは分からぬ。円盤も乗員もオーラのよう
な輝きに取り巻かれていたが、彼らの
体や機体の輪郭と、このオーラのあい
だには一定の幅の隙間があり、けつし
て接触していなかった。皮膚の色が識
別できるほど近距離ではなかつたが白
人らしく、衣服を着ていたとすればそ
れは体にびつたり合ったものに違ひな
かつた。

手を振る円盤の乗員たち！

翌日の二七日には円盤は前夜よりも
早目にやって来た。ギル神父の報告で
は、バプア人の看護婦アニー・ローリ
ー・ボレワが昨晚とほぼ同じ場所に
一機の大型円盤が空中に停止している
のを発見した。午後六時頃だったとい
う。ボレワはすぐにギル神父に急報し、神
父は教師のアナニアス・ララタを呼ん
だ。円盤の形は前夜と同じだったが、
遠いせいか少し小さく見えた。ギル神
父の報告は次のとおり。

「円盤の上部に人影が見えた。四人だ。
たしかに人間だった。昨夜のUFOと

同じものだと私は思った。付近には
小型円盤も二機停止していた。

大型円盤の乗員の一人は手すりにも
たれてこちらを見下ろしていた。私が
手を上げると、驚いたことに、その人
も同じ動作をするではないか。アナニ
アスが両手を上げて振ると、今度は二
人が同じことをした。アナニアスと私
が手を振ると四人とも手を振ってこれ
に応じた。皆は大きな息をついた（喜
びのあまりか驚きのあまりか、たぶん
両方だろう）」

こうして何分間か交歓をくり返すう
ちに彼らは興味を失つたらしく、姿を
消してしまった。青いスポットライト
が数秒間ずつ二度点灯された。

午後七時に目撃者全員は夕方の礼拝
に出席したが、四五分後に教会から出
てみると、空は雲に覆われて円盤は一
機もいなかった。

円盤の大きさについてギル神父が計
算したところでは、乗員の身長を普通
（約一八〇センチメートル）とすれば、
円盤の直径は基部でおよそ一一メート
ル、上甲板で六メートルになるとい
う。六月二八日の夕方六時四五分頃か
ら一機のUFOが現われた。それはし
だいに増えて午後一時には八機がポ
イアナイ上空を乱舞したけれども、高
度がかなり高く、人影も見られなかつ
た。一一時二〇分頃、鉄板を落とした
ような鋭い金属性の大音響が響いた。
一一時には皆寝室へ入ったが、UFO

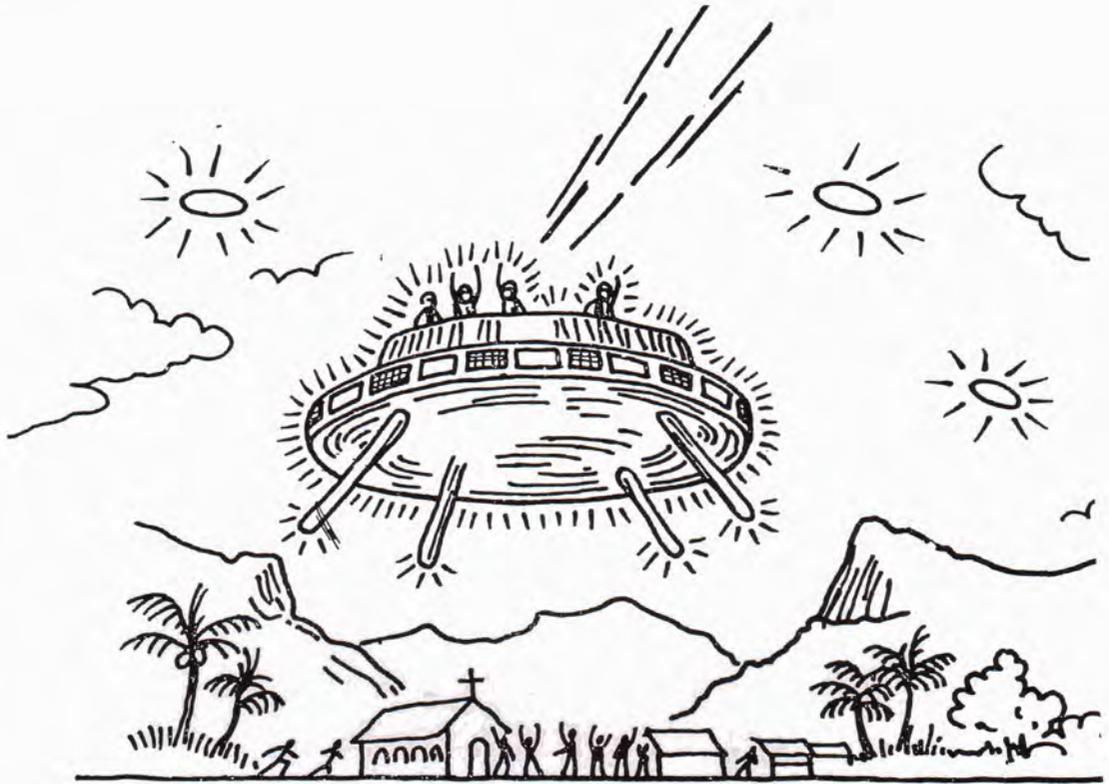
はまだ上空を乱舞していた。その後は
ポイアナイの空は静けさをとりもどし
て、UFO出現事件は終焉しんげんを告げた
ようである。

真相を隠す理由

右の重大事件でオーストラリア・ビク
トリア州空飛ぶ円盤協会のピーター・
ノリス会長が一九五九年九月に空軍情
報部に書簡を送って、ポイアナイ事件
に関する見解を聞いたところ、F・
E・ラング中隊長の署名入りで次のよ
うな回答をよこしたという。

「ギル神父以下三八名が目撃した物体
は有人航空機類ではないと確信します。
方位と角度を分析した結果、光体のう
ち少なくとも三個は木星、土星、火星
であると思われます。光の屈折と熱帯
の複雑な気象状態のために光体が運動
したように感じられることがありま
す」

UFO問題に精通した直感力の発達
した人はこの報告に憐憫の情をもよほ
すか、または軽蔑するかもしれない。
だが空軍の報告なるものはこれが普通
なのだ。というのはいし中隊長が「あ
れは真実のUFOだったと確信する」
と発表しようものなら本人は即座にク
ビになるからである。したがって内心
ではUFOであることを知っていても
絶対に本心を明かさない。これが軍閥
係者の常套手段である。日本の空自



▲1959年6月27日、バプアのボイアナイに出現したUFOと乗員たちの劇的な光景を、目撃者たちの証言にもとづいてノーマン・クラットウェル神父がスケッチしたものの。



▲上の図のUFO出現を目撃した証人2名。左からボイアナイ伝道本部付看護婦のデイジー・コラウム嬢とアニー・ポレワ嬢。2人はクラットウェル神父に詳細を語った。

でさえも、UFOの出現に対して戦闘機がスクランブルをかけてから地上に帰還したとき、パイロットのUFO追跡報告を内容通りには絶対に発表しない。その場合の決まり文句がある。「あれは鳥だった」。

筆者注：本記事の写真で女性の上半身丸見えのものがある。これについて写真提供関係者の意見を聞いたところ、現地では普通の格好であるので掲載して差し支えないとの回答があった。

ホワイトサンズUFO搭乗事件(3)

ダニエル・フライ／久保田八郎訳

(前回までのあらすじ)

一九五〇年七月四日の夜、米ニューヨーク州ホワイトサンズのロケット実験場で技師として活動していたダニエル・フライは、暑さに耐えかねて砂漠地帯へ散歩に出かけたとき、突然空中から不思議な円形の物体が眼前に降下して着陸した。驚いている彼の耳にどこからともなく人間の声が響いて、地球の科学の誤りその他について英語で説明し始めた。フライは茫然として聞くのみ。この物体は別な太陽系の惑星から来た宇宙船らしい。やがて彼はそれに乗ることをすすめられて、信じられないような超高速でニューヨークを目指して無音で飛行したのである。この物語は実際に発生した驚異的事件として世界のUFO研究界にシヨックを与えた。この記事は生前に彼から翻訳権を与えられた訳者による全訳の第三回目である。

ジェットコースターや飛行法の説明

(あと数分間でニューヨークの上空へ

来ますよと異星人の声が聞こえてから説明を続けた)

「高度を約三二キロメートルに下げましょう。あなたが乗っている宇宙船は人間の輸送用に作られたものではないから(フライが座っている小部屋は緊急時用の設備にすぎない)、私たちの母船でやっているような完全な負の重力補正をする必要があるとは考えられなかったんです。その結果、下降を始めるにつれて地表の方向に加速されるでしょう。だからあなたの体重は少し減ってきますよ。そのために気分が悪くなるような加速度を落としてあげましょう」

私は少し胃が上がってくるような感じがした。これは速度の遅いエレベーターで下降するときの感じに似ている。この感じは約三〇秒続いたにすぎない。やがてまた私の体重は正常になった。「あなたはあと一分もすれば適当な高度に降りられるような一定の加速度で下降しているでしょう。もちろん進行の安定には正の重力加速度を伴います。しかしあなたはそれを感じないでしょ

う。あなたは重力の変化によってさほど困らなかつたようだが、地球人はまだ飛行機用のGの補正装置を開発していませんから、あなたは私たちよりもこんな変化に強いのだらうと思いますね」

私は答えた。「この程度の変化で私がくたびれると思うなら、われわれのローラーコースターに乗ってみるか、スクアートジョブに乗ってアウトサイドループでもやってみるといいですよ!」

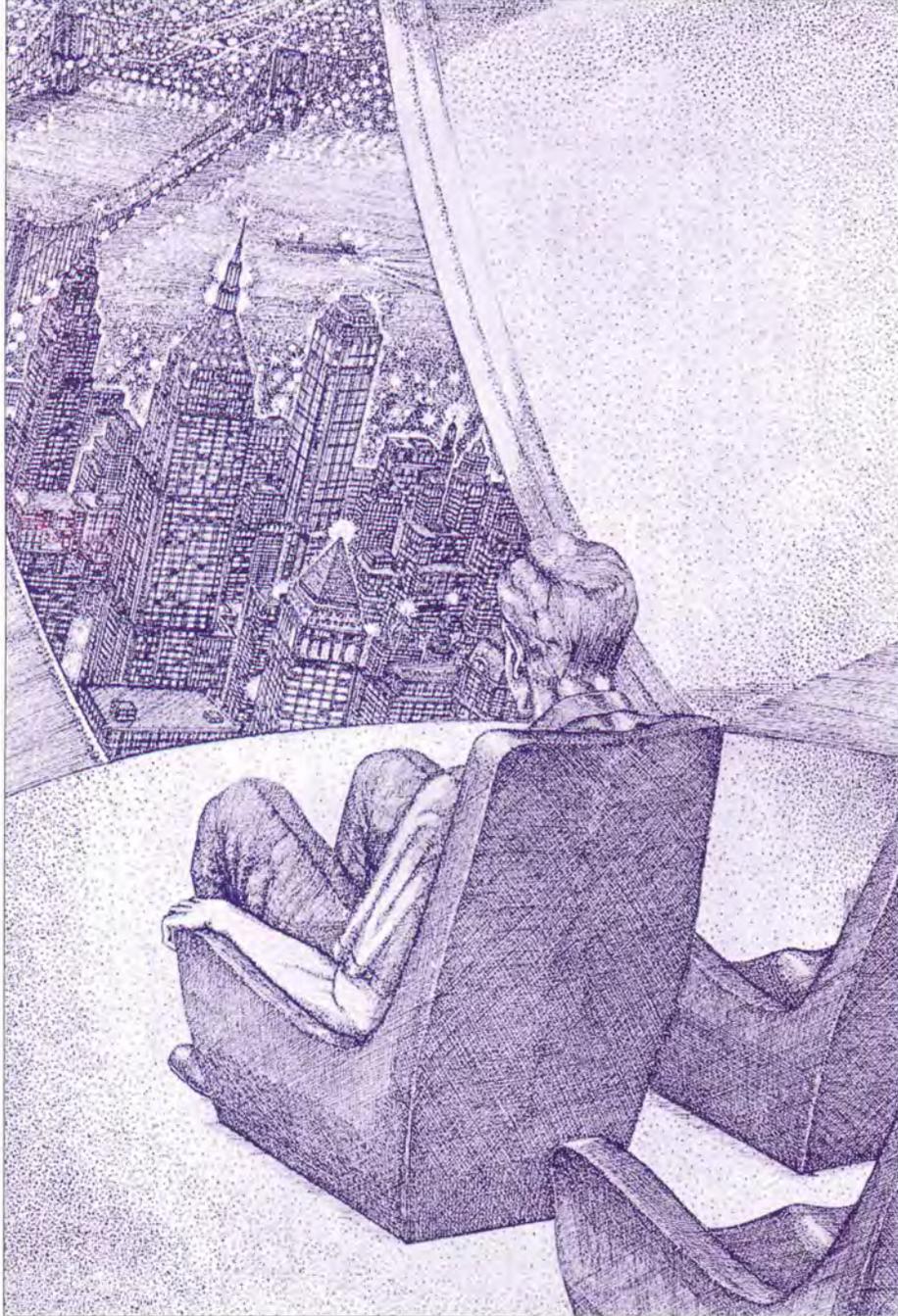
相手は答えた。「ちよつと待ちなさい。あなたはわれわれの弱みにつけこんでいるようだ。私の英語に対する理解は完全だとうぬぼれていたのですがね。あなたは意味の分からない言葉を二つほど使いましたね。その意味を説明してくれませんか」

「ローラーコースターとスクアートジョブのことですか? ローラーコースターというのはアメリカの遊園地に見られる機械仕掛けのことですよ。それは乗客用の座席がついた低いオープンカーから成っていて、乗客がつ

かまるための手すりが付けてあります。鋼鉄の車輪があつて、それが高い鉄骨の上に敷かれた二本の鉄レール上を走ります。

乗客が座席に座ると、沢山連結されたオープンカーは軌道上の可動チェーンに連結されて、チェーンがカー全体を最高の位置まで引張り上げる。そこからカーが切り離されて、あとは重量まかせとなる。カーは急角度で急降下し、やがて地面まで降りてからふたたび出発地点の高さに急上昇する。こうした急上昇と急降下が何度もくり返される。それに急傾斜の短い半径の旋回部分が数カ所あるし、最後に乗客は出発点に帰ってくる。そしてカーはスリルを求める別な乗客と入れ替えられるんです。

これに乗って起こる爽快な気分は、重量の急速な変化を感じた脳の反射部分が血液中にアドレナリンを放出することによって起こるんです。これは肉体が突然の危険にさらされた場合には、いつでも起こるんですが、コースターの場合には本当の危険はないことが分か



イラスト／池田雅行

つています。そこで乗客は実際の危険にさらされることなしにアドレナリンによって引き起こされる刺激を楽しむことができるんです。

スクアートジョブというのはアメリカの俗語で、ジェット機の一つを意味します。あなたはこれらを研究するのに十分な機会があったはずだから、よ

く知っていると思うんですがね。

アウトサイドループというのは飛行法の一つです。飛行機が宙返りをするのですが、そのとき機体の上部が、描く円の外側になるようにするんです

(訳注)普通の宙返りは上昇しながら操縦席が背面になるように円を描くが、アウトサイドループは操縦席を上側に

して前方へ落ちるように円を描く。航空隊用語では「逆宙返り」という)「有難う」と声が答えて「あなたを直接コンタクトの手段として選んだのは間違っていないかったですね。

壮麗きわまりないニューヨークの夜景

あなたはいま約三二キロメートルの高度にいてニューヨークは眼前に展開しています。あなたの円盤は北西側から接近していて、このコースを飛び続けるはやがて市の北東端の海に達するでしょう。そこで市街を旋回して西方へ進行することになります。と同時に円盤は旋回しますから、透視スクリーンはいつも市街の中心にむけられるはずで、あなたの円盤の速度は時速約九〇キロに落とされますから、もつと景色を楽しむ時間がもてますよ

もし私が作家か詩人であつたら、眼前にゆつくりと回っている世界最大の都市として目に映るこの光景について、ちよつとした腕を發揮するところだが、私は作家でも詩人でもなく、言葉をあまり知らず、貧弱な文章しか書けないたんなる技術屋にすぎないので、それを試みることは絶望に近い。

約三二キロメートルの高度なら灯火がもつと明るくて、それより高空から見ると個々にはつきりと識別でき

た。

これは数個の火花を放つ輝く炭層どころではなく、数百万個の青白いダイヤモンドをちりばめた巨大な衣装であつて、黒いピロイドを背景として燦然ときらめいているのだ。眼下の各種の異なる温度は円盤の急速な運動と結びついて灯火群を激しくきらめかせている。だから市街全体が脈動してチラチラ発光する海となっているのだ。

テレパシーの受信法

私は思った。

「自分が芸術家なら、これはわが生涯の最大の瞬間となるだろう。だが私の知識欲は純粹な美的価値を大きく超えているにちがいない。この光景は確かに美しく、空中旅行は興味あるものだったが、それでも母船に五分間乗ることができれば、まだそのほうがいいな」

「残念ながらあなたを母船に乗せる準備をするほどの時間がないんですよ。しかし、あなたが言ったように、もしあなたが母船内に乗ったら、あなたの体と一緒に空気を持ち込むことになるんです。それで十分な時間があれば、われわれは地球人が海中へもぐるときに着るような服を準備できたはずですよ。そうすればあなたは地球の空気もわれわれの空気も変化させないで母船に乗れるでしょう。しかしそれにはかなりの時間がかかりますよ。」

私たちは地球人のように時間の奴隷にはなりません、それでも自然の異なるエネルギー源から基本的に推進エネルギーを取り出す宇宙船に乗っているし、地球人の船乗りと同じように、しばしば、潮流に乗って航行する。必要があるんです。

私たちはまもなくこの地域を離れねばなりません、数カ月以内に地球へ

もどって来ます。私たちが惑星に帰っているあいだにあらゆる空気と混ぜるための地球の空気を十分に貯えたんです。地球へ帰って来たらふたたびあなたとコンタクトしましょう」

「でもその頃には私はホワイトサンズの実験場にいませんよ」と私は答えた。「ここで仕事が終わってから私はカリフォルニアへ帰らねばならないんです。ところで私はあなたの名前を知らないんですが、あなたがたは一定の名前を持っているんですか？」

「名前は持っていますよ。ただし私たちのあいだでは名前を使う必要はめつたにないんですがね。もし地球人の一員になるとすれば、アランという名を使うでしょう。これはあなたの国では普通の名前だし、ア・ランという私の名前とほぼ同じです。」

あなたがカリフォルニアへ行く話ですが、私たちがこちらへ帰って来てもあなたとは今とまったく同じようにコンタクトできますよ。前にも言いましたように、あなたの心はうまく他人の想念をキャッチしますからね。実際のところ、あなたが心中のイメージを分析する練習をもう少しやってくれたらあなたは母船に乗らなくても、私たちの母船の細部を（遠隔透視によって）お見せすることができるようですがね」

私は言った。

「それはうんとやってみたいですね。向上するのに最良の方法は練習をする

ことですからね。母船の細部が手始めとしてむつかしすぎれば、私がいままでしている円盤の細部に関して徹底的に私をテストしたらどうですか。私が目を開けて精神統一すれば、少なくともこの円盤の断面を見ることができるといいますか？」

「まずだめです」とアランは少しそつげなく答えた。

「一般地球人がESP（超感覚的知覚力）と言っている現象を試みるときに、ほとんどいつもおかししている誤りをあなたもおかしていますよ。まず第一に、それは全く、超感覚ではないんです。それは各感覚器官と同様に肉体の普通の知覚装置の一つと同じなんです。ただし地球人はそれを使用しないために、まだ発達の初歩的な段階にあります。」

地球の動物や昆虫の多くは人間よりも高度にこの感覚を発達させています。

あなたは生まれたときから目をあけたままでイメージによる印象をキャッチしたり分析したりすることに慣れていきます。あなたが初めて顕微鏡の使用法を学んだとき、接眼鏡は一つしかなくとも両眼を開いたままで覗くほうがよいと教えられましたね。だから両眼を閉じてはいけません。透視ビームを切ることにしましょう。そうすれば心が乱れるような影響はなくなるでしょう。

次に精神を集中させてはいけません。テレパシーの精神集中は送信の態度で

あって、受信にとっては完全な障害になります。正しく受信するには完全なリラクゼーション（心身をゆったりさせること）の状態になる必要があります。あなたはこれをやれる能力を持っています。地球人のある種族のなかでこのいちじるしい能力を持っているのがいますよ。

実際、私が初めてあなたの心とコンタクトしたのは、この能力によったのです。それは三夜前でした。あなたはベッドに帰ったが、その日の出来事の心痛があまりに大きかったために眠れなかつたでしょう。そこで、あなたは私にとって非常に興味ある精神的な方法を応用しました。その簡単さと効果的な点で興味があつたのです。覚えていきますか？」

「覚えていきますよ。すぐ寝つかれないときには時々それを応用しているんです。完全な暗黒の部屋のイメージを心に描いて、その部屋の向かい側の壁面に一〇個の光る数字があるとします。次に他のあらゆる想念が意識から排除されるまで、これらの数字に心を集中するので、一つ消すごとに集中の

度合いを弱めてゆきます。そうすると普通ならまだ数個の数字が残っているあいだに眠り込んでしまうんです。しかしどんな場合でも、私は最後の数字が残っているあいだに眠り込んでしま

うんです」

「そのとおりです」とアランが答えて

「そしてこの方法は頭在意識をリラック
クスさせるばかりでなく、他のあらゆる
想念を潜在意識の戸棚の中に返らせ
ることになります。こうした状態下で
は頭在意識がやるよりも、はるかに容
易に潜在意識は送受信を行なうんです。
私はそれを認めることを恥ずべきで
しょうな。だが、あなたの場合誘惑が
大きすぎて抵抗できなかった。人間の
心はこれまですみずみまで探知された
ことはないでしょうが、私はあなたの
心ですみずみまで探知したのです。だ
から、あなたが自分自身について知っ
ているよりも、私はあなたのことをは
るかによく知っている」と断言できま
すよ

テレパシーで船体の構造を透 視する

暗くされた部屋のイメージを描く必
要はなかった。というのは、透視ビ
ームが切られたために、私が乗って
いる円盤の小部屋は完全な暗黒になっ
たからである。私は透視スクリーン
の部分に光る数字のイメージを描く
のに困難を感じなかったが、私の意
識の端をしっかりとたき続ける多
くの疑念を排除しようとしたとき、
実際にはそれが不可能なのを知
った。結局私は疑惑を完全に払い
のけることをあきらめて、できるだけ
遠くの方へ押しやるようにし、
数字を消しはじめた。習慣の力とい
うものは恐ろしく、心の中で数字を消す

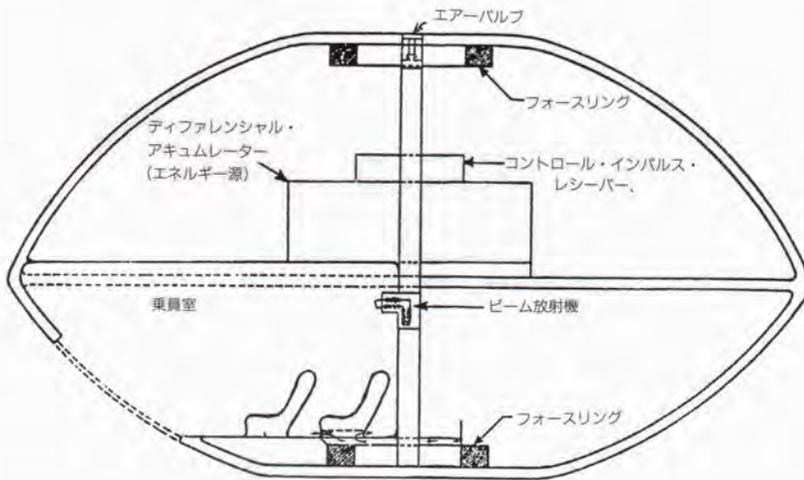
につれて心が澄んできたので、最後の
数字に達するまでにはほとんど眠りか
かっていた。

最後の数字を消してから私は透視ス
クリーン上に一つの絵があるのに気づ
いた。それまで知らなかったものであ
る。ずっとそこにあつたかのように思
われたが、どうやら私は初めて見るら
しい。その絵の左手の部分に私が乗っ
ている小部屋があるのに気づいたし、
この絵は円盤全体の内部を現わしてい
るらしいことに気づいた。

一つの声が響いてくるのを聞いたが、
今度は遠くから聞こえてくるようだ。
その声は全く違っていたにしてもアラ
ンの声であることが分かった。以前の
声は歯切れのよい鋭い声だったが、今
度のはやわらかくて流れるような音声
で、音楽的な性質を帯びている。

「あなたは円盤の各部とそのメカニ
ズムを見ているんです。それをあなたの
心がつかむことができるんです。中央
の隔壁の真上にある大きなドラム状
の物はダイファレンシャル・アキユム
レーターです。これは基本的に蓄電池で
、利用し得る多くの自然エネルギー
ダイファレンシャルのどれからもチャ
ージできるんです。チャージできる
のは、電位差はアキユムレーターの二
つのポール間で生じる。両ポールの材
質はあなたの想像以上に多量の電子を
帯びている。制御機構がこれらの電子
を船体の上部と下部に見える二個のフ

フライに乗った宇宙船の断面図



オーリングを通じて流れ出させる。動く電子が磁場を作るとは電気力学に精通しているあなたには分かるでしょう。フォースリングを通じて出る莫大な電子がきわめて強力な磁場を作る。磁場の方向や大きさは各リングによって制御できるし、単リングによって数種類の方向にも制御できるので、逆になるフィールドかまたは進行に使用しようとする磁場に関連した一つのフィールドを作ることができ。このことは一定のフィールドに関して船体の姿勢の制御もできることになるんです。

円盤推進の基本原則

運動している物体のすべては今述べた理由によって周囲に磁場を持っています。つまりあらゆる物質は電子を含んでおり、運動している電子は磁場を作り出す。地球の磁場はその重力場にくらべてたいそう弱い。強いフィールドに対する加速が、弱いフィールドに反発することによって生じることが、あなたには理解しにくいかもしれない。あなたが二個の永久磁石の同じ極か反発する極同士を近づけるとどうなるかとか、磁力線がその普通の位置に対してほとんど垂直に外側へ押し出される様子などを思い出してごらん下さい。そのように円盤のフィールドも外部へ広がって、それが地球のフィールドの力線と交差して必要な反発力を生じる

ことになるんです。

あなたは小さな人間用小部屋の中で息苦しくなることなく長く呼吸できる理由を考えていたかもしれません。二個の座席の各下部に一種のメカニズムを持った小さい通風孔があるのが見えるでしょう。この通風孔が貨物室から人間用小部屋へ空気を流通させているんです。この円盤内では空気を入れ替える必要はありません。貨物室内の大量の空気が、緊急時には長時間、充分な酸素を四人の乗員に供給することになっています。

デイファレンシャル・アキウムレターの真上に見えるケースには制御装置が入っています。これについては特に言うことはありません。あなたはもう多種類のリモート・コントロール装置と自動制御についてよく知っているからです。我々の装置はあなたの方の物よりも簡単に信頼できるんですが、ここでもその操作法をあなたに理解させるには、数時間にわたる物理学の方向転換を必要とするでしょう。

奇妙なシンボルマーク！

さあ、時間がなくなってきた。我々はあなたが乗っている宇宙船を往路よりも少し速いスピードで帰させたいです。あなたはもう出発点の真上近い所に来ているですよ。我々とはちがって、地球人はいろいろな重力を体験するこ

とによって、ある程度の喜び、または「スリル」を感じるらしいから、お望みなら下降中に無重力つまり「自由落下」とでもいふべき状態をつくりだしてもいいですよ。

この状態に達すると人間は不快になって、少し危険にもなるでしょうが、我々はかなり接近できますからあなたが安定を保っているあいだに無重力の感じを体験するでしょう。

空中旅行がほとんど終わったという突然の感じが起こって、宇宙船に乗って以来私がひたっていた夢うつつの状態から目覚めたのである。

すぐに船室の明かりがつけられた。今までの完全暗黒の後なので、明かりが目くらみそう。両眼をライトに慣れさせようとしていると、胃が突然胸の方へ突き上げられた。

一瞬私は心臓が喉の下部につかえて脈打っているのを強く感じた。一方、他の上部の器官は両耳を通り抜けて押し出ようとしているかのようだ。私は飛行機で急降下やその後の急角度の水平飛行をやったことがあるし、無重力の感じを起こさせるように作られた多くの遊園地の装置に乗ったこともあるが、このような感じは初めてである。

それは落ちるという感じではない。ひどい緊張から開放された私の体の各器官が、まるで引つ張られたゴムバンドが急に縮まったように上方へ飛び上がったのを感じただけである。

幸いにもこの感じは長く続かなかつた。数秒間で私はふたたび普通の状態に返った。「さほどの無重力状態でもないな」と思った。そして椅子の両側を両手で強く押しつけてから、ゆつくりと、やや優雅な態度で立ち上がった。頭が船室の天井に届きそう。いや、もっと優雅だったかもしれない。ただし体の重心を後ろにかけていたために立ち上がったときに前方へよろめいて、体を左へ回してしまった。

降下し始めた頃までには大体にうつむいて、手を伸ばして右側の椅子の後ろをつかまねばならない。そのために椅子の中で膝で体を支えねばならず、目は背もたれから数センチしか離れていない。

そのときだ。はじめに船内へ入ったときに気づかなかつた物を見たのは！それは椅子に刻まれた単純な模様につきなかつたが、そのマークを認めて大きな精神的ショックをおぼえたのをアランが恐怖または苦痛と誤解したにちがいない。というのは、重力加速がすぐに正常にもどって、全身のあらゆる器官が内蔵へ正しく割り当てられた空間を占めようとした別なつらい体験をしたからである。

「何だ？」

アランの声が聞こえる。初めてはつきりとした関心を示したらしい。

「ああ、あなたはそのマークに気づいたようですね。」 (以下次号)



●ペルーのUFO

1967年3月のある日の午後4時から5時までの間、ペルー、ユンガイで、リマから来たアウグスト・アランダが、アンカシュ山系の高い丘で、カメラを持ちながら巨大なサボテンを探して歩いていたとき、突然、2機の奇妙な飛行物体が出現し、彼に関心を示しているかのようにつきまとった。物体が上空を旋回しているとき、彼は4枚の良好な写真を撮影した。これはその内の1枚。

©日本GAP

地球人を救う異星人たち

パトリシア・フィンチ

久保田八郎訳

Space People Are Helping
To Save Earth People
by Patricia Finch
Translated by Hachiro Kubota

イギリスのデヴォン州でUFOと宇宙思想研究団体「アクスミンスター・ライト・センター」を主催するパトリシア・フィンチ女史は昔からアダムスキー派UFO研究者で記者とは多年情報交換仲間であった。この記事は近着のニューズレター八三号掲載記事の翻訳。八〇歳になる彼女の迫力が横溢する名篇である。以下はスエーデンの二名の研究者の質問に応えたスペースビープルからの回答。

異星人アルテムからのメッセージ

別な惑星群から来る私たちは多くの点で地球人を援助しています。私たちはさまざまな使命で地球の上空に滞在していますが、そのなかにはすでにあなた方が知っている人たちもいます。彼らは核実験の影響による汚染を除いて大気を清浄にしていますし、地球の宇宙飛行士たちが月へ往復するとき、その通路の空間に存在する宇宙塵を除きしています。

私たちの宇宙船は地球上の多くの様相を観察しています。つまり市場や戦争に関する地球人の諸状態や、あなた方の生活全体を構成する他の諸活動などを見ているのです。

また私たちはあらゆる階層の多くの地球人に正しい考え方を印象づけるようにしています。これは平和と理解を促進するためですし、真実の知識を広めるためです。

私たちは地球の地球物理学的な諸状態を綿密に観測していますが、特に時として地震が大打撃を与えるような大断層を観察しています。また、地球の海底の大規模な土地が位置と高度を変えつつありますので、海底の活動も観察されています。以上は観察活動の一部ですが、これに関しては地球救済活動に従事している異星人の指導者たちに報告を行なっています。

別な太陽系から未発達な宇宙船も来る

こうしたスカウトシップ類(小型宇宙船)は巨大な母船から送り出されるのですが、この大母船は地球の高空に滞空しており、通常は地球人の目には見えません。ときたま地球から数マイル以内に降下することがあって、そのときだけは大母船を見ることが出来る。人たちによって目撃されます。

そうです。それは事実なのです。こんなことを言うのは悲しいことなのですが、別な太陽系から来て地球を訪れる宇宙船が存在するのですけれども、そのなかにはこの使命を持つ私たちと共に行動しないで混乱を引き起こすものもあります。それらは利己的な理由だけで来ているのもありますし、ときには純粹に科学的な理由で来るものもあります。そのなかには科学的に非常に進歩しながら精神的には未発達な宇宙船もいます。私たちは彼らの飛来に干渉できません。それは私たちの管理外にあるからです。

宇宙船の大船団が来る理由

あなた方のコンタクトによって関心を生じている宇宙船団は、近い未来に地球への訪問のために準備されている大編成宇宙船団の一部です。これらの一部分はいわば前衛部隊で、予言され

ているように地球の清浄化の後、秩序、平和、友愛等を復活させるために仲間と共に地球へ来ることになっている聖なる異星人たちの一部です。

このことがいつ発生するかは正確には言えませんが、明白な理由としては、地球人類が核戦争に走らないで、世界の諸問題や危険事態への平和的解決をもたらすように努力する限り、そして地球世界の動乱が完全に排除されないにしても最小限度にとどめられる可能性が生じるならばのことです。

しかしさまざまな出来事や状態を人類が処理しきれないことが分かかってきて、彼らが多くの諸問題に対する解答を見い出せない場合、しかも恐怖をもつて互いに戦争で攻撃するならば、このことは多くの変化をもたらすでしょう。そして究極には宇宙船の大船団が地球と関連した最後のな使命を帯びて飛来するでしょう。

地球人を救うスペースビープル

いわゆる兄弟愛というのは、高次元な世界にいるさまざまな大師や人間たちから成り立っています。彼らは、悲惨な状態にあつて助けを求めて泣き叫んでいる地球人を援助するために私たちと共に活動しています。この太陽系の別な惑星群の私たちが、別な太陽系群やこの銀河系の外側にいる銀河系群から来る人たちは、地球の人たちに奉



◀ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡で撮影した特殊な型の大母船。昔氏から訳者に贈られた写真。©日本GAP

仕するために彼らの命令のもとに進んで活動しているのです。こうして、皆さん方がスペースビープル（異星人）と呼ぶ人々の一部の人たちは、別な次元に住んでおり、私たちよりもはるかに賢明な人々の指導のもとに人類を援助するために地球へ来ています。

私はあなた方が出した質問に答えました。この回答が地球上の別な国のあなたの友人たちを援助できることを望んでいます。あなたの少数の書簡で伝えるよりも、友人たちのまじめな研究と調査に役立つと思われる二〜三冊の書物の内容をお友達に伝えてあげてください。

「こちらはアルテムです。ゾアとチアノンはもっか異なる周波数で仕事をしています。というのは、彼らは今夜、この特殊な地域をパトロールするのは別な使命を帯びているからです。ご存じのように、私たちと直結しているオールライトセンターズはときどきその上空に宇宙船が滞空していることがあります。以前にお伝えしましたように、あなたのセンターは『呼び出し所』みたいな所で、コンタクテイーのなかにはこのことを知って興味を持つ人があるかもしれません。というのは、私たちはいわば番犬みたいなもので、必要とあれば、センターのまわりに保護のフォースフィールドを放射することもできます。このことは、混乱を引き起こそうとするネガティブな要素

からの干渉は存在しないという理由にもなりません」

以上の内容について我々は以前に公開しなかった。まだ多くの興味深い通信がファイルされているが、正しい発達ともっと多くの情報を望む人たちのために提供することにした。

訳注 以上の異星人通信はテレパシーによるもので、いわゆる霊界通信ではない。フィンチ女史はイギリスの名門の家柄出身で、若い頃は修道院で教育を受けてその後はパブリックスクールで英語の先生をやっていた。したがって訳者に送ってくれた録音テープで聞いた彼女の英語は格調高いロイヤル英語であった。女史は一種の超能力者であるらしく、彼女の過去世で着物を着た日本人の若い少女であった時期があると伝えてきたことがある。

彼女は昔、ロンドンで行なわれたアダムスキーの講演を聴いたということである。それは非常に素晴らしい内容で、アダムスキーの体験について全く疑惑の余地のないものであったと述べていた。ただしアダムスキーの英語がアメリカ発音のために最初はよく理解できず、慣れるまでに時間がかかったと言っている。高齢のフィンチ女史は現在病弱で寝たり起きたりの生活らしいが、定期的にユーズレターを発行する気力には脱帽のほかない。長生きを期待したい。

UFO目撃日記[®]

加藤純一

日本GAP
東京本部役員幹事

一九九七年二月
●七日(金) 快晴。都内B地区にて四
五階建てビルの上空を飛ぶ小型の球
体UFOを目撃。時間は午後三時四七
分〜四九分の間。不思議なことに船体
の色が白からピンク、透き通るような
白、銀色に変化し、最後はグレーに変
わっていった。東から西へ飛んでいっ
た。

●八日(土) 本部役員副幹事の津田氏
と今後の活動について打ち合わせをす
る。その後M公園へ移動して黎明会と
合同でUFO観測会を行なう。電車で
の移動中に都内M市の上空に不思議な
雲(スカウトシップ型)が出現。津田
氏がカメラで撮影。
○一八日(火) UFO出現に関する予
知夢。夢の中で本部役員の岡田君達が

「UFOが出た!」としきりに言っ
てくる。すると突然目の前に黄金色に輝
く金星のスカウトシップが出現する
という内容だった。その日の午前一時
頃のこと、仕事中に岡田君からPHS
に電話が入る。たった今、頭上の空に
UFOが出現しているという。なんと
朝方に見た夢と同じように現実にもU
FOが出現したのだ!

しかも今度は午後三時一〇分頃に都
内T地区にて超低空で飛ぶ小型円盤を
自分で目撃。形状は銀色のメロンパ
ン型円盤で、前方にぐるんと回転しな
がらゆつくりと飛んでいる。カメラを用
意すると同時に急スピードで飛んで行
った。

●予知夢とスペース・ブラザーズ、そ
して大宇宙思念法について。

このエルサレムにおける目撃につ
いて改めて詳細にお伝えしたい不思議な
現象があります。それは八月二四日
(日)に二人の異星人女性の夢を見た
ことに関連しています。今回のような
宇宙的な夢を見る前夜には大抵、大宇
宙思念法を行なっています。

大宇宙思念法といえれば昨年の一
月から現在まで毎日(正確には毎晩です
が)続けております。これは久保田先
生とのある約束からはじめたことで
すが、以前この件に関して久保田先生に
お聞きしたところ、御自身が現在も超
健康でGAP活動を続けられているの
はこの大宇宙思念法によるところが大

きいと話されておりました。

また、私自身はこの大宇宙思念法に
よって以前にも増してスペース・ブラ
ザーズ(UFO)の波動をより確実に、
そして強く感じられるようになったこ
とも事実です。このような日々の体験
からも、たとえほんの少しずつでも一
つのことを継続してゆくことが大切な
のだということがわかってきました。

さて、UFO出現の前に予知夢を見
ることは比較的頻度が高いのですが、
スペース・ブラザーズが直接出てくる
夢は非常に稀で、多くの場合特別な理
由があったり、重要な示唆が含まれて
います。一九八九年と九五年には夢の
中に度々スペース・ブラザーズが登場
し、いずれもその前後に実際にお見
かけしております。

九〇年には久保田先生と共にイスラ
エルのティベリア湖畔で(先生に教え
ていただくまで全く気付かなかつたの
です!)、九五年には米、カリフォル
ニアのユニバーサルスタジオにて異星
人(女性)の方を(詳細は本誌一二九
号「ロスで見かけた異星人女性」を参
照)お見かけしました。この時は久保
田先生も別な場所での存在に気付い
ています。先生によると入場時からず
つと旅行団の周りについていらっしや
つたとのことでした。しかしこのよう
な場合、先生は相手の存在に気付いて
も決して「あの人は他の惑星から来た
異星人だ」などとこっそり教えて下さ

ることはありません。ましてや彼等も
自分からは決して名乗りをあげません。
この点において我々が扱うこの宇宙問
題は非常に厳しいものだと考えるでし
ょう。彼等の存在に気付くためには結
局自分を磨くしかないので。月並み
な表現ですがスペース・ブラザーズや
UFOを目撃する度にその思いは強く
なります。

さて、夢の話に戻りますが、偶然に
もこの日はイスラエル旅行第一回目の
説明会当日でした。この不思議な夢の
内容は、まず突然四角いセピア色のス
クリーンに二人の女性が現われたので
すが、二人ともオーソンのような宇宙
服を着ています。ただし見えるのは上
半身だけで、そのうちの一人は九〇年
にティベリアで久保田先生とともに実
際にお見かけしたあの異星人女性の方
だという印象を受けました。しかし話
しかけてきたのはもう一人の女性の方
で、この時「あ、新しい人(担当)
だ」と、ふと思ったことを覚えていま
す。

そして異星人女性は「エルサレムで
待っています。」と短いながらもつ
きりと言われました。あっさりとした
一言を述べてこの夢(映像)は終わり
ましたが、実はこの時点ではイスラエ
ル旅行へは参加しないつもりでした。
しかし今になって考えてみると、まる
でその異星人女性も久保田先生も私が
結局イスラエルに行くことをあらかじ

め知っていらつしやつたのだらうか、
と思いをめぐらせております。
彼女が残したメッセージ、「エル
サレムで待っています。」という言葉
はエルサレムで度々出現したUFOと
▲一九九七年二月二日、筆者が神奈川県K
市の自宅前で連続五枚撮影したUFO写真の
一枚。アダムスキー型円盤が逆さに見える。

その目撃に関するヒントまたは予言だ
つたのでしょうか？

実際、私自身今回の旅行中、不思議
なことにエルサレム以外では目撃して
おらず、しかもなぜか二日目の一月
二四日に集中しております。彼女は
エルサレム旧市街上空をテレポートし
ながら飛ぶ二機のスカウトシップや、
みんなで見たあの巨大な葉巻型大母船
に搭乗していたのでしょうか？

イスラエル旅行中の度重なる目撃の
背景にはこのような現象があったので
す。そして帰国後もUFOの出現と目
撃は続きます。

一二月

●一六日(火) 午前十時前頃、仕事の
途中、都内S地区を歩きながら大病で
入院している父のことを考えていた。

突然マイナスな感情が消えてゆき、な
ぜか「一カ月ほどで絶対に良くな
る！」という確信が湧き起こってくる。
そしてふと西の空を見上げるとそこに
は三角形の白銀のUFOがゆつくりと
飛んでいたのだ！ 見つける間際には
機体を揺らせて大きく光つたようにも
見えた。

このタイミングの良さに少々びつっ
りしながら手持ちのコンパクトカメラ
で数枚写す。その間、次第に旋回して
きて私の進行方向(南西)の正面上空
に現われた。

その後入院から約二カ月経った一月

中旬、手術も無事終わり父は退院した。
病名は「癌」だった。

●二一日(日) 待望の第四回「久保田
先生との質疑応答会」が開催された。
年末にも関わらず会場は満席となり、
大盛況だった。終了後GAP忘年会が
はじまる直前の四時四五頃、西の低い
空に強烈なオレンジ色の光を発する物
体を発見。どんどん光は大きくなる。
津田氏と共に目撃。はじめは宵の明星、
金星が光り出したのかと思っていたの
だが目を離した瞬間に消えていた。

久保田先生による宇宙情報は異星人
問題だけではなく、転生の法則から時
には政治問題、歴史にまで焦点が向け
られ出席者にとつてこの上ない指針と
なる情報ばかりだ。

一九九八年一月

●五日(月) 四時頃。都内五反田駅前
で喫茶店を経営されているGAP会員
の秋山さんのところまでくつろぎながら
原稿チェックをした後、駅の西口方面
へ出た。

歩きながらPHSで久保田先生宅へ
連絡するも、あいにくご不在。ふと空
を見上げると西のまだ青い空に光体を
発見した。そのうちに光体の方はどん
どん大きくなり、しかもオレンジ色に
輝き、ゆつくりと呼吸をするかのよう
に脈動しはじめたのだ！ この時はじ
めてUFOに搭乗しているスペース・
ブラザーズが存在をはっきり感じるこ
とができた。そしてお互いの意識の間



▲筆者・加藤純一氏

には決して距離がないことも。
二月

●一日(日) 東京本部月例セミナー当
日の朝、十時四二分頃から実に二〇分
以上の目撃。月例セミナーに遅れてし
まうため、泣く泣く観察を中断する。
場所は多摩川上空だが川崎市側の上空
のようだ。このUFOは明らかに金星
のスカウトシップそのものに見えた。
なぜならドームとフランジで構成され
る機体がこの肉眼でも確認でき、時折
底部を見せながら飛ぶシーンでは三個
の球形用着陸ギア(コンデンサー)さ
えもハッキリ見せてくれたからだ。
この目撃と先の一月五日の目撃前に読
んでいたのは新アダムスキー全集第五
巻第五章の「魂と心」。この箇所には
私にとって重大な指針が盛り込まれて
いるように感じる。(以下次号)



●受胎告知教会の超小型UFO 撮影／渡辺康英

昨年11月に実施した日本GAP第17回海外研修旅行「イスラエル聖地遺跡の旅」で、11月27日にナザレの受胎告知教会に入ったとき、同行者で日本GAP会員・渡辺康英氏（40歳）が堂内のステンドグラスをコンパクトカメラで撮影し、帰国後現像に出したら、画面中、右から左へ水平に移動している青い不思議な光体が写っていた。撮影時には気づいていない。秋山眞人氏の鑑定によれば、これは典型的な超小型UFO（スキャンングディスク）であるという。超小型UFOは壁を貫通して入るので、このような写真は各地でときどき撮影されており、本誌にも度々掲載されている。

〈受胎告知教会〉ナザレに住んでいた聖母マリアがあるとき、村はずれの洞窟へ行った際に、大天使ガブリエルが現われて、「あなたは懐妊して男の子を生むだろう。その子をイエスと名づけよ。彼は人々を救う偉大な人物になるだろう」と予告した。そしてそのとおりに実現した。現在はその洞窟跡を主祭壇として中近東一の巨大な聖堂が建立されている。この写真はその中の一部分。

私が目標とする 宇宙への道

● 渡辺康英

渡辺氏は中学生のころから日本GAP会員となって現在会員歴二十六年の大ベテラン。東京芸術大学大学院修士課程終了後、現在は環境デザイン関係の仕事に従事。昨年一月のイスラエル旅行にも参加し、ナザレでは不思議な写真を撮影（右頁）。以下は去る二月一日に東京月例セミナーで行なった講演内容。

私はこれまでに久保田先生に助けられていて、先生にめぐりあうことがなかったならば、私の人生自体が非常に曲がったものになってしまっただろうと考えています。

私が先生に助けて頂いた事の中で最大なもの、私の父親がガンにかかりまして、今から約八年前のことなのですが、発見しましたところ手遅れの状況ということになりました、通常の医学的な手法ではどうすることもできない、手術もすることができないと言った状況におちいりました。そのときに、もう何もなす術がなくて、ただ衰弱する父親を見ているのが非常に辛いことでした。私は早速久保田先生にご相談致しました。

そして先生からお力を頂きまして、

奇跡的にガンの手術が出来るようになりまして、それも無事成功致しました。結局病院から自宅に戻って、ほぼ通常の生活ができるようになった次第です。最終的には亡くなりましたけれど、私が最後の砦として頼りにさせて頂いたのは先生のお力です。

アダムスキーの本で関心が 高まる

これから二つのことについてお話しをさせて頂きたいと思えます。一つは私が多少なりとも宇宙哲学を実践しまして、それで非常にラッキーな人生を歩ませて頂いているということ、もう一点は、私は今四〇歳なのですけれども、人生の後半に向けての目標についてお話を致しましょう。

まず私がGAPに入会した経路は、たぶん皆さんとは違つて悲惨な出来事から入会するようになりました。といいますのは、小学校の低学年のことだったと思いますが、テレビでアメリカ映画が放映されていて、その中に空飛ぶ円盤が出てきたわけです。その映画の中には空飛ぶ円盤を悪玉として描いておりまして、最終的には善良なメキシコの方々を円盤から光線を放射して、それで消滅させてしまうというショッキングな結末で終わるというドラマでした。小学校低学年で、そのドラマがドキュメンタリータッチで進行しております、現実とフィクションとの区

別がつかなくなったものだから、その夜は非常にうなされて、そのようなまわしい体験をしましたので、私は空飛ぶ円盤というものを記憶から消すことができなくなつたのです。

それから年月がたつて中学に入つて書店で当時高文社という出版社から出ておりました「空飛ぶ円盤同乗記」という本を見つけて、どちらかといいますが怖いもの見たさからその本を購入した次第です（編注）これはむかし編者が翻訳したアダムスキーの第二著。現在は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」の第二部に

出ている。読んでみますと、そこにはすごく友好的な異星人が描かれていまして、またその内容も本当ではないかと思われ、さらに関心が高まつた次第です。そのシリーズで出ておりましたアダムスキーの「空飛ぶ円盤実見記」とか「空飛ぶ円盤の真相」などを次々読みまして、いつそう空飛ぶ円盤に対する関心が高まつてゆきました。それで高文社宛に日本GAPの事について尋ねて先生からパンフレットを送つて頂いて、中学三年の頃、入会させて頂いたわけです。ですから私の場合には、いまわしい体験から日本GAPに入会したというわけです。

日本GAPに助けられる

その当時私自身はある悩みを抱えて

おりました。それは中学生にとっては少しマセていた悩みでしたが、結局人生というものは幸運にめぐまれても、出世してお金がたまつても、八〇年なりの人生をすごして最終的にはなくなつてしまふ、無に返つてしまふということ、何かこう非常な空しさと言いますか怖さと言いますか、そんなものを感じておりました。

それで空飛ぶ円盤の団体と思つて入会した日本GAPが、宇宙哲学を教えしてくれるという団体でして、私自身は思いもかけずそうした個人的悩みも解決して頂けるような団体に偶然入会することができました。本当に当時は助けられたという記憶を持つております。とにかく生きる上でのしつかりした軸になる道しるべがGAPで与えられたという記憶があります。今考えてみますと、これがたぶん人生の中で一番ラッキーだったことなかもしれません。

異星人女性？に助けられた

それから高校生になって、久保田先生からUFOのスライドをお借りしまして高校の文化祭でその上映会を行いました。その第一回目の上映会のおかげに私自身がフィルムを解説をしながら進めましたが、その内容に関しては虎の巻を作つてそれを見ながらスライドの説明を進めていたわけです。そのとき不思議な事が発生してきたのです。



● 平田 泰介

太陽は熱い天体ではない!

地球表面に熱と光が発生する理由

赤道直下でも高山の頂きには雪があり、高い空の雲は水の微小な粒子である。太陽光線の直射する地球表面は高度が増すにしたがって温度は低くなってゆき、超高空は極寒となる。これは太陽に近づくと焼けただれろという従

来の常識とは明らかに矛盾している。

一般的には、太陽はあのようにギラギラ輝いているのだから、当然灼熱の超高温のはずだと思われるであろう。

ところが、宇宙飛行士が大気のほとんどない宇宙で見る太陽は、光が失せて赤茶けて見えるのだという。地表から遠ざかるにつれて太陽ばかりでなく、星もその輝きをなくしてほとんど見えなくなるのである。

すなわち、太陽の放射線によって発生する熱は、惑星（地球）の大気圏内で地表から垂直に出ているある種の力線（超音波の一種、波動）との衝突によるのであり、熱はその力線との交差角が小さくなるほど強くなるという。

また地表から遠ざかるほどその力線も弱くなり、光に関しては大気がなければ光として現われないという性質のため、大気のないところでは熱も光も発生しないのである。それはスペースシャトルから地球表面を見た大気圏内以外は真っ暗闇であることから理解できる。

またスペースシャトルの上面が地球の方を向いているのは、太陽の方だと暗くて作業ができないからである。つまり彼らは地球という光源を頼りに作業をしているのである。

常温の惑星群

この原理は月や金星や水星、またす

べての惑星に関しても当てはめることができるので、これらの惑星には地球と同様に立派な空気が存在することを裏づけている。

以上の事実により、太陽に最も近い水星や金星は焦熱地獄ではなく、極には白い雪の冠が実際に観察されており、地球とほとんど変わらない気温であると言った、異星人の宇宙船に乗せてもらって金星に旅行したというジョージ・アダムスキーや秋山真人氏の証言は真実であることが、これらの事実により明らかである。このことはまた太陽が超高温であるとする科学的見解は根拠がなく、超高温でなければ核融合が行なわれないという理論もまた間違っていることがわかる。

重要な常温核融合と単極磁気粒子

フライシユマンやボンズが行なった常温核融合では、重水の電気分解装置の中にアーク放電を組み込んでいる。アークは高周波の電波なので、同じように超高周波の振動数を持つ単極磁気粒子との振幅の同調により、水が高い所から低い所へ流れるように、この単極磁気粒子が大量に流れ込んで来る時に常温核融合が起こったのである。

このことはパップスが発表した「アンペール・パップスの基本法則」という公式の理論によるもので、荷電粒子が光速の七〇パーセント以下の場合、

同種電荷は反発するが、七〇パーセント以上の速さになると同種電荷すなわちプラスはプラス同士、マイナスはマイナス同士が互いに吸引し、異種すなわちプラスとマイナスでは反発するのである。

このため原子において陽子と電子の固い結合状態が解かれて陽子同士が結合することになり、核融合を起こす結果となる。単極磁気粒子は常温でも光速を超えるスピードで振動しているの

で、実験の際に取り込まれたこの粒子の影響で同種電荷の吸引力が引き金となつて、超高温でなくても原子転換すなわち核融合を起こしたのだと推定できる。水素原子がヘリウムに転換する

というメカニズムは原子を構成している粒子(核や電子)が同種電荷のもの同士で凝集することにより、性質の違う原子に転換してしまうこの原理によるのである。

従来の考え方によると、原子の運動が光速の七〇パーセント以上の速さを得られるのは超高温しかないというものであったが、実際にはそのような超高温を持続することは不可能で、無理をすると非常に危険である。

無限に存在する 単極磁気粒子

単極磁気粒子は宇宙空間に無限に充滿していて、アーク放電や電氣的振動などによる装置側の振幅との同調によ

つて、大量に装置側に移動し取り込めることがわかつているのである。

太陽での、水素からヘリウムへの原子転換すなわち核融合も、太陽自体が無限に保有している膨大な量の単極磁気粒子によって、常温で起こっているに違いないと思われる。したがって太陽は実は比較的冷たい星だったのである。だとすれば太陽での熱核融合はあり得ないことになるのである。

〔筆者注〕以上の文中に出てくる新しい語句に関する解説をしておきたい。『ある種の力線』

地球自体から出ている、マグマの活動によって発生するのかもしれない超音波の一種で、人体からも、またあらゆる物質からも出ている波動のようなもの。太陽から出ている放射線と衝突すると光と熱を発生する。この力線は地球のみでなく、太陽系内のすべての惑星にも存在するのであって、そのゆえに惑星は肉眼でも光って見えるし、熱も発生しているわけである。アポロ宇宙船の月着陸を報じたビデオ映像ではアメリカ国旗がはためいて風の存在すなわち空気があることがわかつたし、だからこそ月の地平線から昇ってきた地球が美しく輝いていた。もし月が死の世界で、その表面が何も無い真空ならば月面も光らないし、地球の姿も見えないはずである。

宇宙(空気の全くない空間)に出ると、他の天体や星さえ見えない真つ暗

闇であるという。見る側の惑星に大気があり、大地から力線が出ていて光が発生する(物が見えるという現象)状態でなければ、他の天体も見えないというわけである。

従来のアインシュタインの光子理論すなわち光は粒子としてそれ自体が真空中を伝達するというのは誤りで、光は太陽からの放射線が惑星自体の大気の中に存在する活力を引き出した結果としての一つの現象であると言える。つまり超高空が極寒であるように、太陽の放射線はそれ自体で熱も光も持っていないということである。

「単極磁気粒子」

普通は単極磁気と言う。これは現代物理学にはまだ登場しない物質であつて、たとえば永久磁石は鉄をくつつけると、いつまでたつても、くつつけたままで離さないが、これは磁石が鉄をくつつけたままでいるという「仕事」をしているわけで、現代物理学で考えるとエネルギーが消費され、そして消費されたエネルギーと同量のものが補給されていることを意味しているのである。これはこの磁石の周りの空間から絶えず補給されていると考える以外に説明がつかない。この実験を真空の中で行なつても全く変わらないので、磁石に補給されているエネルギーは真空の中に充滿していると考えられる。このエネルギーを取り出して電気に変換する、つまり永久エンジンの開発研

究をしている人たちは日本はもちろんで、世界中に沢山存在している。世界一の発明王N博士も三年ぐらい前に、ついにこのエネルギーを取り出して回転し永久運動をする機械を発明し発表している。

このエネルギーは磁気を帯びているけれども、普通の磁石のようにプラスとマイナスの両極を持ったものではなく、プラスはプラスだけ、マイナスはマイナスだけというように単極の磁気を持った粒子である。この粒子が現代物理学で発見されていないのは、検出限界以下であるため、すなわち一〇のマイナス二〇乗センチメートル以下の物質であるために検出することができないからである。

この粒子は物質の電子を構成している粒子であり、電子よりもはるかに小さいのである。また、この粒子が認められないもう一つの理由は、歴史的に有名な「マイケルソン・モーリーの干渉計」といわれる精密な測定装置を使って真空中のエーテルの存在を実証するための方向の違いによる光の速度差を測定したけれども、それを得ることが不可能であつた(一〇〇年以上前)ために、真空中にエーテル(つまり光や電磁波を伝える媒質)は存在しないということになった。そこで光や電磁波の伝達理論が必要となり、アインシュタインが相対性原理を考え出したわけである。

彼によると、光は光子という粒子の性質で伝達するのであって、エーテルは存在しないということになってしまった。このことが大前提となつて現代物理学が打ち立てられているので、真空中には何もないとされている。

しかし最近シルバートゥースという人が最新のレーザーを用いた精巧な測定装置を作つて、測定方向による光速の差を検出し、エーテルの存在を間違ひなく確認したと報告している。

それにもかかわらず学界ではアインシュタインの理論を否定することができず、エーテルすなわち宇宙エネルギーの存在が確認されたという報告があつても無視するしかないのだろう。

しかし科学はマイケルソン・モーリーの後、いろいろな実験の結果、真空は全くの無ではなく、エネルギーに満ちた空間であることを明らかにしている。

たとえば、真空にガンマ線という高いエネルギー光線を当てると、陰の電子と陽の電子がペアで生成されるといふ現象が起こる。また逆に陰電子と陽電子が衝突すると一瞬に消滅して、光のエネルギーは真空中に溶け込んで消えてしまうといふ現象が起こる。これらの現象は真空が全くの無ではなく、非常にエネルギーにみちた空間があることを示している。そこで現在では「真空は素粒子と反素粒子がペアでぎつしり詰まった状態の空間である。た

だし、素粒子と反素粒子のペアになつた状態を検知することはできない」といふような奇妙な定義をしている。ロケット工学で有名な糸川秀夫博士も「真空中にエネルギーが充滿していることは常識だ。そのエネルギーを取り出すことが難しい」と言っている。この単極磁気の存在を科学者たちが頭においていないために、現代科学で説明できない現象が非常に沢山残されたままになつているのである。

引力の仕組みを説明できないとか、物質の究極粒子が検知できないために、それが何であるのかが分からない。また電磁気の本質は何なのかが分かつていない。磁気の本質が説明されていない。超伝導現象が説明されていないので、実用になる常温超伝導が開発されない。また文中に出てくる常温核融合も説明されない。

フライシュマンとボンズ博士、そしてジョーンズ博士の別々のグループでも、重水の電気分解の実験中に過剰なエネルギーが発生しているのを確認し、常温で核融合反応が起こっているのを発見しているが、現代物理学者たちはそれを認めようとはせず、あくまでも核融合は超高温でなくては起こり得ないといふ考えにとらわれているが、それはまた太陽が超高温であると思ひ込んでいるためでもある。

すなわち太陽エネルギーとは水素がヘリウムになる熱核融合反応で発生し

ていると信じられていて、その反応で発生するニュートリノという素粒子を測定することが行なわれてきたが、結果は理論値の半分以下の値しか得られず、太陽エネルギーの発生機構を説明できていないのである。

太陽が超高温だといふ証拠は何もないのであって、太陽の近くまで行つて来た人もいないので、超高温の太陽を人工的に作り出そうとする試みが現在の超高温核融合の研究であるといふわけである。

核融合といふ現象は、簡単に言えば原子転換、水素からヘリウムへ転換するとか、あるいは生体内で起こっているナトリウムからカリウムまたはマグネシウム、カリウムからカルシウムにといふふうに変換していることが小松久時博士の微生物を対象とした実験によつて証明されている。

その前にも桜沢如一といふ人がフランスのルイ・ケルブランの生体内原子転換の研究で、ごくわずかなエネルギーによつて原子核の中が変化する核反応が起きていることに興味を持ち、海水の中に含まれるナトリウムをカリウムに変換してカリ肥料を作る工業化を目的として、ナトリウムの黄色く光つた放電管に酸素を加えて、 $\text{Na} + \text{O} \rightarrow \text{K}$ といふ実験をして、ナトリウムの黄色い色が消えてカリウムの淡紅色に変わった、すなわちナトリウムと酸素が結合してカリウムが生じたのである。

これは明らかに原子転換の実験が成功したことを示しているが、スペクトルの変化だけの確認であつたために科学者に納得してもらえなかつたそうである。

このように核融合は常温で起こっているものであって、超高温でなくては起こり得ないとする考え方が、実際には存在しない超高温のミニ太陽を人工的に作るうといふ無理な研究になつているのである。永久機関はそんなことをしなくても中松氏の永久機関を大型化すればすぐにも稼働できるので、政府も科学者たちも無関心といふのは全く合点がゆかない。この永久機関はやはり真空中に単極磁気というエネルギーが充滿しているといふ理論が応用されているのである。

「アーク放電」

フライシュマンとボンズの常温核融合装置の中にアーク放電が組み込まれているのは、実はこのアーク放電の火花が空間に存在する単極磁気の振動と共振することによつて、空間の単極磁気が装置側に取り込まれているのであって、核融合はこの単極磁気的作用により起こっているものと思われる。追試験を行なつて核融合が起こらなかつたのは、装置の中に火花放電が組み込まれていなかったのではないかと思ふ。宇宙エネルギー発電機の開発（入力よりも出力が大きいもの。ニコラ・テスラのテストラコイル、ランバートソンの

WINコンパター、エドウィン・グレイのEMAMターなど)において装置の中にアーク放電が組み込まれているので、空間の宇宙エネルギー(単極磁気)がこれによって取り込まれ、入力よりも出力が大きくなったものと考えられる。

〈編者への私信〉

先日は「意識の声」を送って下さって有難うございました。またユーコン誌一四〇号では特に「ホワイトサンズ UFO搭乗事件」の中の異星人の声による非常に啓発的な言葉に注目させられて感動しました。それにしてもダニエル・フライの乗った宇宙船は一九五〇年の時点で非常に進んだものではないかとの感じを受けました。最近はやダムスキー型の円盤ももちろん現われますが、宇宙船も進歩して小型化し、次第に単純な形と構造をしているようです。

約六年前、私は福岡市の図書館で小説風に書かれた「私は円盤に乗せられた」という題のダニエル・フライの本に出会い、非常に興味深く読み、またその構造を写しとったものを保存していますが、当時はアダムスキーに夢中になっていました。ただし異星人の言葉の中に、宇宙には宇宙連合政府があつて、各太陽系の惑星は互いに連絡しあつていなければならない、その通信法は地球のようではなく、非常に進歩し

た方法であることや、人口爆発状態になった惑星や環境的にもう住めなくなつた惑星に住民を移すために、新生惑星で安全なものを探して、それらの住民を巨大な宇宙母船で大移動させるということか、彼らは人工の惑星さえも作ることが可能であることなど、信じられないような超科学が発達していることを知つたのでした。

一四〇号ではまだ二回目なので、これからそれらのことがぼちぼち記述されてくるでしょうが、以前気がつかないか、それともここでもはもつと詳しく記述されているのか(たぶん前者で、毎日「生命の科学」を当てはめる努力をして反復思考を實行し、また日記帳の右と左にブラスの想念とマイナスの想念を記録して、最近マイナスの方がほとんどなくなつてきていますので、その結果であればよいのですが)文中の異星人の言葉に非常に重要なカギが含まれていることに気がつきました。

たとえば、科学の発達について地球は樹木に例えると、低い所の一本の枝だけに注目して太い幹に気がつかないため、ひどく複雑になって、ついには行きづまってしまうのだということや、アインシュタインの理論が間違つていて、物質もエネルギーも一つの実体の異なる面にすぎないということ、このことは単極磁気という宇宙エネルギーの存在に全く気づかなかつたために

理論上の誤りを犯し、地球の科学者がアインシュタインの理論を大前提としているために行きづまってしまうということでも理解できます。

また物質という面を九〇度回転させると、実体としてのエネルギー面が現われるのだという言葉にもハツとさせられます。また興味深いことには、後ろの壁の中央の天井に接する所に設置された小型映写機のようなものがあり(本誌一四〇号「ホワイトサンズ UFO搭乗事件(2)」一二頁)ふだんはそれが室内を自然の明るさに保つ散光を放っているが、室内を暗くして外の景色を見るときに、可視スペクトルの最上端の濃い紫色の光線が不思議なドアーの上で放射されると、その部分が透明になつて景色が見えるようになります。異星人の声はまるでテレパシーを感じているかのように自分自身が話している感じで聞こえて来るようですが、船体の非常に堅い金属がなぜこの光線によって透明になるのかについて、このときの理論的な説明として地球の科学では全く考えられないような新しい物理学の理論が啓示されています。それはこの光線が周波数増大器のようなものによるのだと言っていることです。

私はかつてアダムスキーの本の中で高周波万能治療器がニューヨークのベルビュー病院で異星人から与えられて組み立てられ、あらゆる治療を瞬間的

に跡形もなく治せることを知らされて非常に関心を持ち、何とかそれを作れないものかといろいろ考えて、電波の周波数を徐々に上げていって、ある周波数に達すると、突然、宇宙エネルギーつまり単極磁気の振動数の整数分の一になつたとき、共鳴現象を起こして同調し、大量の宇宙エネルギーが流入するのでないかと考えましたが、ここではその光線の周波数は「エックス線と宇宙線スペクトルとの間の幅の周波数」であると言っております。

ポインントは、この周波数を捕らえることであると思います。もし電子理論関係の専門家がいられて、これを研究すれば、このような放射線を作り出すことも可能となるのではないのでしょうか。この理論を応用した高周波万能治療器が完成すれば、あらゆる難病問題も解決する画期的な医療器具となり、癌もエイズも殺人インフルエンザもなくなり、老化現象さえもなくなる可能性がありそうです。そのかわり医者は無業するでしょうから社会的には大問題となるかもしれません。また彼らの宇宙船が光を曲げる技術を持ち、また船体の振動数を変えて見えなくしてしまうこともできるのは、似たような理論によるのではないのでしょうか。

以上のようなわけで、本誌一四〇号は非常に感動を伴うものであり、また次号が楽しみにあります。これからよろしくお願い致します。

宇宙論の疑惑と

ニセ宇宙開発報告類②

小山洋一

マスコミの悪影響で真実が隠される

アインシュタイン、ホーキング、相対性理論、ビッグバン、ブラックホール、超——理論、どれをみてもネーミングが素晴らしいではありませんか。なぜ証明もされない理論が、これほどに広まったのでしょうか。

第一は、ネーミング、第二は難解であり多くの人には理解しがたい、第三に人間には真理を知りたいという根源的願望があり、単純にスパッと割り切れそうになっている。第四、人々は自分が偉いと思われたいという強い願望があり、アインシュタイン、ホーキングを理解できたとすると認められるという風潮がある。これらの点が影響したのでしよう。

これだけでなく、マスコミも大きく影響しています。NASAの情報はタイムやライフに配信され、主流派の学者のコメントをつけて検閲官(NASAの職員)のOKが出て発行され、それから世界の新聞社へ配信される仕組みになっているそうです。日本の新聞

社は主流派で疑問すら持つていません。私たちの宇宙観はアメリカの情報のみによっていることに、ここで気づかれたいと思います。

NASAによる別な惑星の不毛の砂漠だらけの修正写真が私たちの脳にインプットされています。太陽系の人々の話をすると、ほとんどの人が同じように思っているのが分かります。なぜこのことを広めようとするのかと問われるのは真理を知る権利が侵されているからです。さらに地球が他の惑星に比べて遅れすぎていることが分かってくるからです。エネルギー問題、環境問題、戦争などです。

太陽系には現在九個の惑星が確認されていますが、一二個あります。現在一〇個、一一個目は発見されていますが確認中です。おそらく二〜三年はかかるでしょう。米ロが共同で宇宙開発しています。アメリカでは裁判で情報公開せよという判決が出て期待しましたが、アメリカ政府は国防上の理由という伝家の宝刀を抜いて、ほとんど黒塗状態でしか出てきません。チャーチルが昔、ソ連のことを鉄のカーテンとアメリカ議会で演説しました。今は鉄のカーテンというのはアメリカ政府です。

不思議な12という数字

私は一〇年前前にUFOを一五分間

にわたって見ました。アダムスキーに向かつて異星人がいるという証拠を出して下さいと質問した人に彼はこう答えています。

「UFOを見ても信じない人に何を説明しても無駄である」と。

どう説明しても疑う人には手のほどこしようがない。

太陽系の一二惑星のすべてに人間がいます。人種もさまざまで、身長は平均九〇センチから三メートルぐらいの人種がいます。地球に一人一人ぐらいの外見上地球人と区別のつかない研究者(火星人、金星人、土星人など)が住んでいます。身分が分かると危険ですから、本当に信頼できる人だけに教えます。こんなことは地球だけです。

一二進法は不思議です。一二支や一二星座、時計、ダースの単位などです。太陽系の兄弟によると、宇宙には無数の太陽系があつて、ほとんどの太陽系は一二個の惑星を持ち、さらに一二個の太陽系が大きな固まりになっていて、さらに一二の大きな宇宙を構成して、どこまでも無限に続いているそうです。(編注 以上に関しては新アダムスキー全集へ中央アート出版社に出ている) 仏教で説いている宇宙観と同じであることに興味を覚えます。

優秀な日本のロケット

地球を撮影したときの天体写真と月

や火星や金星の天体写真とを比べてみて下さい。この歴然とした違いは何でしょうか。

スペースシャトルに実験器具を積むのに一キログラムあたり九〇〇万円払っています。ソ連のソユーズは一キログラムあたり一八〇万円です。しかもアメリカにはどんな実験器具を積んだかを示し、しかも実験データはすべてアメリカ政府に知らせなければなりません。ソ連はブラックボックスで結構です。データもいつか見まけんからソユーズを使ってくれと言っています(立花隆著『宇宙を語る』より)。

そのせいか、さかんに日本人宇宙飛行士を採用してPRに励んでいます。今はロシアや中国ともつと交流すべきです。日本のロケット開発は宇宙研究所の五代さんの本にこう書いてあります。

ロケット開発の中期にアメリカの技術を導入しようとしたところ、重要な技術はすべてブラックボックスで封印してあり、もし開けると破壊されるようになっていて賠償金を取られるのです。それで飛ばすのですが、精度がどうも怪しくて失敗が続いたのです。それで中の仕組みはどうでもいいですから、基本データだけでも教えてほしいとアメリカに連絡したのです。すると返事は「いつか教えられる」。それで五代さんたち開発陣は、アメリカの技術は要らない、国産技術でゆ

こうと決心し、N1、N2ロケットを開発したのです。N2ロケットはヨーロッパのアランロケットに比べると性能はほとんど同じで、重さは半分ぐらいいいしかありません。省燃費型の世界トップクラスのエンジンなのです。世界唯一、再点火可能です。外国のロケットは再点火すると爆発します。燃料がエンジン内に残っているからです。だから二段ロケットでも三段、四段ロケットと同じ能力があります。低軌道衛星と静止衛星を同時に打ち上げることも可能です。スペースシャトル（アメリカの自慢）のエンジンをしのぐほどの性能があります。それでアメリカが売ってくれと言ってきたのですが、もちろん日本は断りました。秘密が洩れるからです。

ケネディーが暗殺された理由

安保も考え時かもしれません。日本はアジアの中心となつてまとめてゆくほうが重要で平和的だと思います。アダムスキーは多くの迫害と中傷を受け続けましたが信念の人でした。真実を説き続けました。命さえ狙われたのです。ケネディーが宇宙開発に力を入れたのは（一九六〇年代末までに月に人類を送ると宣言）アダムスキーを信じるに足る証拠を数多く知っていたからです。そして彼は暗殺されました。

戦争をしたいものにとつて、国民の

目が宇宙に向くことは最も困る事らしいのです。UFOのテクノロジーは環境問題、特にエネルギー問題を根本的に解決する力があります。これは石油資本にとって脅威です。しかしこれは政府が補償すればすむ問題です。銃問題も政府が銃関係者を補償すればよいのです。

不干渉主義が進歩をうながす

以前のパロマー天文台では月面を観測していたのです。月の森林、構造物、湖も見えるのですが、残念なことにNASAの予算になつてから月は観測していません。大きな天文台は国の管理下です。

でもアマチュア天文家でも望遠鏡で熱心に見れば、年に数秒で抜群の解像度で見える時があります。月の発光現象などは双眼鏡でも見えます。

火星の運河などは小口径の望遠鏡で血のじむ思いの観測の結果なのです。ハッブル望遠鏡なら充分に見れるでしょうが、これも許可が出ません。

太陽系の人々（系外の人々のことは勉強中です）は常に私たちの行動を見守ってくれています。彼らは強制的に干渉することは、かえって地球の進歩を遅らせるということを長い歴史の教訓で知っています。不干渉主義をとっています。ゆえにUFOを見せて示唆するのです。ゆえに地球人みずからが自分

たちの力と見識で切り開いて行くしかないのです。そのために多くの人たちに知らせる必要があるとき、これが多くの人々の世論となったとき、どの政府も従わざるを得ないのです。進歩的な人々は増加する傾向にあります。これからどうするかです。

BBC放送の暴露番組

主流派は国家権力をかきにきて反撃と分断に出てくる可能性があります。具体例をあげましょう。NHKで数年前に放送されたのですが、イギリスのBBC放送のすつば抜きです。

アメリカにとつてパナマ運河は軍事上の重要地点です。パナマはアメリカの傀儡国家だったので、カーターの大統領が主権を認め軍隊も認めて事実上独立したのです。

しかしブッシュ大統領はパナマをもとの傀儡国家にしようとしたのです。どうしたか？ まずアメリカにコカインの密輸が増えているのは、ノリエガ將軍がコカイン密輸の張本人であるとテレビを通じて大キャンペーンを行っていました。こうして国民の大多数にノリエガが悪いと思わせます。そして軍事侵攻しました。

殺されたパナマ人は一万とも二万ともいわれています。死体をブルドーザーで埋めてしまったために正確な数字は分かりません。人工衛星によるレー

ザー兵器の残酷な実験を行なったことも分かっています。そしてノリエガの隠れ家からはCIAの職員による工作（ピンクのパジャマやヌード写真を散乱させ、コカインと注射器と祈禱したようなロウソクを置いた）により、世界のマスコミはやつぱりノリエガのせいだったと報道しました。

次に、アメリカ軍侵攻後の現地人へのテレビインタビューです。アメリカのテレビ局の職員は、あらかじめ配置していたCIA職員に対してこれを行ないました。すると「ノリエガは悪い事ばかりしていました。アメリカの侵攻を国民は感謝しています」と同じような答えばかりが返ってきました。すべて白人でした。ノリエガは「アメリカにだまされた。どうしてこうなつたか分からない」と絶叫していました。

アメリカ政府の世論工作は、ありとあらゆるところで毎日のように行なわれています。今の日本政府や政治家は見抜けないのでしょうか。これらの世論工作は大統領も逆らえない上にある組織からのものです。宇宙無生命論にNASAがあり、そのバックに米政府がひかえています。この壁は取り払わなければなりません。地球のこの沈滞した憂鬱さはこれが原因です。

アダムスキーはわずか6インチの反射望遠鏡で月面の解像度の良い証拠写真を撮りました。変人、奇人、ペテン師といわれ続けました。（以下次号）

★今年度日本GAP海外研修旅行

日本GAPは過去多年に渡って海外研修旅行を実施し、多大の成果をあげてきたが、今年度はメキシコの宇宙的な雰囲気を持つ遺跡として名高い古代マヤの遺跡見学を主体とする旅行に決定した。時期は最も休暇の取りやすい八月のお盆休みを含む頃とし、出発は八月一三日、帰国が一九日の七日間。主要見学地はメキシコ市内、テオティワカン、太陽の大ピラミッドと月のピラミッド、マヤ遺跡の宝庫であるユカタン半島の代表的なパレンケの遺跡、ウシュマルの遺跡、チチェンイツァーの遺跡その他を見学。夏の海外旅行最盛期に実施するため航空運賃の値上がりやを避けられないが、それでも極力安価に抑えてある。日本GAPのメキシコ旅行はこれで五回目となり、メキシコ行きはこれが最後となるので多数参加されたい。最少催行人員は二五名。詳細予告は本号四七頁。

★ユネスコ村のUFO写真展大盛況

既報のとおり二月七日より三月五日まで埼玉県所沢市のユネスコ村恐竜探検館で開催された日本GAP提供のUFO写真展は大盛況であった。この会期は当初三月二四日までとなっていたが会場の都合により一五日までに短縮された。これを全会員諸氏に連絡する方法がなく、知らずに一五日以後に現地を訪れた方々にお詫びしたい。詳細結果を本号四五頁に掲載。

★韓国の講演は延期

久保田会長は三月に韓国UFO総連合会主催の大会でソウル市において招待講演を行なう予定であったが、この大会は都合により今秋まで延期すると連絡が会長のカン博士よりあった。

★久保田会長との質疑応答会

昨年一二月に大宮市で開催された黎明会主催の質疑応答会は大盛況だったが、今度は六月一四日に奈良市の奈良県中小企業会館で開催される。関西一円の会員諸氏にとっては久保田会長と親しく語り合う絶好の機会となるので盛況が期待される。詳細予告は本号三七頁に掲載。

★北海道支部発足

多年活動が続けてきた旭川支部は諸般の事情により発展的解消をとりて札幌支部と合同の上、新たに北海道全域を総括する「北海道支部」が誕生した。支部代表は従来札幌支部代表であった高野省志氏。月例セミナー、会場その他の詳細は本誌巻末の全国月例セミナー案内を参照。

★埼玉支部誕生

関東圏の日本GAP支部として五月一日より埼玉支部が発足する。これは会長を強力に支援する本部直結型のグループとして大活動を展開しようとするもので代表は会田裕子、副代表は西川太。詳細は本号四五頁に掲載。

★埼玉支部主催UFO写真展

設立まもない埼玉支部は早くも活動

の嚆矢としてUFO写真展の開催を企画した。日時・会場は左記のとおり。

日時 六月二日(月)〜二八日(日)
会場 浦和市役所内「市民ギャラリー」
場所 浦和市常盤六一四一四、交通 JR浦和駅西口下車徒歩二〇分、浦和駅より国際興業バスの大宮駅東口行き乗車、市役所前下車。

★東京本部月例セミナー

東京本部の月例セミナーは毎回会員による講演、久保田会長による宇宙思想哲学の解説講義(四月よりは「生命の科学」、超能力開発練習、UFOビデオ映写その他で活気を呈している。会場は港区東京タワー前の機械振興会館。ただし今年五月のみは連休を避けて第二日曜日の一〇日に変更。詳細は本誌巻末の全国月例セミナー案内を参照。非会員の出席歓迎。

★大阪支部休会

代表の平塚氏が勤務先会社で昇格により超多忙となったため三月末をもって支部代表を辞任。後継代表がみつかるまで休会とする。

★今年度日本GAP総会

毎年秋に開催する総会は今年一〇月一〇日(土、日連休の初日)に開催が決定した。会場は例年同様都内港区東京タワー前の機会振興会館地下二階の大ホール。講演者は数度来日したアメリカのアダムスキー派UFO研究者ダニエル・ロス氏。今回はアメリカの火星探査の結果、一般に知られていない貴

重な情報が展開される予定。大盛況が予想される。総会翌日は晴天ならば都内江戸川区の葛西臨海公園広場でUFO観測会を開催の予定。ロス氏も同行する。詳細予告は七月下旬発行予定の本誌一四二号に掲載。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、GAPの運営と発展に寄与するための援助活動で絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が毎月月上旬に個人で発行している「意識の声」と第する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的な能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その有益な記事が満載されている。特徴はいつも大いなる信念と勇気と希望を起させる内容にある。このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつしりと印刷された記事が四頁分あり折りたためば八頁。美麗オフセット印刷。維持会員加入希望の方はハガキに「維持会の案内書送れ」と書いて日本GAP本部宛に出せば直送される。

★本誌原稿を募集

会員より本誌掲載用の原稿を募集している。内容はUFO目撃体験と写真、能力開発実践体験、科学記事、ユークン広場宛その他。原稿は任意の用紙に手書きで可。掲載分には薄謝を進呈。

〈宇宙〉

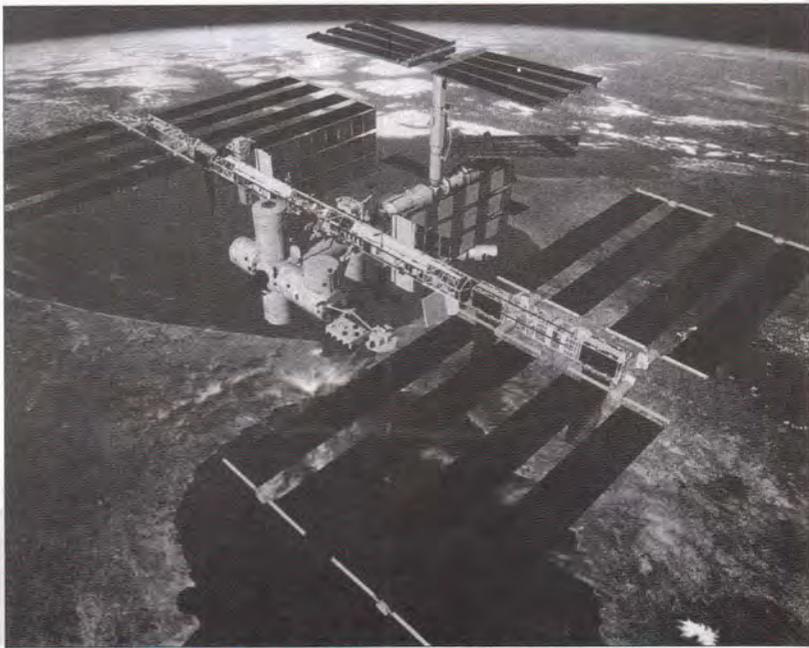
■六月、国際宇宙ステーション建設開始

世界の十六カ国が共同して地球上空約四〇〇キロの軌道に浮かべる国際宇宙ステーションの部品が六月から打ち上げられる。最初はロシアがプロトンロケットでエネルギー供給ブロックを上げる。二週間後に接続部を積んだ米ス・ベースシャトルが続く。シャトル乗員がロボットアームで双方を結合し、船外活動でケーブルなどを接続する。重要な部品打ち上げはロシアと米国が担い、年内四回をはじめ、二〇〇三年の完成まで計四五回ある人が住み始めるのは建設途中の来年一月からだ。

組み立てはロボットアームを使うが、「最後は人間」で、完成までに九〇〇時間を超える船外活動が必要になる。来年一月には日本人宇宙飛行士の若田光一さん(三四)がシャトル組み立てで加わる。米国を中心に日本、ヨーロッパ(ヨーロッパ宇宙機関の加盟国一カ国)と、カナダ、ロシア、ブラジルが建設運営する。完成した時の大きさは、長さ一一〇メートル、幅約七五メートル、重さ四九六トン。空気で満たされる与圧部の容量は約一三〇〇立方メートルで、首都圏で住宅公園が分譲している平均的なマンション六戸分にもなる。

軌道は赤道面から約五二度傾いていて、南緯・北緯それぞれ五二度までの上空を約九〇分で一周する。宇宙飛行士は三カ月から半年滞在し、微小重力や超高真空という環境を利用した実験や地球観測をする。

日本実験棟は外径四・四メートル、長さ一一・二メートルの円筒形をした与圧



▲国際宇宙ステーションがジブラルタル海峡上空を飛ぶ想像図。高度約400 km。

部などから成る。二〇〇一年から三回に分けて打ち上げる。この完成後は日本人も年一回三カ月程度ずつ交代で宇宙に滞在する。筑波宇宙開発事業団(NASDA)は三月頃までにはステーション飛行士二人程度を募集する。(98・1・5朝)

■世界最大の望遠鏡「すばる」完成間近
いよいよ「すばる」がやってくる。

文部省国立天文台が、前身の東京天文台時代から一六年をかけて構想し設計した大型望遠鏡だ。空気がきれいで人工光が少ないハワイ島に夏頃完成し、初めて星の光を受ける「ファーストライト」を

迎える。ハッブル宇宙望遠鏡をしのぐ能力を持つ巨大な目は、いったい何をみせてくれるだろう。

主鏡が一枚の鏡で構成される望遠鏡としては世界最大の口径八・二メートルを誇る(編注II米パロマー天文台の望遠鏡は口径五メートル)。東京から一〇〇キロ離れた富士山頂の野球のボールを見分けることができ、一〇〇億光年彼方からやってくるかすかな光も受け止められる。総工費は四〇〇億円。

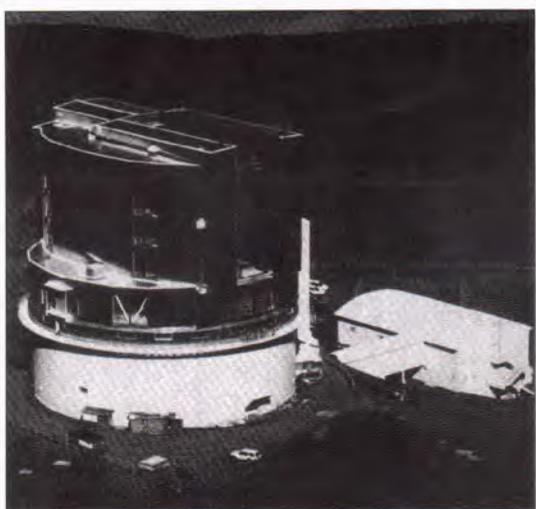
太平洋の真ん中にあるハワイ諸島。その一番東のハワイ島、マウナケア山頂の

標高四、二〇〇メートルにこの望遠鏡を収める大きな円柱形のドームが昨年完成している。ハワイ大学の一角に国立天文台ハワイ観測所も置かれ、観測所長の海部宣男国立天文台教授以下、約三〇人が働いている。心臓部の鏡は現在、米ピッツバーグのコントラベス社で最終の研磨作業が続けられている。(1・5朝)

■NASA二五年ぶり月面探査
極軌道周回、氷発見に期待

米航空宇宙局(NASA)は米東部時間一月六日午後九時二八分、米フロリダ州ケープカナベラルから月探査機「ルナー・プロスペクター(月の探査者)」を打ち上げた。NASAが月の本格的な探査を行なうのは二人の宇宙飛行士を月面に送り込んだアポロ計画以来約二五年ぶり。今回は無人探査で、氷の発見など様々な成果が期待できるという。(1・7

▲大望遠鏡「すばる」を収めるドーム。



SCIENCE

読
■土星のオーロラ

ハッブル宇宙望遠鏡が昨年一〇月に撮影し米航空宇宙局(NASA)が七日に発表した土星のオーロラの画像。極(下)の付近が美しく輝いている。地球のオーロラと同様、太陽からの荷電粒子の影響で起きるが、土星のオーロラは紫外線領域でしか見えないため、紫外線の届きにくい地上からは観測できない。

(1・8読)

■ボイジャー一号が最遠人工物体に

米航空宇宙局(NASA)の惑星探査機ボイジャー一号が十七日午後五時一〇分、パイオニア一〇号を追い越して、地球から約一〇四億キロと最も遠い人工物体になった。ジェット推進研究所による

▲ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた土星のオーロラ下部の光の輪。原画はカラー。

と、太陽から地球までの距離のほぼ七〇倍で、なお太陽系の中にいるが、一〇年後には太陽系を飛び出て星間空間に入る見込みという。

ボイジャー一号は一九七七年九月五日に打ち上げられた。木星、土星を観測した後、太陽系の惑星が回る黄道面から上に飛び出し、現在は秒速一七・四キロで太陽系の果てに向かって飛び続けている。電波でさえ片道九時間三〇分かかる速さで、太陽の明るさは地球上の五千分の一しかない。プルトニウムを使った原子力

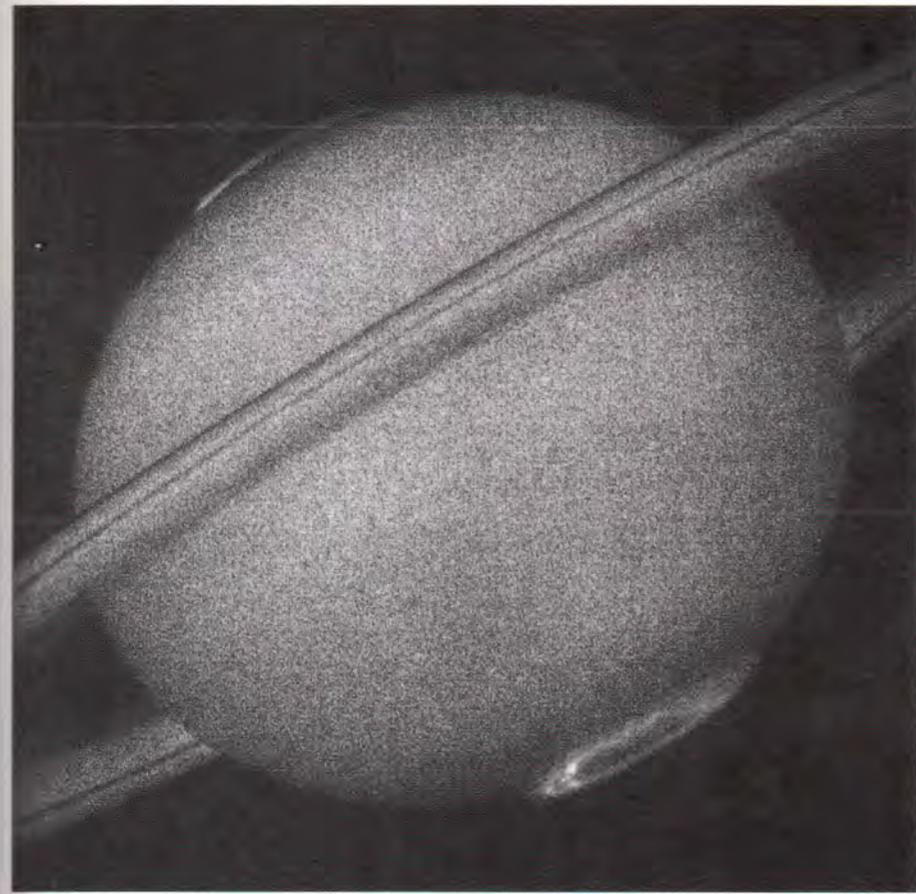
電池が発電しながらデータを送り続けている。電池や姿勢制御用の燃料にまだ余裕があるため、二〇二〇年までには充分機能する見込み。現在の約二倍、地球から二〇〇億キロに到達するはずという。

(2・18朝)

■氷の衛星エウロパに水がある?

米航空宇宙局(NASA)と米ブラウン大学の研究チームは三月二日、米木星探査機「ガリレオ」が昨年一二月に木星の衛星「エウロパ」に最接近した際に撮影した画像を公表した。

▲ガリレオが撮影したエウロパの表面地形。



表面を覆う水のプレートがジグソーパズルのように組み合わさった奇妙な地形が映っている。研究チームは「表層の下に解けた水が存在する可能性が高まった」と指摘している。

今回の画像はガリレオが過去に撮影した画像に比べて三〜二〇倍鮮明で、地表にあるトラック大の物体を十分に識別できる。

エウロパの表面は氷点下一六〇度の低温で、氷の層が白く光っている。今回の画像で、氷のプレート層をさまざまに切断している直線状の割れ目部分に、比較的暗い色の氷の層が見えることが分かった。暗く見えるのは新しくできた氷を意味している。研究チームは、エウロパには地球の大陸移動と同じような活動があり、地球の海溝に似た割れ目から地下水がわき上がって表面付近で凍った可能性があると推定している。

木星やその衛星からの潮汐作用によりエウロパ内部が加熱され、氷が解けているのではないかとの見方はこれまでもあった。今回の画像はその有力な証拠を提供したことになる。解けた水が見つければ、水がはくむことのできる生命が存在する可能性がある、関係者は期待している。(6・3・8 毎)

■月に氷がある！ 米探査機、北・南極で発見

米航空宇宙局(NASA)は三月五日、無人月探査機「ルナプロクスペクター」の観測で、月の北極と南極付近に水でできた氷が大量に存在する確実な証拠を見つけたと発表した。これまで南極付近に氷の池がある可能性が指摘されてきたが、プロクスペクターは存在を確認、さらに南

極以上の量の氷が北極にあることを新発見した。

氷の量は一千組のカップルが月面で一世紀以上生活できる量と見積もられ、NASAは有人月面基地建設や月を中継点とする有人火星探査の推進につながる貴重な資源になると期待している。

プロクスペクターは今年一月七日に打ち上げられ、北極、南極を通る高度一〇〇キロの極軌道を周回、水分子を含む水素に宇宙線が当たると飛び出す中性子を分析計で検出する方法で氷を探してきた。

発表によると、北極付近の一萬〜五萬平方キロと南極付近の五〇〇〇〜二萬平方キロの広さの表面から、水でできた氷と判断できる信号を検出。氷が月面の砂層に〇・三〜一パーセント混じった形で、薄く広範囲に散財することが分かった。研究チームは、水混じりの砂層は最低でも〇・五メートルの厚さがあると推定。氷の量を一〇〇万〜三億三〇〇〇万とはじき出した。(3・8 毎)

＜医学＞

■血圧を下げる新化合物を発見

高血圧の治療に現在使われている降圧薬とは違った仕組みで血圧を下げる新しい化合物を成宮周・京都大学医学部教授(薬理学)らと吉富製薬(本社・大阪市)の研究グループが確認、一〇月三〇日発行の英科学誌「ネイチャー」に発表した。血管の太さは、血管を取り巻く平滑筋が収縮したり緩んだりして変化する。緩ませると血管が太くなって血圧が下がる。新しい化合物(Y27632)は、吉富製薬が平滑筋を緩ませる化合物を探すうちに見つかった。

牛の血管を使ってこの化合物に結合す

る物質を分離したところ、ロー60P00CKと呼ばれるたんぱく質だった。このたんぱく質は細胞の中で平滑筋を収縮させる信号を伝える役目をもっていることが成宮教授の従来の研究で分かっていた。Y27632がこのたんぱく質と結合することで、信号の伝達を妨げるため、平滑筋収縮させる信号が伝わらなくなり、平滑筋を緩ませることが分かった。

生まれつき高血圧になる系統のネズミにY27632を飲ませたところ、約三時間後には血圧がほぼ正常にまで下がった。正常な血圧のネズミには血圧がほとんど下がらず、高血圧に効くことがわかった。(97・11・21 朝)

■がん・自己免疫疾患防くNK細胞を活性化す物質を発見

医学の各分野で注目されているリンパ球「NK細胞」を活性化する物質を、千葉大学医学部の谷口克教授(免疫学)たちのチームが見つけた。NK細胞は、がんを防ぐ働きを持つとみられる。新たに見つかった物質をネズミへ投与したところ、がんの転移がほぼ完全に抑えられたという。新技術事業団が進める戦略的基礎研究の一環で、米科学誌「サイエンス」の一月二八日号に掲載された。

谷口教授は「人間のNK細胞を活性化させるのも同じような物質だろう。がんを手術で取り除いた後に投与すれば、再発や転移を防げるかも知れない。自己免疫疾患の治療に役立つ可能性がある」と話している。(12・3 朝)

■人の細胞若返り成功

米国のテキサス大学ダラス校とベンチャー企業ジェロン社の研究チームは一月二三日、生殖細胞が作り出す酵素の遺伝

子を使い、細胞の寿命を延ばすことに初めて成功したと発表した。ガンや老化が引き金になる病気の新しい治療法への応用が期待されるほか、人間の長寿の研究にも道を開く成果として注目される。この成果は一六日発売の米科学誌「サイエンス」で発表される。

細胞の寿命と密接に関係しているのは、細胞中の染色体の末端にある「テロメア」という構造で、キャップのように染色体を保護している。正常細胞の場合、テロメアは細胞分裂のたびに短くなり、テロメアがなくなると細胞は死ぬ。

ところが、無限に増殖をくり返すがん細胞では、正常なら卵子や精子などの生殖細胞だけが作り出す「テロメラーゼ」という酵素が活性化している。この酵素が、短くなるはずのテロメアをどんどん継ぎ足して、無限に増殖するらしいことが分かってきた。

研究チームはテロメラーゼの働きに注目、この酵素の遺伝子を使って正常細胞のテロメアを長くすることを試みた。その結果、皮膚、目の網膜、動脈の内壁などの細胞でテロメアを大幅に延ばすことに成功した。これらの細胞は分裂回数が通常の場合より約二〇回増えて寿命が延びた上、がん細胞のような異常も見られなかった。

この研究について、正常細胞は五〜六〇回分裂すると老化して死ぬことを最初に発見したカリフォルニア大学サンフランシスコ校のレオナード・ヘイフリック教授は「細胞の老化を期待する上で記念碑的な成果だ」と高く評価している。(1・14 読・毎)

名古屋市長 山口登茂子

今回の素晴らしい旅に夫婦そろって久保田先生と八日間、別天地のようなイスラエルの旅に参加させて頂き、一生最高の思い出になりました。この旅は夢ではないかと思うほどに何もかもが素晴らしいので(実際、不思議な事だらけでした)日本に帰っても至福感が続いています。現地では終始晴天に恵まれましたし、ガイドの福地さんも礼儀正しく誠実な人で、泊まったホテルや食事驚くほど豪華で、ときどき不思議に思っていました。

主人はイスラエルの遺跡やイエスに関するよりも今回の旅行で大変なものを得たそうです。それは「なぜ皆さんが久保田先生の言葉に耳を傾けてGAP活動について行くのか?」という疑問がこれで解けたと言っています。ガリラヤ湖畔のホテルに泊まった夜、参加者だけで先生を囲む質疑応答会がありました。そのとき先生は「GAP活動というのは耳を貸さない人に無理にすすめるものではなくて、元からカルマのある人を発掘する活動だ。だから聞いてくれる人に広めて行こう」とおっしゃいました。主人によればつまり先生は今生どころか過去世から長く活動を続けてこられたことがご自身

からすごい印象となってくる。アダムスキーを知らない人たちが先生のおっしゃる事に耳を傾けるのはこの理由によるのだと言っておりました。今回の旅行では心から感謝しております。

大阪市長 福井貴子

先日のイスラエル旅行はかつてないほどの素晴らしい旅行となりました。これも久保田先生、参加された皆様、スバルツーリストの小林社長と完璧で素敵な説明をして下さったガイドの福地氏のおかげです。

私は七年前にもGAPのイスラエル旅行に参加しましたが、何度来ても懐かしい土地です。オリブ山からの展望、ゲッセマネ庭園のオリブの木々、約束どおりに再訪した嘆きの壁、聖墳墓教会、エルアクサ寺院、輝く岩のドーム、鶏鳴教会のイエスが歩いた石段その他多くの遺跡など、やはりここは聖書の国であることを痛感し、その不思議な魅力のとりこになって何度も訪れたいと思っています。一月二四日の夜母船を目撃したのも大変嬉しい体験となりました。空から私たちを見守って下さっていることを実感してそれに応えるような生き方を続けたいと思っております。

東京 乾 喜久栄

このたびのイスラエル旅行はギリギリまで行けるはずのものではないと思っておりましたところ、本部役員の津田さんと千葉の山田さんのお導きによ

って急ぎよ行けることになり、貴重な体験をさせて頂きました。先生、役員の皆様、旅行に参加された皆様の素晴らしい想念に包まれていたからだと思います。またスペースビールの皆様に守られている事も実感いたしました。

GAP会員として恥ずかしくないように生きてゆくために、宇宙の法則を学び、実践して、より幸せになり、他人に分かりやすく法則が語れるように自分を磨く事だと思えました。先生との旅行がこれほどまでに安全で楽しく崇高であることも実感いたしました。

ご高齢でありながらマサダの要塞に登られる先生のお姿になぜか感激しておりました。ほんとうに有難うございました。これからは先生との海外旅行がクセになりそうです。

神奈川県 篠 芳史

イスラエルは私にとって一四年ぶりの二度目の訪問となりました。前回はイエスの存在とその偉大さに触れ、今回はいつそう愛の教えの尊さを深く感じました。イエスは「因」の世界(宇宙の意識)を人々に教えるために現われました。そのことは旅行中に持ち続けた「生命の科学」(新アダムスキー全集第四巻)の第五課に述べてあります。イスラエルの各地を巡りながら、二度目ではなく、なぜか何度も訪れたことのあるようなフィーリングを感じました。

イスラエルはとても平和で安全な国

でした。イエスの偉大さをしのぶ多くの遺跡と教会、雄大で豊かな自然、海抜マイナス四百メートルの死海、そこにそびえるマサダの要塞、緑豊かなヨルダン川流域、ガリラヤ湖の印象的な美しい日の出、おいしい食べ物、そして圧巻はエルサレムの夜、スペースビールの祝福の光体(UFO)の出現等、とても感動的でした。

久保田先生とご一緒の旅行はいつも意義高く安全で調和的です。そして加藤純一、津田篤孝両氏の先生へのご奉仕が印象的でした。最後にこの素晴らしい旅行を企画された久保田会長、親切なスバルツーリストの小林社長、素晴らしいガイド福地パウロ氏、バスの運転手ミスター・モーゼ、ホテルで同室の会田晋一郎氏、参加された会員の皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

群馬県 成澤満男・由紀子

旅行前にわが勉強でアダムスキー全集のイエス関係の箇所を読み返したり、その他の本で知った名高い場面の舞台を実際に訪ねることができて、とても感動しました。

旅行中のホテルにおける質疑応答会では、常々疑問であったユダヤ民族のカルマについて先生から明確なお答えを頂き、心の片隅にあったモヤが晴れました。イエスのことを知れば知るほどユダヤに関しての疑問がわき出て、旅行最終日にはガイドの福地氏に「イスラエルにこれだけ多くのイエス関連

の場所があるが、現地のユダヤ人達はこのような場所へ来たり新約聖書を読んだりしますか」と尋ねたら「それはほとんどありません」という答えでした。その答えには半分納得しながらも寂しい気持ちも半分ありました。

(編注)イスラエル人すなわちユダヤ人は旧約聖書を經典とするユダヤ教信者なのでユダヤ教を批判したイエスを好まない民族)

その福地氏について先生からお話がありましたときには、キリスト教精神にもとづいた学校での授業で、内村鑑三の「後世への最大遺物」を読んだときの感動を思い出しました。今回の旅行は、遠回りをした後に戻るべき所へ帰ってきたような旅だったなと感慨深いものがあります。旅行中いつも感心していたことはただ一つ、参加者の皆さんが前向きで明るい方ばかりということですね。こんなに気持ちの良い団体が旅行できたことに感謝しています。

岐阜県 大谷和枝

GAPの海外研修旅行は第一五回目について私には今回で二回目になりました。本部役員の方や黎明会の方々も参加されて、これぞまさにGAPの旅行だなあとという素晴らしい一体感も味わわせて頂き大変感謝しております。GAPの会員ならば一度はイスラエルの国を訪れて偉大なイエスの足跡をたどってみるべきだと久保田先生はおっしゃっていました。私も奇跡的な

幸運に恵まれて聖地を訪れることができました。(編注)日本GAPはキリスト教とは無関係なるも、イエスが地球を救うために金星から転生してきたというアダムスキーの情報に基づいてイスラエルのイエス関係の遺跡を数度訪問している。右の情報は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」に出ている)

聞くと見るのでは大違いという言葉はまさにイスラエルにビタリとあてはまりますね。「大丈夫? 生きて帰って来てね」と、家の者がその国の名前を言っただけで心配してしまいます。それで私は職場の方にもたった一人だけに行く先を告げて、あとは私用とだけ言って休みを取りました。

エルサレムは上品な雰囲気を感じられ、それは夜景の照明にも感じられました。エルサレムでは聖書片手にガイドする福地パウロさんの言葉に引き込まれていましたが、勉強不足で、帰国してからガイドブックを読み直して理解を深めつつある私です。

またエルサレムのホテルで加藤さんから電話が入り、「いまUFOが出ています。一直線に輝いている!」とのことで、伊藤さんとあわててベッドから飛び出し、夜空を見上げました。肉眼では薄い輝きだったのですが、篠さんの部屋にかけつけて、かわるがわる双眼鏡で母船の輝きを確認しました。私が旅行中にUFOを見たのはこのときだけ

です。この旅行では先生との質疑応答の一夜がいちばん心に残りました。一度宇宙哲学を身につけても、それを失ったら二千年ぐらいい転生を続けても元に戻らない、よほどしつかりしていないといけない、大宇宙との一体感をいつも保つこと、その他の言葉がずしりと響きました。

この旅行でいろいろな方と知り合いになりました。これからの良い友人として一生の宝になりそうです。GAP活動をささやかながら続けてきて良かったなあと感謝しております。

大阪府 中村英津子

先日は初めて日本GAPの海外研修旅行に先生とご一緒させて頂き、とても楽しく過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

私の一番の収穫は参加者全員との一体感でした。とても初めて会った方々とは思えなく、どなたとも親しくさせて頂きました。私はガイドの福地さんの説明をテープにとっておりまして、いつも一番前に走って行っていたので、いつも一番前に走って聞いていました。あとで聞き直しますと、遺跡や聖書や歴史も勉強になりましたが、現在のイスラエルのこと、たとえばガイドさん自身のキブツでの生活体験、イスラエル軍での少しの入隊体験、PKO、中東戦争、他の団体のガイドでの体験話で大笑いになった声など、とてもいい記録と記念になりました。ユダヤ賢者の言葉で「自分達がこれか

らどこへ行ったらいいか分からなくなったら、自分達の来た所を振り返れば、おのずと行き先は見える」という言葉が印象に残りました。私はマサダの要塞がおもしろく、見ごたえがあり、なぜか説明の中のエリエゼル・ペインという隊長の名前が気になりました。また夜の質疑応答会も素晴らしい内容でした。同行の多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございます。

兵庫県 西村悠子

このたびはイスラエルの旅に参加させて頂き、数知れない貴重な体験を致しまして本当に有難うございました。今は懐かしい風景や人々の姿が目につかび、もう一度行ってみたいという思いにかられます。

エルサレムのオリブ山からの眺めはまさに絶景としか言い様はなく、ここには四千年の歴史があると思うと、その中で展開したであろうドラマを心に描きながらピア・ドロローサ、シオンの山(最後の晩餐の地)、聖墳墓教会、鶏鳴教会等、イエスの足跡を歩き、後半はイエス生誕地などをまわれました事はイエスを知るための最高の道筋であったと思います。また五〇年前に発掘されたクムラン洞窟やエッセネ派の遺跡には宇宙的波動が感じられ、死海での遊泳とともに忘れられぬ思い出になりました(以下都合により省略)。

個人的な事情で二〇年ほど日本GAPから遠ざかっておりました。会員でもない私が大宮での質疑応答会に出席を許される旨の通知が届きまして大喜びを致しました。書店直卸のユーコン誌を見て、申込み担当の会田裕子さんに問い合わせの葉書を送ったところ、早速に暖かいフィードバックの通知が届いた次第です。日本GAPがいかに宇宙的でオープンマインドであるかが、このことだけでもよくわかります。

I Witnessed A UFO After A Change Of Mind
by Katsunori Imazumi

精神の高揚でUFOを目撃

今泉克美

イーリングや想念が圧倒的な強さで私を迎えてくれました。重ねて感謝申し上げます。

UFOを目撃する

不思議なことが次々と発生しておりますが、一件だけ簡単に報告させていただきます。ご返信は不要です。この手紙を読んでいただくだけでプラスの支援が受けられると確信しているからです。

こんなに素晴らしい日本GAPを長年建設し続ける久保田会長に感謝致します。質疑応答会の運営を行なった黎明会の皆様、北海道や九州も含めて遠方から近くから多数の会員の方たちが質疑応答会を大成功させました。皆様に感謝致します。

この二〇年間たまりにたまったエゴ細胞と習慣的想念を会場に持ち込むのはどんなものかとためらわれましたが、久保田先生をはじめ、皆様方の良いフ

実は九七年一月二四日午後四時二十六分頃、UFOを目撃しました。経過は以下のとおりです。

宇宙の意識との一体感を大宇宙思念法で絶えず実践する

一五歳でアダムスキー氏の宇宙哲学を知って以来、四〇歳まで一度もUFOを見たことがありません。テレビ番組的な能力も未開発です。

大宮市の質疑応答会にて、UFO観測会等でスペースブラザーズ(友好的な異星人)にテレビ番組で呼びかける際のTPO(時と場所と機会)や、コツについて質問があり、会長のご回答をお聞きしました。それは次のようなものです。

「宇宙思念法を行ない、心を純化し、自分は宇宙と一体である、スペースピープルと一体であるというフィーリングを起こす。もし余裕があれば姿を現わして下さいといねいをお願いする。人の気配のない静かな所で行なう。スペースピープルが忙しくない時間帯を考える。熱心な人と観測会を行なうとよい」と私のメモに残っています。

質疑応答会後の夕食会、二次会、三次会、翌朝の朝食会を通じて、伊豆支部の高梨代表のテレビ番組的なフィーリングに感動しました。ユーコン誌一三九号の高梨代表の記事を読み、大自然と一体化するフィーリングを起こすことの重要性に改めて心を打たれました。

一月二四日は晴天でしたので、ふと思いついて新潟県の角田岬にドライブ。岬の灯台までよじのぼってUFO観測をしようと思いましたが、

ドライブ中、「私は宇宙の意識と一体である」と声を出して唱えたり、心の中で唱えたりを続けました。岬に到着。三時頃でした。灯台からさらに岬の高い所まで登りました。

天候は良くて、山の木々や海、靑空の展開で良い気分になりました。

宇宙思念法を実践しました。自然との一体感を少しでも味わうため、波や風の音に耳を澄ませて景色を楽しみました。

久保田先生のご指導に従って呼びかけました。疲れると再び自然の美しさに身を投げ入れました。

四時頃までに出なければ帰るべきだという印象などがありましたので、帰途の時刻を気にしました。しかし車の中にしか時計がありませんでしたので、太陽の位置を見て即時帰途につきました。

UFOは出ませんでした。が、かかりませんでした。最後に宇宙思念法を行ない、心の中で「有難うございました」と唱えました。

帰途の車中にて「私は宇宙の意識と一体である」と念じ続けていました。これは単なる習慣です。これを行なうと安全運転が自動的に行なわれます。

輝く光体が出現

帰途、新潟市内野からバイパスに乗る。亀貝ICの近くを通りすぎたところで、道路はまっすぐに直進可能となりました。進行方向は新潟方面で、だいたい東の方向を向いておりました。夕日は車の後ろ側となります。

ふと気がつく、左斜め前方に光体

が静止していました。やや仰角でしたが、近辺に雲一つなく、本格的な夕方にもなっていますので、バックは少し暗い青色でした。距離不明了。時計は四時二十六分を指していました。

反射的に「これは飛行機だ。夕日を受けて輝いているのだ」と思いつつもしばらく見つづけていました。飛行機雲はありませんでした。

前方の車との車間距離を確認するため、いったんは目を離しました。飛行場の近くに自宅がありますので、飛行機は見慣れております。そのことを思い出し、じっくり観測しようと思いましたが、

信念こそ最も必要なもの

再度光体に目をやると、輝度がかんり激しく、これほどの輝きは見たことがありませんでした。まだ静止していません。輝度が上がりつづけてました。

再度車間距離を確認。UFOかもしれないと思えました。感謝の念を発しました。

再度光体に目をやると、今度は急速に輝度を減じて、そのままの位置で消失しました。あとには空しか残っていませんでした。

テレパシクな能力は未開発状態です。今回の光体からの印象は受けられません。ただ、二四日の一

二時三〇分頃の私の行動と関連があるかもしれません。

不思議なことはまだいっばいありますが、疑念も過信も起こさず、ニューラルな気持ちでいようと考えています。真にテレパシクになれば解答が得られるものと感じています。

それにつけても、私のカルマを考えますと、信念こそが最も必要とされているようです。多数発生しております最近の不思議な事は、小さな奇跡として積み重ねて大きな信念にしてゆくためのステップだと思っております。くじけそうになることも、ままありますが、今後とも久保田先生のご指導を仰ぎたく思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

二月の東京月例セミナーは、いつにもまして心に響きました。特に私の質問票のご回答にて、意識的な知覚力の拡大と進化への道に信念に忍耐の第一歩について、具体的な説明をいただきましたので、帰途、幸せなフィリッングに満ちて、新幹線の中で東京から新潟まで自分の顔がニコニコして止まらないほどの充実感を味わいました。

新潟県に入ってから車中より赤く点滅する光体も見ました。なにやら素晴らしい一日でした。これもみな久保田先生のご指導によるものです。感謝の言葉だけでは足りません。日常生活で教えを生かし、研鑽し、少しでも早く力をつけ、先生のお役に立てるようがんばりたく思います。いつでも私をお使

い下さい。使って下さることで私も進化すると思うのです。

それにしてもシンクロニティーはつついております。二月の東京セミナー後の夕食会に向かうタクシーの中で同乗した女性お二人が(初対面)新潟出身の方で、夕食会でも相席になったこと。今回初めてセミナーに参加した非会員の男性と隣合わせに座って仲良くお話をした。先月の夕食会で親しくお話させていただいた渡辺康英さんが、今月の会員による講演者で、お話の内容が今の私にちょうど必要な題材であったこと。ある支部のことに関して何となく気がかりだったことが、同席したその支部の古参会員の方、そして本部のKさんからのお話ではつきりとしてきたこと、すべてタイムリーなのです。そこで、その支部に対していろいろな方からメッセージをいただきましたので、それをその支部代表宛に出しました。つぎのとおりです。

● 宇宙思念法をもっと行なうこと。
すなわち意識の指導に従うこと。

● UFO観測会を積極的に開催し、宇宙思念法を応用しながらテレパシクな能力を増大させること。そしてブラザーズの支援を受けること。

● 支部大会を開催して、なんとしても久保田先生をお招きし、直接高い波動を受ける機会を支部会員に与えること。また支部月例会でも、もっと久保田先

生のご講義のテープを重視すること。すなわち久保田先生のご指導に従うこと。その他です。

編者注以上は筆者・今泉氏のニューラルな立場での見解と激励を述べたまでで、けつして非難ではない。氏はまれに見る純粹にして謙虚な方で、年齢は一〇歳以上若く見える男前。東京月例セミナーでは毎回新潟県から上京して参加し、会場の最前席に座って、いつもニコニコしてうなずきながら話を聞くという模範生。

過去三〇年近く月例セミナーを開催し続けて無数の人々が走馬灯のように去来したけれども、結局は各人のカルマに従って自身で行動を決定しているようである。それでよいのだろうか。問題は個々の反省と自覚につきると言えるだろう。それを今泉氏は的確に実践しているようである。



「生命の科学」 1万回読破で 超能力が発現!

Reading Adamski's "Science Of Life" Ten Thousand Times, I Developed Super Natural Power
by Masanori Ikegami

★池上正則

筆者は古くからの熱意ある日本GAP
会員。アダムスキーの名著『生命の科
学』を一万回読破した結果、驚くべき
能力が発現したという。現在は二万回
目を目ざして読破中。

テレパシー能力が発生

二日前、久しぶりに日本GAPの資
料を整理致しました。一九九五年一月
二九日付け久保田先生のお返事の中
で「『生命の科学』の一萬回読破は大変
なご修業ですが、これは素晴らしいカ
ルマが身につけて超能力等も開発され
ることになると思われますので、ぜひ
とも達成されますことを期待しており
ます……ときには何かの精神的変化が
生じましたならば、中間報告をお送り
下されば幸いです」と書かれてあった
のを見て、これは大変だ、ぜひとも先
生に知らさねばいけない。もしかした
らGAPの将来がかかっているかもしれ
ないと思ひを取りました。

実は重大な精神的变化が起こったの
です。私の心に「答え」が浮かんでく
るのです。自動的に。もしかすると、
これが心と心の通信、無言の会話術、
テレパシーではないかと思つたことが
あったのです。

さらにもう一つ重大な発見をしまし
た。それは想念観察の仕方です。偶然
に発見しました。これはなかなか継続
できません。かつて想念観察手帳を先

生が頒布されましたが、いつのまにか
なくなりました。アダムスキーはノー
トの右頁と左頁に宇宙的梦想と非宇宙
的梦想を書いたのです。

実は私は、もしかするとわれわれ一
般会員にもできるのではないかと思
うようなアイデアを思いついたので
その前に示しますが、今年度の「生命
の科学」読書量は次のとおりです。

月	月読書量	1日平均
1	27回+11課	10.806課
2	26回+10〃	11.5 〃
3	26回+1 〃	10.098 〃
4	20回+8 〃	8.267 〃
5	5回+2 〃	2.000 〃
6	23回+ 〃	9.2 〃
7	31回+7 〃	12.226 〃
8	29回+7 〃	11.452 〃
9	27回+6 〃	11.000 〃
10	26回	10.065 〃
11	22回+2 〃	8.58 〃
12(22日まで)	11回+5 〃	6.227 〃
合計	277回+11課	9.368 〃

平成七年三二六回十二課
平成八年二七八回十八課
計 八六六回十九課

ただし手を見つめる練習は平成七年
五月二六日から始め、平成九年五月七
日で終わってしまいました。また、金
の輪を見つめる練習は平成七年七月二

六日から始め、平成九年五月七日で終
わってしまいました。それがまことに
残念です。

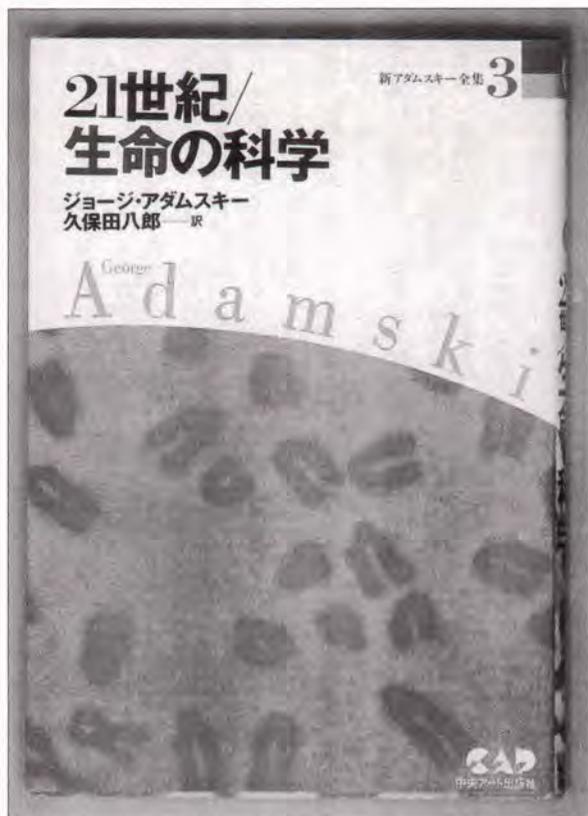
福山支部にお詫び

実は私、先月(平成九年十一月)の
日曜日、久しぶりに二回目に福山支部
月例セミナーに出席させて頂いたので

す。前日夜遅く家に帰り、
少し疲れていて、その翌
日は朝起きたのがもう一
〇時過ぎでした。広島
の家を出て福山に着い
たのが一時二〇分頃でし
た。遅れてすみませんと
いう気持ちで中へ入ったの
です。

ところが、そこはもう
午前中で学習会は終わり、
忘年会会場になっていた
のです。しかも残つてい
た方は将来福山支部を背
負って立つような熱心な
人々でした。彼らには本
当に申し訳ない。許して
下さいと思う気持ちでし
た。私はGAP脱会覚悟の上
で、そのすれすれのとこ
ろで「場」を作つてみたいと思つたの
です。

先生、本当にすみません。先生のと
ころにも変な情報飛び込んでい



高校生の頃の思い出

もしれません。こんな人間、本当はGAPにいてはいけないのです。先生には勝手ながら私の生涯の恩師と思わせて下さい。私は先生の指導を受けてきました。そのご恩は忘れません。私はアダムスキー哲学とともに育ってきました。文学とアダムスキー哲学を除いたら何も残らない男です。

私は先生をアダムスキー師と並ぶ将来の地球の指導者と見抜いていました。三三年前、私が高校一年の秋当時の日本GAPニューズレター（編注Ⅱ現在のユーコン誌の前身）を先生がお送り

下されましたご恩は決して忘れません。ちょうど土星旅行記（2）が載っていました（編注Ⅱ今は新アダムスキー全集第五巻に収録）。私は全く疑うことなしに夢中で興奮して読みました。

また高校三年の夏、私は大変恥ずかしい男でした。とても恥ずかしい男でした。先生には忙しい中、手土産一つ持たず、宿も決めず、勝手に島根県益田市古川の先生の家を訪れたことがあります。そんな私に先生は近くのYMCAの宿を紹介して下さいました。先生と歩いたことを今でも懐かしく覚えています。

（編注Ⅱ編者もよく記憶しており、あのかのときの高校生池上君が現在まで熱心

な会員だったとは驚いた次第）

そんな恥ずかしい私に先生はアダムスキーの金星旅行記の原稿を見せて下さいました。ニューズレターに掲載される前の原稿でした。なぜ先生は私に見せて下さったのか不思議に思い、感無量でした（編注Ⅱ金星旅行記も新アダムスキー全集第五巻に収録）

もしかすると各国GAPリーダー以外にあの原稿を見た人は普通の人では私が最初ではなからうかと思うと感無量です（編注Ⅱそのとおりの当時の池上君が最初だった）。ご恩は決して忘れません。GAP以外に私は生きる場所がないのです。次の世に生まれ変わったらまた日本GAPに入会させて頂きたい。GAPを離れた人間は数多くいましたが、私、池上ほどにGAPを愛していた人間は他にいなかったなあと思います。絶対に他人が書けない名文をいつか私は先生にお送りします。おそらくそれはGAPの発展に役立つはずです。そうした置き土産を残してこの世を去ります。

自分のテレパシーに驚く

福山支部の件に返りましょう。私は心苦しく思いました。皆さんにすまないと思いました。本当はこんなことをしたくなかったのです。私は会場の人達にある言葉を次々に投げかけていました。それはまるで上空から指導され

ているかのごとく、その言葉が自然に口から出てくるのです。次第に会場は、「感覚の世界」に導入されてくるようでした。

私は心中にふいに浮かんだ言葉がありました。

「日本人にはパフォーマンスやジェスチャーは必要ないのだ」と。

その場にいた彼や彼女らは自然に私の言葉に反応しました。もしかすると、これが心と心の通信、つまりテレパシーなのではないかと思ったのです。心の中に「答え」がすぐく自然に浮かんでくるのです。私は驚きました。初期の文久書林から出ていたアダムスキーの赤い表紙の本に「テレパシー、無言の会話術」と書かれてあったのを思い出しました。とにかく、次々と答えが浮かんでくるのです。私は驚きました。

過去世の記憶を語る

びんご荘を出て次に八人ぐらいのグループで福山駅前のホテルの地下一階の喫茶室に入り、ここでも深遠な話をしておりました。ほとんど私一人がしゃべっていたのです。本当は支部代表を立てねばいけないのです。でも私が話し終わると、もう次に誰もついてこないのです。私は自然に押し出されて話し続けていました。私は皆さんに申し訳なく思いました。

途中で名前は知りませんが、ある女

性会員の方に私はうっかり誘導尋問にかかっておりました。彼女は前世を記憶し、文学好きな人のようでした。私の(過去世の)フランス時代の文学活動に対する質問でした。

彼女はある流派について質問してきてたのです。その流派に属していたかという意味のようでした。

私「神秘主義——アダムスキーの言う神秘主義(心靈主義)ではございませんよ。その神秘主義グループの流れの中の誰か一員だったようにも思われません」

彼女はある人名をあげました。

私「どうもそのような名前の人物ではなかったかのようにも思われます」

男の人「名前を覚えていた？」

私「ええ、名前は覚えていました。かつて私は写真か絵かで、過去世の自分の姿を見たことがあります。大陸書房か何かの本である人物が出ていました。それを見て私は、なんだ、これは自分ではないかと思つたのです」

男の人「現在は名前を忘れている？」

私「ええ、覚えていません。現在は忘れています。しかし私がたとえ自分の名前を覚えていても絶対に人には言いません。もしご家族の方が生きていれば、なんとバカな事だと思つてでしょう。過去はもうないことなのです。現在の成長には役立ちません」

良き回路(イメージ)を組むこと

とにかくそんな(過去世に関する)言葉が自然に口をついて出てくるのです。実はこの「回路(未来のイメージ)」は私が広島から福山に向かう途中、自然に組んでいた何本かの回路の一つだったので。車の中ではそんなことをしてはいけません。危ないからです。

ところがその回路が現実に出現してくるとは、それも私が組んでいた回路と全く同じ場面に出くわすとは！私 はもうびつくりしました。驚きました。また、おかしくもありました(いえ、そんなことを思つてはいけません)。とにかく複雑な何とも言えぬ心境だったので。ここでもいろいろな貴重な教訓を学びました。自分の組んだ回路はいつか実現するのだと。

この世には二つの回路があります。感覚(例、金星)の世界の回路と、音声(例、地球)の世界の回路とが、とにかくその適度な場に遭遇すると、たとえ忘れていても過去の自分の組んだ回路がひよつこり実現してくるので。ですから良いイメージ、良い回路を組むことが大切です。変な回路を組むと、それを打ち消す強力な回路を必要とします。たとえば過去の交通事故をよくよく思い、今度は自分は相手に負けまい、今度はこう対処してやるぞと思つ

て回路を組んでいると交通事故をくりかえしたりします。

イメージ法で息子が全国大会に出場し、さらに有名人へ入学

私はこのところ、他人が気づかないアイデアが次々と浮かんでしまうのです。それには理由がありました。私には二人の息子がいます。長男は昭和五十二年生まれです。

彼は中学の時、新潟で開かれた陸上の全国大会(通称、全日中と申します)に陸上競技の三〇〇メートルに出場しました。県予選の通信大会前、私は少し無理かなと思つていましたが、私は彼にイメージ法を教えていました。この大会で九分八秒を切れば全国大会に出られます。彼は三位で九分六秒八で、かろうじて全国大会出場を決めました。これは心の中で全国大会出場を決めて親や友人に祝福されている光景を描くと教えたのです。

私は息子の高校は地元の進学校へ行かせたかったのですが、中学校の先生の抵抗にたい、県立のS高校に入学しました。長距離走駅伝の熱心な学校です。しかし足の故障で一年の夏、学校の寮を出て家から通学しました。片道二時間の距離です。大変でした。

私達夫婦は大いに悩みました。はじめは元気が通つていた息子も次第に学校を休むことが多くなりました。彼は

勉強一本に進路を変えていました。どうにかお情けで高校を卒業させてもらって一浪後、彼は東京の新宿区にある日本では一応有名大学と知られた私立の大学に入学しました。親が三流大学しか出ていないため、合格を知ったときは私達夫婦は信じられなくて、一、二週間はボーとした状態でした。彼は無理と思われた大学に入学したので。塾の進路試験ではいつもすれすれのところだったので。ところが行きたくないと思つていた地元の国立大学(親不幸な子ですが)は見事に不合格でした。彼の思つていたとおりになったのです。

ここでも私は彼にイメージ法を教えていました。自分の行きたいと思う大学のイメージを心に強く描くと。彼は年末にわざわざ広島からその東京の大学に行き、一日体験入学をして、そのイメージをさらに強く心に描いたようです。そのようにイメージを続けていると自然に自分が受ける試験問題をやっていけるようなコースを取るようになるのだと説明しました。冬期講習は別の塾で受けたのですが、ここで似たような問題が多く出たとのことです。また一月にある本屋の前で英単語の本を偶然に見つけて買い、それを丸暗記していたら、そこからも似た問題が出て、それで一〇点か二〇点の得点の上乗せが出来たとのことです。とにかくイメージ法の効果はすごいと思います。

苦闘からの脱皮

それは別としまして、地方の者が東京の私学に息子や娘を入れるのは大変なことです。たいした職場でない所で働いている私にとっても、それは大変な金額を要しました。受験料、交通費、ホテル代、入学金、前期納入金、他大へへの捨て金、不動産屋を通しての住居の確保、引越越し費用、家電、机の配備 e t c.

ある日、女房が喫茶店で女性週刊誌を見ていました。地方の者が子供を東京の私大へ行かせる場合、始めにいたいどれぐらの費用がかかるかといえますと、それには三三〇万円と出ていました。そうすると内ではどれぐらいかと二人で計算したのです。やはりそれぐらい、いやもつとかかったかもしれません。二人はもう計算しなくなりました。残りの貯金はわずかで、毎月自分のもらう給料以外に何万という金を必要としました。みるみる通帳の残高は減ってゆきます。私は苦しかったのです。何とかしてこの苦しみを逃れたかったです。それで再び私は文学への道に向かっていたのです。

文学作品の不思議な出来映え

私は地元のA文学という文学同人会に入っていました。もう二〇何年前か

らのことです。「生命の科学」もたくさん読みましたが、文学書も多く読みました。群像、文学界、野性時代、すばる、海燕、韓国芸文も読みました。

これらを部屋には置ききれず、家の外の倉庫にも山積みになっておりました。でも読めば読むほど書けなくなってきたのです。一〇年前、ある老齢の芥川賞を取られた方の作品を読ませて頂きました。うまかったです。素晴らしい作品でした。私には絶対書けませんでした。それを見て私は、ああ、これは自分には文学はこの世では駄目だなと諦めていたのです。あとは平凡なサラリーマンでこの生涯を終わろうと思っていたのです。私は文学の道は捨て去りました。しかし私はアダムスキー哲学の道は捨ててはいませんでした。

しかし、今度は書けたのです。不思議でした。私は「心と心の夜明け」と題する一〇一枚の作品を二月一〇日に脱稿し、自分のペンネームを池上正則と名付け、次の一日にある出版社に送ったのです。嬉しかったです。この世で一応文学作品が書けたからには、世に出ようが出来ないが問題ではありませんでした。私が書く題材は全て目の前にあったのです。ただ、私はそれを書いて作品を仕上げました。(過去世で)フランスで世に出たときと全く同じでした。私にはふたたび文学の才能がよみがってきたようでした。

この作品は一応奇めをテーマに書いて

たのですが、感覚の世界をテーマに巧みに精神的トリックを用いて、その世界を描いてゆきました。そして人間の心の世界、この世に流れる二つの精神の世界を描いていったのです。確かに自分で書いた作品でした。でも誰かに書かされている作品でもありました。誰かに乗せられているとも思いました。もしかすると、とも思いましたが、自分はそのなふうには考えないことにしています。

とにかく出来上がった作品を読みなおして私はびびりました。完全にハマっていました。心の法則、感覚の世界が実によく分かってくるのです。自分で書いたのに実に不思議でした。ときどき心が不安定になると、その作品のコピーを読みなおしています。実に役立ちます。そんなすごい(自分で言うのも変ですが)作品なのです。

大きな変化が起こる

それからです。その作品を終えてから私の頭に回路が出来上がっていたのです。その回路は結婚前に一度解かれていたのです。上空から「君は当分文学作品は書けないよ。奥さんと結婚して、しっかりと人間の人生の基礎を作ってゆきなさい」というような指示があったかどうか分かりません。

私は地球の人々に多くの指導を受けてきました。皆さん親切な方ばかりで

した。地道に私に仕事や人間関係を教えて下さいました。有難かったです。基礎がだんだんと出来てきたようにも思われました。

私は四九歳です。来年五〇歳です。人生五〇年と言われた方が過去にいらつしやいました。一時代前の者なら人生の終わる時です。やっと思われてきたのです。少し遅かったかもしれせん。そしたら文学が書けたのです。それからです。私に大きな変化が起きたのは、私は①情報とは想念の流れだと分かったのです。これには感覚と音声の世界があります。そして②回路を組むこと。そしてそれを発現するには適度な時と場が必要だと分かったのです。

だから私は福山支部の皆さんには大変失礼なことをしたと思うのです。許して下さい。もしお許し下されば私は福山支部を手助けしたいのです。もちろん支部の会合では私はダンマリを決めます。もう私は決して変なバカ話はしません。発言を求められたとき以外は話しません。私は栗田支部長を立てます。広島島の田舎のペンペンに徹します。そして支部の会合が終わったあと、例のホテルの喫茶室で数人の仲間と、私は心と心の通信について彼らと話し合いたいのです。

アイデアは私が出します。そして皆で協議して、何とかならないものか、

出来れば基礎を作りたいのです。私は今でも不思議で信じられません。もうまくゆけば心と心の通信が可能になるかもしれません。

心と心の通信（テレパシー）の研究を

彼ら異星人は地球人に彼らの秘密を直接伝えられないようです。これは地球人が独自に研究してゆかねばならないことなのです。

実はこの心の通信には重要なポイントがあるようです。私は小説を書いてびつくりしました。なぜこんな事に誰も気づかなかつたのだろうか、と、科学者でもない私とその謎を解いたのが不思議でした。盲点があるのです。盲点は例のバシル・バンデンバーグも磁気の分野で発見しています。心と心の通信にもそれがあるのです。ノーベル賞級の発見かもしれません（こんなふうに自惚れてはいけません）。

私は福山で皆で基礎を築いて支部代表の名で東京本部に持ち上げ、そこで完璧なものにして欲しいのです。恐らく先生はそれを当初、GAP内部だけに広められるでしょう、とは思いますが、私には今もって不思議で、信じられないのです。あまり自信がないのです。成功率は五〇パーセントぐらいかもしれませんが。出来ればそれを許して頂けないでしょうか。

結果的に素晴らしい夫婦だった

それと想念観察の、これは私が小説の中で書いた『人生の想い出の絵』として書かれた場面を自分で記してみようと思ったのです。その日は悪いと思つたのですが、仕事もそつちのけで朝一〇時頃から夜の八時までじぶんのこれまでの女性との付き合い、女房との出会いと結婚、彼女との想い出、息子達との想い出とを心が空になるまで書き続けました。そして書かれた文章を、二度読み直したのです。この後、一、二度と読むのがミソです。そこに全体の流れがパツと浮かび上がります。私にはなんと女房と子供達に数多くの素晴らしい想い出を残していたことでしょう。私はもう感無量でした。ああ、私が馬鹿だった。女房、子供達にはものすごく迷惑をかけている。私が悪かったと涙が出ました。私は素直に反省することができました。ここから想念観察法のアイデアを思いついたのです。

女房は口は立つ、竹をナタでスパツと割つた男のような性格です。でも美人です。私は無口で、心の中を常に見つめて内にこもる性格です。ただ、人を傷つけない、ただ忍耐のみの方のような性格です。私は男です。まるで女と男の立場が逆転したような両者です。よく二人が結婚したと思いま

す。結婚とは縁だとよく申します。実はそれが二人の縁だったのです。実はそれが私として最上の縁だったのです。

最上の妻に感謝

私はよく見合いをした男です。ただ、地域の名門（本当はこんなことを言いたくないし、バカらしいし、たいした家柄でもないのですが、私は生命の連続をへ人間の生まれ変わりを）小さい頃から誰よりも信じていました。自分の過去世を知っていたのです。父親の言うことに反発していません。それがいけなかつたのです。ですから語らない人間になつていたので。でも母親の言う事は素直に信じられました（というだけで、多くの方が縁談を世話して下さいました）。

私はGAP会員のイメージの女性に憧れていました。日本女性特有の恥じらいの心を持つ女性に憧れていました。しかし、いつもそのような女性にはスルリと逃げられていました。一瞬の恋愛もしました。なぜか彼女もスルリと私のもとを逃げ去りました。そして結婚したのは当初私が考えていたとは、まるで反対の女性でした。

私達は昭和五二年六月に結婚しました。その結婚した日の夜、私達は京都タワーホテルに宿っていました。夜、最上階の展望室で二人で飲み物を飲んでいましたが、そのとき私は思ったの

です。「僕はこの人をきつと世界一幸せな人にしてみせる」と。彼女は私にまつとうな生きる道を、自分の心を殺してずつと教えてくれていました。

私は最近やつとそれに気づき、すまなかつた、有難かつたと思つたのです。私に好きなようにアダムスキー哲学を勉強させてくれたのも彼女だったのです。私は彼女と結婚できて幸せでした。今はまだその夢は実現していません。でも努力は続けます。

書きたい事はまだいっぱいあります。イメージ法の面白い結果も三つ四つあります。本当に申し訳ございません。私は現在では感覚の場は消えて、日常生活でテレパシーの経験はありません。しかしあのとき、福山支部の経験で私は心と心の通信のヒントをつかみました。これを何とか支部の皆様の協力でモノにしたいと思っております。もちろんアダムスキー哲学をしっかり勉強した上で研究して行きたいのです。

まず家庭の調和を

GAPの会員の方は、多くは家庭内が調和した状態にあると思われませんが、不幸にして不和状態になりかけてもGAPの人はそこから脱出できるのです。そのヒントはやはりアダムスキー哲学にあるのです。これも私の経験からはずきりそう言えるのです。アダムスキー師は何と偉大な哲学をこの世に残されたかと思う昨今です。

—第5回—

日本GAP黎明会主催 久保田先生 質疑応答会

●日本GAP内部で久保田先生を強力に支持する若手グループ「黎明会」は、昨年11月大宮市における盛況質疑応答会に引き続いて、今年も下記の要領で関西地区において盛大に開催致します。めったにない機会ですから関西地区の会員の々は多数ご参加下さい。UFO問題、宇宙哲学の学習、幸福な人生を過ごす方法その他の質問は何でもOKです。博学多識な先生が懇切丁寧な回答をされます。(この質疑応答内容はユーコン誌には掲載されません。またこの著作権は日本GAPに帰属しますので他の印刷物には使用できません)

現地責任者 小原 明

(1) 観光

- ★日時 6月13日(土)(会の前日)
- ★会費 ¥2,000(観光のみの会費)
- ★集合地 近鉄飛鳥駅前に午後1:00集合。
- ★観光先 奈良県高市郡明日香村の高松塚古墳、高松塚壁画館、石舞台古墳、橘寺の二面石、吉備姫王墓(猿石)、その他を自転車または自動車(自転車に乗れない方)でたっぷりと周遊。*雨天決行。ただしコースを少し変えて高松塚古墳、同壁画館、飛鳥歴史公園館、奈良国立文化財研究所、飛鳥資料館、飛鳥民族資料館その他を見学。

(2) 質疑応答会

- ★日時 6月14日(日)午後1:00~4:00
- ★会場 「奈良県中小企業会館」4階中会議室。(当初奈良県文化会館を予定していましたが、都合により変更)
- ★交通 JR新幹線「京都駅」から近鉄「京都駅」で乗り換えて近鉄「奈良駅」下車、東へ徒歩2分。またはJR関西本線・奈良線「奈良駅」から奈良交通バス(市内循環)で「県庁前」下車、西へ徒歩2分。
- ★会費 ¥3,500(当日会場受付で納入)
—プログラム—
- 1:00 開会 司会 高木 伴幸
挨拶 小原 明
- 1:05 質疑応答 久保田八郎
- 3:00 休憩
- 3:15 大宇宙思念法の実践指導
- 3:45 全員記念撮影
- 4:00 閉会

(3) 夕食会

- ★時間 午後5:00~7:30
- ★会場 すく近くの「奈良県文化会館」1階第3会議室(立食形式)
- ★会費 ¥5,500

(4) 予約申込

- ★申込先 ハガキに「質疑応答会出席」「夕食会出席」「観光参加」のいずれかを記入し、5月20日まで必着で下記へお送り下さい。
〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋4-7-4
福井貴子(宛)
- ★問合先 会田裕子(黎明会副代表)
☎0492-81-4267

(5) 宿泊

- ★ホテル ①「ピープルスイン花小路」
☎0742-23-8753
近鉄奈良駅より南へ徒歩1分。ツイン¥13,000~14,000(税別)
②「グリーンホテル馬酔木(あしび)」
☎0742-26-7815
近鉄奈良駅より北へ徒歩1分。シングル¥6,400~6,900(税別)
- ★申込先 宿泊希望者はホテル名、宿泊日を明記、上記の福井宛ハガキに併記して下さい。

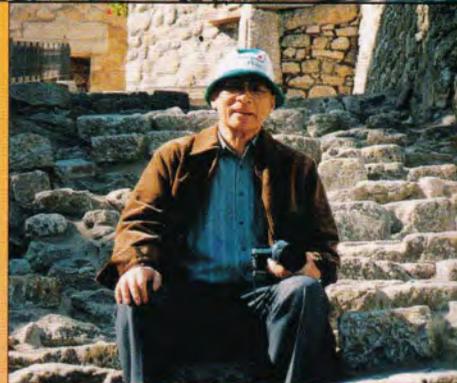


▲奈良県中小企業会館

●久保田八郎先生ご紹介

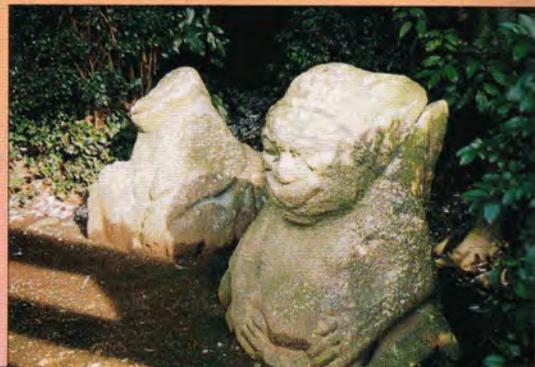
1924年生。慶大卒。わが国UFO研究界の大先駆者で特に宇宙哲学実践指導者としてトップクラス。世界のUFO研究界でも知られている方。日本GAP創立以来、37年間啓蒙活動を遂行し、新アダムスキー全集11巻の翻訳、UFO関係著書多数。デンマーク、アメリカ等でUFO問題を英語で講演。今秋は韓国ソウル市で講演の予定。年齢不相応な強じんな体力を発揮し、海外渡航も40回近い国際的指導者。

加藤純一



▲久保田先生 エルサレムのイエスの石段にて。

撮影/加藤純一



▶猿石



▶石舞台古墳

宇宙の法則のもつて生きるスペース・ブリアザーズ (4)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳

〈アダムスキー講演集 連載21〉

(前号からの続き) 心靈主義者は人間が死んだ後は死者の靈魂が靈界といわれる世界に行つて、そこでしばらく休息するという説を信じているけれども、これは徹底的に間違つた説であると述べている。つまり靈界なるものは地球人の空想によつて想像されている実在しない世界という意味。つまり人間は死後数秒間で別な新生児の肉体に転生するので、中間の靈界なるものは存在しないということの説明したのである。アダムスキーは超絶した文明を持つ別な惑星の人々によつてこのような知識を与えられているのだが、現段階の地球人には容易に彼の知識が理解できないと言われている。

人間は死後すぐに転生する

これは多くの賢者たちが語っていることです。イエスも言いましたし別のメシアも言っています。彼らもさまざまな言葉で同じことを語っているのです。たとえばイエスは一緒に十字架にかけられた泥棒に向かつて「あんたは

今日、私と一緒に楽園にいるだろう」と言っているではありませんか。

(訳注) これは、いま我々は殺されるもすぐに別な良い環境に生まれ変わることができるといふ意味) としてイエスの場合は地球から自分の肉体を持って行きました。本当です。それは物質の肉体がどこにでも行くことができるといふこと、そしてこのことは、宇宙には我々と同じ肉体を持つ人間が他にも沢山いて、この地球と同じような惑星はほかにも沢山あるということ、人々に知らせる役目をおびた人間に時折起こることなのです。それら人々に伝えることが、特定の人間が肉体を持ったまま地球を去ることの大きな目的の一つなのです。

(訳注) イエスは十字架上で実際には死なないで仮死状態になっていて、肉体が墓所に埋葬されてから深夜スペース・ブリアールがやって来て、特殊な機械で放射線をあてて生き返らせて連れ出したあとで宇宙船に乗せて健康体にしてから地上に降ろしたので、弟子たちは「死者が復活した!」と言って驚い

た。そしてその後イエスは健康体のまま大宇宙船で別な惑星である金星へ連れて行かれた。

一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州ザートセンターに着陸した金星の小型宇宙船から出て来た金星人は二千年前のイエスが転生した姿であり、会見したアダムスキーは、イエスが十字架にかけられたとき最後まで救出の機会を狙っていた一二弟子の一人のヨハネであった。そのとき金星人は「今度はあなたを援助してあげよう」と言つたと伝えられている)

メリー夫人の急逝

ただし地球人の誰もが肉体を持ったま別な惑星へ行けるわけではありませんが、もし誰もがそうしたら地球には土がなくなつてしまいます。そのとき彼らは肉と骨の形で土を地球から持ち出すことになるからです。肉と骨はそのレベルまで高められた土にほかなりません。もし誰もがそれを持ち出すようなことになつたら、すぐにこの

地球には土がなくなつてしまいます。ですから、一般的には、この地球を去つて別な惑星に行く人々のための肉体は、その行く先の惑星で誕生することになるわけです

(訳注) ただしあらゆる死者がすべて高度に発達した別な惑星に転生できるわけではない。この地球上で高度なレッスンを学んだ人だけが転生(生まれ変わり)によつてさらに高度な惑星へ進学できることになる) たえば、この私もこの事が信じられない時期があつたのです。そうですね。一九一七年、私は妻のメリーとイエローストーン国立公園で知り合いました。

(訳注) イエローストーン国立公園は米ワイオミング州西部とモンタナ、アイダホ両州にまたがる有名な国立公園(間欠泉で有名)。

そこで私は政府関連の仕事をしていました。ちなみに私はこれまでずっと後半の人生のほとんどは政府関連の仕事をしていました。

さて、私たちの最初のデートのときです。私たちはその公園に出かけて行



▲晩年のジョージ・アダムスキー
1975年11月、米マサチューセッツ州ノースポロでアリス・ボマロイ女史から記者に贈られた写真。 ©日本GAP

きました。その夜はすごくきれいな星空が広がっていました。手を伸ばせば届きそうな星々が沢山またたいていました。そのときに彼女がふと言ったのです。

「えーと、あれが金星ね。この次に私はあそこで生まれ変わるわ。私はね、今度は金星で生まれ変わるのよ」

私はそれに対して何の反応も示しませんでした。そのことがその後で二人の話題にのぼることもありませんでした。

私たちは結婚生活は三六年にも及びましたが、その間に彼女は年に一度か二度ぐらいの頻度でこれと同じことを口にし続けました。

そして、そのつど私たちはそのことを意に介しませんでした。彼女は話しつばなしで、私は軽く聞き流していたのです。

ところが一九五四年にメリーが亡くなって一段落した後、私はそのことを思い出しました。

「そうだ、メリーのあの願いはかなえられたのだろうか？」

（訳注Ⅱメリー夫人はパロマー山の住居からロサンジェルズへバスで出かけてまもなく同市で急逝した）

当時はまだそれをたんに彼女の「願い」だととらえていましたので、そんなふうな考えていたのです。

転生した亡き妻との再会

するとそこに、テレビでレインジ・ライダーを演じていたジャック・マホーニーという俳優がやって来ました。私と彼とはとても親しい間柄でした。その彼がやって来るなり私にこういう言うのです。

「やあ、ジョージ、いったいどうしたんだ？ 何があつたんだい？」

私は答えました。

「いやあ、ちよつと考え事をしていました。メリーを埋葬してから二週間になるんだけど、家内のあの願いはかなえられたんだろうかとね」

（訳注Ⅱこの頃は訳者がすでにアダムスキーに書簡を出して連絡し合っていたけれども、夫人の逝去に関しては全く知らされなかった）

するとジャックは言うのです。

「あんたは、あれをただの願いだと考えているのかい」

私は言いました。

「ああ、そう言っているんじゃないかな」

それから二日して今度はオーソンがやって来ました。一九五二年に私が砂漠地帯のデザートセンターで会見した例の金星人です。

（訳注Ⅱこの会見事件は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に詳述。オーソンというのはア

ダムスキーがつけた仮の名前）

彼はメリーの願い（死んだら金星で生まれ変わりたいという願い）のことを話題にすると、

「どうして疑うんですか」と言つて眉をしかめました。

そこで私が「いや、疑っているわけではありませんよ。ただ、とても興味があるんです」と答えると、彼はこう言つたのです。

「彼女はすでに生まれ変わっています。この地球上で目を閉じた瞬間に金星で目を開けたんです。もう少し成長したら宇宙船に乗せて連れてきてあげますよ」

（訳注Ⅱ人間が死んだ直後には、その実体である魂は平均三秒で別な新生児の肉体に生まれ変わるという。したがって霊界なるものは存在しないとスペースブラザーズはアダムスキーに教えているという）

そして彼はそれから三年後のクリスマスの頃に、約束したとおり彼女を（訳注Ⅱ金星に生まれ変わったメリーを）宇宙船に乗せて連れて来たのです。彼女は地球の年齢では三歳でしたが、見たところ九歳か一〇歳には見えませんでした（訳注Ⅱ金星は高次元な波動の世界なので人間の成長が非常に早いという）。彼女は私のことを良く知っていました。

私ははじめのうちは、これは彼女が（テレビショーで）私の心を読み取っているからではないかと考えまし

た。すると彼女が言うのです。

「いいですか、イエローストーン公園で私たちが体験したある事を、あなたはいま忘れていきます。それはあなたの心から完璧に取り除かれています」

つづいて彼女はその体験を私に語りました。するとそれは本当に私が完全に忘れていた事なのです。それを彼女は私の心に再び戻してくれたのです。

過去の事を思い出したくない

彼女はまた、自分の（地球での）事をあまり思い出してほしくないと語っていました。彼女は地球での生前の自分の事を私に思い出してほしくなかったのです。楽しかった事も悲しかった事も、とにかくあらゆる事を私に思い出してほしくなかったのです。その理由を彼女はこう言っていました。

「私はここで（金星で）学ばなくてはなりません。私はすでに金星で幼い子供たちを指導しています。もし私が地球で過ごした当時の過去の出来事にとらわれていたら、私のいまの学習はとも妨げられることになるのです」

そんなわけで、彼女は地球における過去の生涯の思い出を私とあまり語りたがりませんでした。

また、彼女はメリーの面影を明らかに残してしましたので、写真を一枚撮らせてくれと頼んだところ、きつぱり

と断られました。彼女はとても若かったのですが、地球時代のメリーと似ている特徴をいくつもそなえていたのです。想念波動を遮断する必要がある彼女が撮影を断つた理由は次のとおりです。

「写真はやめて下さい。私がつと成長して精神的にはるかに強くなったならば撮ってもかまいません。実はその写真をあなたが見るたびに、あなたの想念波動が私に届きます。そうすると私のいまの学習がひどく妨げられることになるのです」

そんなわけで彼女は写真を一枚も撮らせてはくれませんでした。私はその後、その同じ宇宙船で金星旅行に連れて行ってもらいました。そのとき私は金星に行つて、そこで五時間をすごしています。その旅行は私にたちこちを見学させるためのものではなく、私を彼女の両親と合わせるためのものでした。

私は彼女の若い両親に会いました。彼らは地球の我々と同じように暮らしていました。彼らも食べなくてははいけませんし、眠る必要もあります。なぜなら彼ら（金星人）も我々と同じ人間であるからです。彼女はその両親の初めての子供でした。

メリーとの二度目の再会

そして今からほんの一年半ほど前に

私は彼女と再会しました。当然ですが彼女はものすごく成長していて、我々が地球で用いている時間で言えば一四歳なのですが、一八〜九歳には見えませんでした。

ご存じのように、女の子で成長する過程で見せる容姿の変化には驚くべきものがあります。彼女のそれも例外ではなく、その結果、彼女は顔も体型も地球で生きていた頃とそっくりになっていました。もちろん違う点も少しはありました。ほんの少しだけです。ですから、地球時代の彼女を知っている人なら、一マイル先からさえ彼女を見分けることができるでしょう。成長した彼女を前にして私は言いました。

「一九五四年に亡くなったあなたが、今こうして一四歳になった。私は地球であと二〇年は生きるかもしれない。そうすると私が死ぬ頃には、あなたは地球の年齢で言えば三四歳になっているわけだ。私は、あなたがそんな歳になつてから生まれ変わるわけか。」

よし、今すぐに死んで金星にすぐ生まれ変わったとしたらどうだろう。いや、それでもあなたを妻として迎えることはまず無理だろうね。どうだろう、私をあなたの夫として迎えてはくれな

いだらうか（笑い）」

もちろんこれは冗談でした。まあ、彼女の知人にはなれるでしょうがね。問 彼女の息子になるという手もある

のではありませんか。

ア ええ、可能性はありますね。でもまあ、知人になるのが間違いのないところでしょう。いずれにしても地球での私たちの夫婦関係が次の生涯でもくり返されることはあり得ないわけですよ。

死後に残るのは 残留想念のみ

さて、このメリーとの再会は私にとって輪廻転生というものが明らかに存在するということが、そして我々は必ず肉体とともに生きることになるということの完璧な証明でした。

ジャック・マホーニーもこの事を確実に信じていました。私が（金星での）メリーとの再会のことを話したら、彼は次のように言っていました。「これまでは今一つ確信が持てなかったけれど、これで完璧に信じられる。おそらくそうだろうと、ずっと考えていたんだ。これではつきりしたよ」

人間は（死後に靈魂のままで）どこにも漂つたりはしないのです！ 漂うのは残留想念です。残留想念波動は、人間が死んで他の惑星に行つた後、あるいは地球の別の場所に生まれた後も、特定の場所に延々と漂っていることがあります。

たとえば、ある家に住んでいた家族が、そこで地上の地獄をつくりあげたとしましょう。意味は分かりますね？そしてその家はやがて住む人がいなく



●カナダ・オンタリオ州のUFO

1973年6月のある日の昼下がり、一人のセールスマンがお客さんの家の裏庭で話していたとき、奇妙な飛行物体が接近するの気づいた。彼は車の中からカメラを取り出して連続7枚写真を撮った。これはその内の1枚。物体は頭上を越えて遠くへ飛び去った。 ©日本GAP

なつて空き家になりました。

つづいて数カ月してから皆さんのなかの誰かがその家を借りることになつたとしましょう。するとその人がかなり敏感であるならば、その家に住んでいた人たちが残して行つた、ひどい想念を感じるようになるのです。これが残留想念です。

あなたは、そこに住んでいた人々の姿さえも見る事ができるかもしれませんが、それも言うなれば想念体です。以前に住人が残して行つた想念が形を持ったものに見えるわけです。そもそも人間自体が活動する想念体ですから、残留想念が形となつて見えたとしてもなんの不思議でもありません。

(訳注)これはいわゆる幽霊現象を意味する。幽霊が見えた場合、それは死者の「靈魂」が来たのではなくて、死者の残留想念が敏感な人にキャッチされ、観察者の内部の何かの特殊な感覚によつて映像化されることを意味している。したがつて幽霊が見えるという場所に数名が行つても、見える人と見えない人との差が生じるのである)

想念が形あるものを作り出す

創造主は、何かを創造するためにはまずそれに関するアイデア(理念)を持つ必要があつたのです。アイデアは想念です。

つづいて創造主はそのアイデアを放

出し、それに対して「形を持つものになれ。被造物になれ」と命じました。分かりますね。

人間は思考することが出来なくなつたら、もはや人間ではありません。人間は何かを行なおうとするとき、常にまずそうしようと考へてから、それを行ないます。腕を動かすときも実際にそうする前に、人間は「腕を動かそう」と考へなくてはなりません。人間が表現するあらゆる想念が本人の肉体を活性化します。

そもそも人間は、創造主の理念の一つとして姿を現わしている「活動中の活性化した想念」にほかならないのです。そして創造主は物質を通じてしか活動出来ません。つまり創造主は、自身が活動するためには何か形あるものを持たなくてはならないのです。

皆さんが美しいメロディーを奏するために楽器が必要ですが、それと同じことです。皆さんが内面の思いや感情を音楽にして表現するためには、楽器が必ず必要になるわけです。

人間は永遠に学習を続ける

問 ということは、常に二重性が存在するということですか。

ア そうですね、物質と「意識」が存在するわけですから、そういうことも言えるでしょう。でも一度その二つの関係が心によつて理解されたならば、

それらは融合することになり、そうなればもはや二重性は存在しないと云つていいでしょう。そこには、いかなる分離もなくするわけですからね。

問 ではどちらが私たちに永遠の生命を与えているのですか。

ア ?

問 一つの肉体の中でです。

ア ?

ア ああ、そういうことですか。いや、違います。そうですね、このように考へたら分かりやすいかもしれません。

無数の教室を持つ学校があるとしたましよう。それぞれの教室にはそれぞれ制服があります。そしてその中の一つの教室での学習を終了した人間は、それまでの制服を脱いでそこに残り、次の教室へ入つて新しい制服を身につけることとなります。そして本人はその持続的な学習のプロセスを延々とつづけることになるわけです。つまり、そのようにして皆さんは次々と新しい肉体を得ながら持続的に学び続けるのです。

問 そのようにして私たちは、いわば教授になることを目指すわけですね?そして、もし教授になつたとしたら、もう生徒たちのように制服を着る必要はないわけですね?

ア いやいや、教授というのはたんな

るラベルにすぎません。たとえば、私があなたに何かを教える立場だつたとしましょう。ところが、たとえそうではあつても、実質的には私はあなたの教師などではないのです。

私はあなたがこれまで理解できていなかった事柄について説明し、あなたにそれを理解させるかもしれませんが、でも同時にあなたは私が一度も持つたことのない疑問を起こして、それに関する質問を発してくるかもしれません。そのときあなたは、それによつて私に何かを教えたことになるのです。言いかえれば、私たちはどちらも常にお互いに教師なのです。

物事が信じられるのは、過去にそれを学んだからである

それからこんな事も言えます。たとえば、私のような人間が——もちろん誰でもいいのですが——まあ、私のような人間が皆さんの知らない事柄を話して、それを皆さんが理解したとしても、私は実質的には何も教へなかつたということも言えるのです。

そのとき私は、皆さんの心に注意を促して、皆さんがすでに知っている事柄に関する皆さんの記憶を呼び戻したにすぎないのです。それは遠い過去に学んだ事柄の記憶です。

我々はいつともそういうふうにして居るのです。そのようにして常にお互いの記憶をよみがえらせ合つているので

す。皆さんが他人から何かを教わって、それを正しいと信じていることが出来るのは、その事をすでに皆さんが（過去に学んでいて）知っているからなのです。また、もし皆さんが私の話を理解出来なかつたり信じられなかつたときでも、「筋道があるように聞こえる」とか「その可能性はある」という感想をいただいたとしたら、そのとき皆さんはすでに内奥の記憶の扉を開きつつあると言えます。

問 私はいま完璧な達成についてお尋ねしているのですが。

ア 完璧な達成？ そんなものは存在しません。理由を言いまししょうか。完璧な状態に達するということは、完全に停止した状態に達するという事です。もしあなたがそこに到達したとしたら、あなたにはもう何も学ぶべき事はありません。しかも停止した状態が存在できるものは何一つありません。そうなつたら待つているのは崩壊のみです。

別な言い方をしましょう。実は創造主自身も常に学びつづけているのです。彼は決して学ぶことをやめません。だからこそ決してトシをとらないのです。

肉体は想念のとりこになる

こんなことも言えます。もし人間が想念であるならば、新しい想念は、本人が古い想念にしがみついているのではない限

り、次々と新しい肉体を作りあげられるのです。しかし、人間が古い想念にしがみついている限り、肉体はアツというまに老化してみすばらしくなってしまう。新しい想念の自由な発想を常に許している限り、人間は想念体です。だから、肉体は常にその新しい想念によつて造られて若さを保つことが出来るわけです。

万華鏡をご存じですね？ 万華鏡の中に二つの物を入れてそれを回したとしましょう。すると、その二つの物の組合せで次々と新しい模様が作り出されます。これが新しい想念に相当するわけです。そして同じ模様は二度と現われてきません。似た模様はありますが、しかし完璧に同じ模様はけつして現われません。たとえ何度それを回しても、そのつど全く新しい模様が現われます。創造主も同じようにして常に新しい想念を得つづけています。創造主の万華鏡の中には、陰と陽の原理、あるいは男性原理と女性原理が入っています。創造主はそれを回しながら刻々と変化するその中の模様を楽しんでいるのです。

そして創造主は新しい模様が現われるたびにそれを吸収しつづけます。言いかえるならば、新しく現われる模様がその瞬間の創造主自身であるのです。しかし創造主はそれにしがみつきます。それはすぐに通りすぎて行き、その後に全く新しい次の模様が登場し

てきます。創造主はそのようにして常に新しい若々しい生命の中にいるわけです。

創造主は永遠に機能する様子を眺めつづけているのです。常に新しい創造がなされており、それを見るのは創造主にとつてもワクワクした体験です。完全に停止しているものなど何一つないのです。

そしていわゆる停止または静止という状態は、動きが速すぎるために、それを我々が感知できない状態にほかなりません。

真の瞑想とは何か

何かがきわめて活発に動いているとき、我々の感覚器官は——ときには装置類でさえ——その動きを感知できないことがあります。そんなとき我々はその何かが完璧な停止の状態にあると錯覚する傾向にあるのです。

瞑想を行なっている人々の多くも同じ錯覚におちいつています。彼らは完璧な静寂の中に入ろうと努力しますが、そんなことは到底無理です。心に考えることをやめさせることなど絶対に出来ないのです。

皆さんが瞑想しているとき、実際にはこんな状態にあるのです。そのとき、皆さんの個人的な興味や願望などは、すべて心から排除されています。つまり、そのとき皆さんの心はニュートラ

ル（中立）の状態にあるわけです。

そして実は皆さんの心がニュートラルな状態になるとともに、皆さんの心のスクリーン上を無数の想念が通過し始めるのです！ そのとき皆さんは、それらの想念を自分が観察できないからといって気にする必要はありません。それらの想念はとつてもないスピードで通過して行くのですから——皆さんは心はそれらのすべてを捕らえることが出来るように仕込まれてはいません。ですから、それでよいのです。どんどん通過させてしまつてよいのです。

ただ皆さんはそのときに皆さんが認識する必要のあるいくつかの想念は、うまく捕らえることができます。なぜならば、それらは通過するスピードをほんの一瞬ではありますが、そこで立ち止まることさえするからです。そしてもちろん、それらの想念もすぐに立ち去つてしまいます。これが真の瞑想です。

想念を送り出す創造主

問 それらの想念を送り出しているのは誰なのですか。

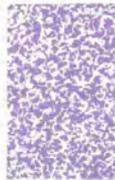
ア 前にもお話ししましたように、もし皆さんが呼吸をしなかつたとしたら、それらはやって来ません。それらは生命の息に乗つてやって来るのです！

（以下次号）

ユネスコ村UFO写真展とUFO観測会



▲上は恐竜館2Fの写真展会場。下は狭山湖畔広場での観測会。寒風のなかを震えながら上空を見つめていた。
撮影/久保田八郎



▼観測会終了後の記念撮影。このとき上空に白くて丸い物体が飛ぶのを2人の女性が見たという。
撮影/久保田八郎

去る三月一日(日)埼玉県所沢市のユネスコ村大恐竜探検館の二階で二月七日から開催中のUFO写真展の見学ツアーが実施された。この日は晴天なるも強風の吹きすさぶ寒い日だったが四〇名を超える日本GAP会員が参加。

まずプレビューシアターで地球の誕生や恐竜の発生等の映像を見たあと、ライドというポットに乗って約二五〇頭の等身大恐竜の模型を見学。まるでジュラシックパークそのものの大迫力を満喫してから二階の展示室のUFO写真展を鑑賞。ここにはビデオコーナーもあり、パーフェクトTVに出演した久保田先生のビデオその他が上映されていた。また日本GAP発行の本誌やアダムスキー全集の閲覧コーナーも設けてあり、関心のある人たちが興味深そうに読んでいた。一階から展示室に続く階段には「日本GAP主催UFO

写真展」と大書された垂れ幕がかかり、またユネスコ村で製作した五千部のUFO写真展のポスターが西武線電車の車内広告として貼られていた。ユネスコ村側の発表によると、二月七日から三月一日の最終日までの入館者は約三万五千人に達したとのこと、このほとんどは写真展も見たいと思われるから絶大な効果があったと言えるだろう。会場に用意した日本GAPのアンケート用紙も過去最高の数百名の方に回答して頂き、資料請求の熱意ある態度がうかがわれた。久保田先生も途中から来場されて写真展を感慨深そうに見ておられ、会場をみずから撮影しておられた。

●六月二日より八月二八日まで埼玉県「浦和市民ギャラリー」。
●お問い合わせは〇三―五九九七―〇七三〇西川まで。
写真見学会後、ユネスコ村から徒歩一〇分の人造湖狭山湖畔の広場でUFO観測会を実施した。久保田先生をお招きしての観測会は五年ぶりの行事。約四〇名の参加者は先生の指導のもとに空を見上げながらカメラ、双眼鏡等をかまえて各自観測を開始。
ここは広大な敷地のため強く吹き荒れる寒風を防ぐ場所がなく、寒さに震えながらの観測であったせいか、テレパシーによる呼びかけが不十分であったらしく、約五〇分に及ぶ観測会は不発に終わった。先生によると、スペースイプシロンの方々は多忙であるので、呼びかければすぐに出てくるというものではないから、出現がなくても失望せずに根気よく各自で観測をつづける

ことが望ましいということだった。最後に先生がプロローニーカメラで全員記念写真を撮影されたが、そのとき整列していた参加者中の川部光代さんと田中慶子さんが、上空の青空に丸くて白い物体が飛んでいるのを目撃した事実を一同は後になって知った。やはりUFOだったのだろうか。
終了後、全員は西武球場前駅にて解散。二五〇六名の希望者だけで池袋へ出て駅近くの「天狗」で夕食会を開催。実に楽しいひとときを過ごした。
本部署員 西川 太



盛況！UFO写真展

日本GAP黎明会主催のUFO写真展は各地で開催されて好評を博しているが、去る1月17日より21日まで神奈川県川崎市の宮前区民会館ギャラリーで開催したUFO写真展は大成功であった。右はその詳細報告。市民の熱意がわかる。



★この開催期間はわずか4日間であったにもかかわらず、延べ715名の来場者があり、その反響の大きさに主催側の黎明会一同は非常に驚いている。特に会場で配布したアンケートの回答で日本GAPの詳細な資料を希望する人が多く、市民のUFO問題に関する関心の高さに感銘を深めた。結局UFO問題は一般人の興味の対象なのであって、いつの日か全国民の、全世界の常識となることが予想される。日本GAPは時代を先取りした先駆的役割を果たしたことがいつか一般に知られるようになるだろう。今後も可能な限り多くの地域でUFO写真展を開催して啓蒙活動を推進するべく、日本GAP黎明会一同は張り切っている。開催に際してご配慮を頂いた会場関係の方々に深謝致したい。 加藤純一

日本GAP 埼玉支部 誕生！

このたび久保田会長のご承認により有志一同結束して埼玉支部を設立致しました。私達は久保田先生を絶対的に支持する本部直結型の支部として大成することを旨として活動を展開します。埼玉地区の方はお気軽にお越し下さい。一同あたたかくお迎え致します。

- 支部代表 会田裕子／副代表 西川 太
- 第1回セミナー 1998年5月17日(日) 午後1:30～4:30
- 会場 埼玉県浦和市高砂3-1-4
埼玉会館 ☎0492-81-4267
- 交通 JR京浜東北線「浦和駅」西口より
県庁通りを直進徒歩5分。
- プログラム 1:30 東京月例セミナーにおける久保田先生の講演ビデオを映写、拝聴。
3:00 テレバシー開発練習。
3:30 UFO関係ビデオ映写または会員講演。
4:00 久保田先生の質疑応答のビデオ映写。
4:30 閉会。
5:00 浦和駅近辺で希望者による夕食会。
- 参加費 ￥1,000
- 連絡先 会田裕子 ☎0492-81-4267



▲埼玉会館と会場



UFO contacteeバックナンバー主要記事

★バックナンバーは101(中間欠) 105(中間欠) 107以降各号の在庫あります。バックナンバーのみ1冊¥700、送料不要、代金後払い可。ハガキに号数、住所(7ケタ郵便番号共)氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から130号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さればお送り致します。

No.140 1997年(平成10年)1月25日発行 ¥700

火星には大都市があるか! 秋山真人
NASAによる火星探査報告の欺瞞性 杉山敏樹
ホワイトサウンズUFO搭乗事件② ダニエル・フライ
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類① 小山洋一
UFO目撃日記② 加藤純一
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ③ G・アダムスキー

No.139 1997年(平成9年)10月25日発行 ¥700

重大極まりないUFO問題 久保田八郎
ホワイトサウンズUFO搭乗事件① ダニエル・フライ
UFO目撃日記① 加藤純一
宗教とUFO問題のはざま 平田泰介
偉大なアダムスキー哲学 高梨十光
UFO目撃のメッカ、ニューメキシコ州 久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ② G・アダムスキー

No.138 1997年(平成9年)7月25日発行 ¥700

火星人に会った男 久保田八郎
コニストン円盤事件の現地を訪ねて 高橋 徹
異星人女性との不思議な出会い ミッシェル・ジルジェ
UFOの磁気モーターの謎を解明 遠藤昭則
宇宙の使者 加藤純一
宇宙哲学で生き運命をつくる方法 久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ① ジョージ・アダムスキー

No.137 1997年(平成9年)4月25日発行 ¥700

UFO類出のデザートセンター 久保田八郎
私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た 中里信彦
空中に不思議なサインが出現 加藤純一
宇宙の真実を語るアダムスキー 肥後哲也
ケネディー大統領はドイツに転生? 久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法 塩谷信男
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完) G・アダムスキー

No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<?> 久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法 塩谷信男
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす! 会田晋一郎
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性 小山洋一
江戸川区のUFO 大根田匡史・岡田茂
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完) G・アダムスキー

No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1> 久保田八郎
イエス出生の謎を探る 遠藤昭則
アダムスキー哲学を实践して奇跡的に病気が全快 西坂安信
オレンジ色の光体を目撃 堀下一郎
東京上空の細長い物体 藤原敏子
素晴らしい宇宙哲学講義 佐藤 彰
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法③ G・アダムスキー

No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異的真相 久保田八郎
真実であったアダムスキーの体験 G・クレイトン
秋田で巨大円盤を目撃! 加藤純一
東京タワー上空の大母船 遠藤昭則
ロスウェル事件の真相はこれだ
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問 遠藤昭則
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法 G・アダムスキー

No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった 久保田八郎
私の宇宙哲学実践とUFO目撃 加藤純一
懐疑論者から支持者に転向 J・ローリーノ
アダムスキー哲学と波動感知法 林 国宜
創造のための宇宙哲学 佐藤 彰
宇宙の夢とUFO目撃 吉川美香
カルナの意味 林寺正俊
東京大地震は近未来に発生しない 秋山真人
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法 G・アダムスキー

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性 秋山真人
イエスの時代を透視する 遠藤昭則
奇跡を起こすイメージ療法 原 永倉
宇宙船の形態に関する一考察 遠藤昭則
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学 アリス・ボマロイ
好評、名古屋市の講演
東京造形大学で講演

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP 久保田八郎
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現! 加藤純一
私もワシントン市でUFOを見た! 清水 正
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか 植木淳一
アダムスキー大会を思う 岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
熱烈な呼びかけに応えたUFO 石井一江
私のUFO目撃と宇宙的な生き方 忍田裕昭
宇宙時代の夜明け 村上博一
人間の实体・意識・テレパシー原理 G・アダムスキー

No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 ¥700

M氏の「UFOと異星人」体験 久保田八郎
アダムスキー型UFOの飛行原理を解明 遠藤昭則
超能力者ティナの驚異的パワー 久保田八郎
異星人女性との出会い 佐々木八郎
スペースビープルを見かける私 原垣内良子
透視・臨死体験・不思議な女性 千葉福彦
白山のUFO 沼倉孝彦
父と従兄が「UFO」目撃 高橋克彦
人間の实体・意識・テレパシー原理 G・アダムスキー

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 ¥700

地獄の大地震からの奇跡の脱出 平塚和義
大地震を前夜予感した私 西村悠子
偉大な教訓となった大地震 田辺健司
ロスで見かけた異星人女性 加藤純一
アダムスキーの大地を訪れて 黎明会有志
巨大母船、安比高原に出現! 秋山和広
サイコメトリーによる書物の質の感知法 林 国宜
UFOの速度・肉体と魂・
真の科学・長寿法 G・アダムスキー

●日本GAP主催第18回海外研修旅行

メキシコ・マヤ遺跡の旅

企画・日本GAP/旅行手配・株スバルツーリスト

謎の種族古代マヤ人の
宇宙的な文明の跡を訪
ねる7日間感動の旅!



★期間＝1998年8月13日→19日(水)7日間

★費用＝¥498,000

日本GAPは1979年夏に第1回海外研修旅行を実施して以来、昨年のイスラエル聖地遺跡の旅で計17回となりました。今年も第18回目のメキシコ・マヤ遺跡見学の高レベル実施します。謎の種族マヤ人が築いたメキシコ・ユカタン半島のピラミッド群や各種の神殿等の建立目的は不明のまま謎を秘めた。都市で古代の概念を待た、その認識を行ない、祭壇に昇進したその偉業は来る迄に伝説にのみまよ、来る日突然消えながら姿を消します。何度見ても飽きのこない妖しい魅力に満ちたマヤの古代遺跡群に驚異の目を開き、偉大な過去に思いを馳せる絶好の機会です。

さらに都市部ではレストランでエキゾチックなメキシコ民族音楽マリアッチやハロッチョ等のライブ演奏を、独特なメキシコ料理とテキーラやマルガリータで喉をうるおしながら鑑賞。今回で5度目になるメキシコ訪問はこれが最後。さあ大勢で押しかけましょう!

この旅行はメキシコに詳しい日本GAP久保田八郎会長と株スバルツーリストの大ベテラン小林俊雄社長が同行し親身の世話をします。休暇の取りやすいお盆休みを利用するため航空運賃の高い時期ですが、極力押さえて安く設定しており、宿泊施設も一流のデラックスホテルばかりで優雅で上質。昨年のイスラエル旅行同様の日本GAP独特の調和と感動と歓喜に満ちた旅を満喫できます。

▲テオティワカンの大陽のピラミッド。
撮影/久保田八郎

▲テオティワカンの太陽のピラミッド。
撮影/久保田八郎

▼上はバレンケ遺跡の碑銘の神殿ピラミッド。
下はウシュマル遺跡の魔法使いのピラミッド。

撮影/久保田八郎



★日程

- 8月13日(木) 夕方日航機で成田発、空路バンクーバー経由でメキシコ市(首都)へ。
ガイドさんの出迎えを受けてホテルへ。
- 14日(金) 専用バスでメキシコ市内見学。ティエゴのマリアの奇跡で名高いグアダルペ大寺院、ソカロ広場、レフォルマ大通り、その他を観光。午後は70キロ北のテオティワカンの太陽のピラミッド、月のピラミッド等へ登頂。
- 15日(土) 早朝空路ユカタン半島のピリャエルモッサへ行き、ジャングルに残る壮麗なバレンケの遺跡を見学。専用バスで一路カンペチェへ。
- 16日(日) マヤ古典期後期を代表するウシュマル遺跡の魔法使いのピラミッド、尼僧院(ただし誰もいない)、総督の宮殿、金星の神殿等を見学。午後はカパー遺跡の板面の神殿等を見学してメリダへ。
- 17日(月) マヤ古典期最大の遺跡チチェンイツァのピラミッド、戦士の神殿、古代の球技場、いけにえの泉、カラコル(天文台跡)遺跡を見学。
- 18日(火) メキシコ市より空路バンクーバー経由にて帰国の途に。
- 19日(水) 成田空港着。お疲れさまでした。

★案内書

この旅行は日本GAP会員またはその家族知人ならば誰でも参加できます。詳細案内書を無料でお送りしますから、希望者は下記へハガキに「メキシコ旅行案内書送れ」と書いてお申込み下さい。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP ☎03-3651-0958

Letters

ユーコン広場



本部の大活躍に敬服

鹿兒島支部代表 曾我部勇人

毎回の月例セミナーにおける久保田先生の御講演内容、「意識の声」、ユーコン誌等、これらは先生と本部役員の方々の並ならぬご努力の結晶と思ひ、一字一句の波動をも大事にし、学び、吸収致したく思っております。

昨年の総会には鹿兒島支部より三名にて参加させて頂きましたが、私は八年ぶりの総会にて多くの感銘を受けました。台風一九号が九州南部を直撃しましたために、黎明会の加藤氏のお宅にお世話になり、先生の人格的薫陶を、氏の実直さ、誠実に拝見させて頂きました。並ならぬ厚遇を受けました。

もう少し早く御報告、感想文、礼状をと思っておりましたが、帰宅後の多くの環境の変化を迎えまして心の整理に時間を要しました。しかし東京総会で得られました多面にわたる波動的恩恵にて多くの好転現象を体験致しました。妹共々、先生と日本GAPの存在に感謝する事でした。今後は鹿兒島の会員全員で総会に出席できますこと、イメージしつつ、海外研修旅行に参加できるよう再度イメージしつつ、久保田先生と全国の誠実なGAP会員諸兄姉の御多幸をお祈り致しますと共に日本GAPの大発展と地球世界の宇宙の向上を祈念致します。

投稿歓迎字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

会長の偉大な信念の力に感服

伊豆支部代表 高梨十光

昨年の日本GAP総会のご盛会、おめでとうございます。多忙ゆえに御礼がここまで遅れましたことをお許し下さい。

久保田先生のご講演を拝聴し、心の底から感動いたしました。数々の貴重なご指導を賜りましたこと、誠に有難く厚く御礼を申し上げます。久保田先生のお力の偉大さに感服致しております。特に「信念の力」は他の追従を許さぬほどです。久保田先生のご指導は、宇宙哲学を学ぶ生徒の光明となっております。今後も最善を尽くしますので、倍旧のご指導とご鞭撻のほどをお願い致します。

総会の素晴らしい講演

大阪支部会員 井原啓子

昨年のGAP総会の久保田先生による素晴らしい御講演をありがとうございます。アダムスキー氏が言われているように、日常生活に宇宙哲学を生かして楽しく過ごせるように、これからも肩を張らずに謙虚に続けたいと思います。これからも御指導を宜しくお願い致します。

いつまでも若々しく御元気でいてください。直之(二一歳の長男)が、お嫁さんをもらうまでは

是非！お元気でいて下さい。遅くなりましたが、写真を同封致します。

主人、直之より宜しく伝えて下さいますこと。乱筆乱文にて。



▲昨年9月14日、都内港区芝公園の機械振興会館で開催された日本GAP総会後のパーティ会場にて。左より大阪支部の井原嘉彦氏、平塚和義元大阪支部代表、久保田会長、カン・ビュン・キユウ法学博士(韓国UFO総連合会会長、日本GAP会員)、橋本健理学博士。撮影/井原啓子

宇宙開発で経済の活性化を

神奈川県 矢嶋輝夫

最近の不況で感じていることは、アダムスキー氏が言っていた「これまでの経済システムは、不況になると戦

性のある解決策がなくて、私も何かいい方法がないものかと常々考えていました。

湖沼や河川の汚染も二〇数年前から一部の業界では問題になっていましたが、最近まで有効な手がほとんど打ってませんでした。ここ数年になってやっと少しずつではありますが水質改善の効果が出ています。

先月、環境問題について書かれた本を読んで、アメリカでは水質改善技術として、NASAが宇宙開発の中で、水をリサイクルさせる技術を開発させましたが、その最先端の技術を使って湖沼等の水質浄化に実効をあげているのを知りました。これはまさにアダムスキー氏が言っていたそのものじやないかとショックを受けました。限られた宇宙船の中で長期間過ごすとなると、否応なしにリサイクルの技術を完成するしかなく、地球のエネルギー、食料、ゴミ等の問題は、宇宙開発を進めることで、きつと解決できるの思いを一層強くするとともに、アダムスキー氏の偉大さをあらためて感じている次第です。

太陽のように輝きながら前進を
岐阜県 大谷和枝

このたびも「意識の声」九一号をありがとうございます。大変な御苦労の上にGAP活動がなされていらっしゃる。ということがよくわかりました。ますます励まされます。

先日、失念から立ち直った若い女の子の患者さんからお手紙をいただきました。それで、お礼に久保田先生のお言葉「太陽のように輝きながら前進しよう」の文を教えさせてい



▲ヒーリング写真「調和」

今回の作品は見るだけで心が穏やかになり、調和の気持ちがわいてきます。一番後ろのバックは土星をイメージしたものです(作者)。
撮影/金丸直司(北海道)

ただきました。退院された後も一つの指針となることでしよう。ありがとうございました。ありがとうございました。

宇宙の実態を把握しよう

東京 真籠義雄

いつしか窓外は春分を迎えました。昨今ですが、愈々ご活躍の様子に洵に大慶に存じます。

先日御願い申し上げて居りました UFO等に関します情報等につきまして、このたびご繁多の処、種々の資料をご恵送頂きまして洵に有難うございました。

之迄一つの興味本位より種々の宇宙関係の書類を拝見致した所でしたが、先日貴方様が訳された所のダニエル・ロス氏著「UFO—宇宙からの完全な証拠」の本を拝読し、非常に感激致しました。ご立派な内容で

あり、邦訳技術がわかり易く、丁寧で、そのご足労に感激致しました。一応日本GAPに入会させて頂き、この神秘的な宇宙の一端を少しでも真実に把握致したいと切望して居りますので、よろしくご指導賜りますことを御願い申し上げます。又、アメリカの「超人アダムスキー」(全集第一〇巻)も購入致したく、近く申込みをと考えて居ります。

私達日本人もよく目覚めて、この宇宙の真実な実態を把握し、生涯を打ち樹てることが今後の使命と痛感して居ります。今後共よろしく、指導下さいませ。先は取急ぎ御礼方々入会申込み申し上げます。

二伸 私は戦時中、陸軍航空隊(戦闘機)出身で永年活躍させて頂いて居ります。

不思議な光体を見る

京都府 児玉耐宏

ユーコン誌をありがとうございます。お忙しい中、私のために種々お手数を御掛けしたことを申し訳なく思っています。早速拝読しました。久保田様のみならず会員の方々も参加して作り上げられたユーコン誌を見て素晴らしいと思いました。これからもこの素晴らしいユーコン誌を眺め続けたいと思います。

さて、ユーコン誌が届いた翌日の晩、犬の散歩中に不思議な光体を見ました。六時三〇分から四〇分までの間です。それは明らかに飛行機やヘリではありませんでした。航空機灯火などはないので、物体そのものが光っていたのです。

光体は一定のスピードで動いていました。そして、しばらくしてからそれはスワツと消えました。私はなるべく即断を避けるようにしていませんから、最初は人工衛星かもしれないと思っていたのです。雲は出ていませんでしたが、消えたのは霧のせいだろうかと考えていました。

しかし一分も経たないうちに別の光体が現われ、最初の光体と同じコースを同じスピードで飛んで行きました。そしてやはり同じ場所が消えました。

そのあと飛行機が飛んできたのですが、光体が消えた付近を飛行しても霧で見えなくなると言うことはありませんでした。むしろ、はっきり見えたのです。このことから確信は持てませんが、あの光体は他の惑星から来た宇宙船かもしれないと思ひ始めています。

エーテルは存在するか

福岡県 大庭寛子

今回お手紙を書いておられますのは、質問があるからです。それはエーテルについてです。アダムスキーは生前エーテルについて少し話をしていました。本当のところエーテルは存在するのでしょうか。アインシュタインは光の法則を導くのにエーテルの存在を認めませんでした。宇宙は広がっているといふ科学者は言っています。それは光の赤方偏移でわかる

と言いますが、それだとエーテルの存在を肯定しているように思えるのですが、どうでしょうか。お忙しいと思いますが、アダムスキーがこのことについて何か言っていたら返事を下さい。もし今までの刊行されている本に載っているとおりならば返事はいいません。

答え アダムスキーはエーテルの存在を肯定していません。彼の物凄い知識は超絶的な進歩を遂げた異星人から伝えられていますから参考にするに足りるでしょう。

新刊紹介

素晴らしい本が出た。題して「ミラクルワールド」。これは久保田会長が多年実践して多大の効果をおげた奇跡を起こす反復思念法のごとて、筆者佐藤彰氏は東京造形大学教授で熱意ある日本GAP会員。本書には著者が起こした多くの奇跡の実例が述べられてあり、久保田会長の奇稿も掲載されている。書店には出ないので希望者は左記へ直接注文されたい。

〒一七三〇〇〇四 東京都板橋区板橋三一一六一四、東明社
定価一、一〇〇円。TEL 〇三三三九六一一三七七

ミラクルワールド

奇跡を呼ぶ秘訣

佐藤 彰

東明社

TEL 〇三三三九六一一三七七

ジョージ・アダムスキー—著
久保田八郎—訳

George Adamski

全面改訂・改訳
全10巻／各四六判

新アダムスキー全集



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

2 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四官をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

3 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

4 UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混乱したUFO研究界に解答と示唆を与える書

5 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

6 UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

7 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1000円十税）／四六判並製

●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

8 UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に世界する直前の最後の講演が圧巻！

9 UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

10 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

11 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2800円十税）／四六判並製

●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録を収録。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著 久保田八郎訳

定価（本体2718円十税）／四六判並製

●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した書。

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと
定価の10%引き+送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。


CHUO ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017 郵便振替：00180-5-66324

UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2500円+税) 送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルールの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたまる希有のノンフィクション。



UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1650円+税) 送料310円
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1650円+税) 送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFO・ 遭遇と 真実

—日本編— 久保田八郎著

定価(本体1500円+税) 送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り、ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



CHUJO ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017 郵便振替 00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 12 日本GAP

B 5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190 (No. 1~3は品切れ)

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかわら、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体にしたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の疑念回答も連載しています。No. 12には日本語版 No. 137に掲載された「UFO頻出のデザートセンター」の英文記事が写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙でご送金下さい。



From The Editor
編集後記 § § §

●本号には冒頭にかなり古い事件を掲載しましたがUFOは依然として出現し続けているのです。しかも都内でもさらに目撃されているのです。そのような実情を伝える唯一の専門誌が本誌です。興味本位を極力排除して真面目に実情を伝えるように努力しています。

●ホワイティングの事件も佳境にはいり、UFOの推測理論やテレパシー能力開発等に関する重要な示唆を与えています。特に後者は新アダムスキー全集第二巻「テレパシー開発法」と全く同じ事を述べています。あとは読者の実践いかんにかかっています。

●異星人という概念を容易に把握しがたいでしょうが偉大な進化をとげた別な惑星から来ているというのが真相のようです。そして彼らの超進歩的な飛行物体がUFOと呼ばれるというわけです。詳細は新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」に出ています。一読の価値はあるでしょう。日本GAPでも取り扱っています。代金後払いでお送りします。巻末の広告員をご覧ください。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 夏季号
UFO contactee 141号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒130-0044東京都江戸川区本一色1-12-13

TEL 03-3651-1095

FAX 03-3651-0958

振替 00140-2-35912

一九九八年四月二五日発行

定価九四〇円(本体九〇〇円)・送料210円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※本年5月のみ第2日曜日の10日に変更。 会場も6階67号室に臨時変更。 ※7月も会場のみ6階67号室に臨時変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3階第2研修室。 ☎03-3434-8211 JR 浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会 場 費 ¥1000 セ ミ ナ ー 受 講 料 ¥1500 計 ¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長が能力開発 講義「生命の科学」 3:25→5:00 超能力の不思議/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムス キー全集、GAPグッズ等を販売。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※大阪支部は平塚和義代表が超多忙のため代表を辞任したので、後継代表が見つかるまで4月よりしばらく休会とする。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR 新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代) JR 東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国直 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
北海道支部	毎月任意日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	札幌市中央区北2条西7丁目「かでの2・7」(道民活動センター)研修室(北大付属植物園前、北海道警察本部横) JR 札幌駅徒歩7分、地下鉄札幌駅または大通駅徒歩7分。 連絡先=高野省志=011-783-6393	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市民文化会館」 ☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2-2 ひと好文カレッジ小集會室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時に変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第2日曜日に変更 午後1:00→4:00 ※日時に変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977 福山駅より徒歩3分。 連絡先=塚田(なつめだ) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上
埼玉支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	埼玉県浦和市高砂3-1-4「埼玉会館」 ☎048-829-2471 JR 京浜東北線「浦和駅」西口より県庁通りを徒歩5分。 連絡先=会田裕子 ☎0492-81-4267	¥800	同上



オーゾン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウエルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ガイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード<超能力開発用>

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190

本誌綴込み用バインダー

このバインダー1個に本誌8冊(2年分)を簡単に綴込み可能。美麗背文字入り。背中に年号を書き込めば取り出しに便利です。

¥1,000 送料は1個~5個 一律¥800



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

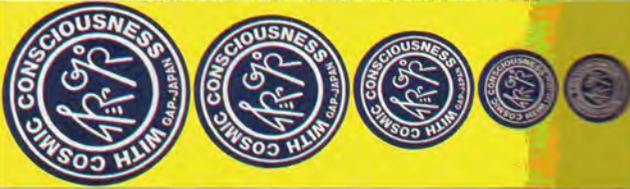
主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお返しします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておりますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 郵便振替=00140-2-35912

電話=03-3651-0958



日本GAP能力開発カセットテープ

●「生命の科学」能力開発テープ¥1500
送料1本¥160 計¥1660

日本GAP東京本部開催月例セミナーで久保田会長が98年4月から毎月行なう「生命の科学」解説講義と質疑応答を録音した2時間分カセットテープ。みずから「生命の科学」を実践して驚異的な体力と気力を保つ大指導者の雄大な宇宙的哲学と生き方に関する大講演をお聴き下さい。心が変われば人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約10日間を要します。

申込先

日本GAP



日本GAPビデオ

臨場感溢れる映像があなたを会場に引き込み宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS
●東京本日月例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容)久保田会長の解説講義、他、約10分
●日本GAP総会 全2巻各¥3000
(内容)毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分からは在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容)旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分からは在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語) 全1巻 ¥3000
(内容)1995年9月8日、久保田会長が英語で講演したためずらしたビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥800、2本以上3本まで¥700。

申込先

ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いも承ります) 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 伊東芳和 振替 00140-8-13811 電話 03-3351-8525

何とオーダーメイド!

秋山真人先生推奨



あなただけの波動器を作ります!!

■OVOマインドエンジンとは何か?

10年以上にわたる研究によりエソープ・ルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から「波動形態理論」を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤(核波動共鳴図形回路)を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少鉱石とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これが OVOマインドエンジンです。

■OVOマインドエンジン・直径37ミリ グラスプレート(9,800円送料・消費税込)

ミニピラミッドの連続体を刻んだグラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。(グラスプレートについては稀少鉱石はつきません。)



■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共 ルミナ波動レンズ(19,800円送料・消費税込)

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークウォーツ、レインボーライト、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。



■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ ヒーリング・コンディショナー(53,500円送料・消費税込)

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良くない波動を完全にブロックする(悪質波動と共鳴する回路の遮断)のために作成されました。イギリスにある100年以上前に建てられたゴーストハウス(幽霊の出る家)に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。



■OVOマインドエンジン フルパワーキット(127,000円送料・消費税込)

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス(エジプト)の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと、願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせて作動させることによってマル秘の活用法があります。



OVOマインドエンジンにできること!

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押しただいた後、ハガキに手、または足の指紋(どの指でも可)を朱肉かスタンプインキ(色は問いません)で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3~4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替で送金ください。

●郵便局：口座名義 オフィス江戸幕府
記号10120 番号36766381

●銀行：口座名義 オフィス江戸幕府
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F
株式会社オフィス江戸幕府
UFOコンタクトー OVO マインドエンジン 3 係

●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンセリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク(いやしを与えるアンティーク)の博物館(日本初)があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。(要電話予約制)

株式会社オフィス江戸幕府

〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F

TEL 03-3957-4999

FAX 03-3957-4940 TEL・FAX 24時間受付



●超稀少水晶、レコードキーパー・クリスタル、骸晶、レッドファントムクォーツ等、稀少鉱石を特別頒布します。詳しくはお問い合わせ下さい。